獨逸語大講座

第一卷

關口存男監修

Der Große Kursus

der

Deutschen Sprache

Band I.

Gaikokugo Kenkiuscha: Tokio

緒　言

◪ 本講義錄は全部私一個の方針で統一を畫りましたから、或は多少個人的な臭味はあるかも知れませんが、その代り、斷片的な中途半端な智識を排して、徹底的に勉學したいと思ふ人々の期待に反する樣な事は決してないと思つてゐます。

◪ これは或種の意味に於て私が現に法政大學の豫科に於てなしつゝある講義を其の儘公開したものです。時々脫線的な註釋や冗談が這入つて來るのは、それは決して讀者を馬鹿にした意味なのではなく、或種の重要な問題に關しては特に印象を深からしめんとする、我々チョークを持つて立つ種族の本能がさうさせるのですから何卒悪しからず。

◪ 第一卷は極度に啓蒙的にする必要がありました。既に英語を御存じの方には或は多少苦笑を禁じ得ない樣な說明が出て來るかも知れませんが、それは最初だけです。 後は漸次程度を上げて行きます。 同時に語學その者に關する諸種の根本的な問題をも機に應じて論じます。その點では、既に英語獨語佛語等を御存じの方々にも、諸種の有益な智識を授け得られると信じてゐます。

◪ 全六卷の豫定は斯うです。先づ第一卷から第四卷までに於て、ＡＢＣから始めて文法の最も詳細な講義を載せて行きます。（その目次は第一卷の卷末に附してある通りです。）そして、それと同時に、第三卷までは、私自身の作つた練習問題を卷末に附して、同じ單語を幾回も繰り返して用ひ、同じ語法を何度も應用する事に依つて、或種の基本的な智識を、少量ではあるが徹底的に吸收して貰ひます。 さうした後、第四卷末から第六卷に至るまで、極く容易な、好い獨逸語の讀物を、逐字譯にして講述します。逐字譯は必ずしも一つ一つ對照して讀む必要はないでせう。疑問が生ずるたびに見れば好いわけです。

それから、第四卷の Augustus といふ童話と、第六卷の Der stumme Ratsherr（無言の議員）といふ小說とには、逐字譯の外になほ詳しい註を附し

て、實際の文例にあてはめた文法の復習をやり、同時に、徹底的に原文を理解する上に必要な諸種の説明を施します。 かくの如くにして、 本講義錄の中に出て來る極く少量の原文が基礎となつて、苟しくも辭書を引いて原文を讀み始めるまでに知つておかなくてはならない、ありとあらゆる重要な原則法則が、全體を通じて讀んで行く中に何度も何度も違つた姿を以て繰り返され、其處には多少私自身のお得意やら癖やらがはびこつてゐるかも知れませんが、とにかくおしまひには必ず確乎たる基礎が出來て、それ以上はもはや一般的規則といふ點で意外な事には決して出會しないと云ふ程度にまで進歩するであらう事は私の信じて疑はざる所です。その代り一生懸命に讀んで貰はなくてはなりません。

◪ 啓蒙を主とした第一卷だけで判斷されては一寸困りますが、文法の部に於ては、舊來の文法に對する革命的な試みも隨所にあります。將來はいづれ徹底的な詳しい文法を築き上げようと思つて考へ貯へてゐた事を一部分此の講義緣で過早に發表してしまつた點も多々あります。それらはいづれ專門家達が公平な批評を加へて呉れるでせう。斯ういふ初學者達を相手にする講義錄に於てさうした專門的な野心を表面に表はしたといふ事は、學者達には或は非難されるかも知れませんが、眞に語學を愛する人達は必ずや諒として下さるでせう。私は皆樣を俗衆視することは出來なかつたのです。

◪ 既に申し上げた通り、私の文法講座を中心にして、或種の極端な我流で統一を圖つた講義錄ですから、お讀みになる方々の方でも、その心算で、何事にまれ、私の申し上げる事を守つて課程を踏んで頂く必要があります。卽ち、斷片の寄せ集めの樣な講義錄ではありませんから、最初から終まで、順を追つて丹念に讀んで頂く事、また一回又は數回の講義が終つて、「此の所で讀本の第何課を讀め」と云ふ指示があつたならば、本當にその部分を讀んで頂かなければなりません。 さうしないでゐて、 途中で混亂に陷つたからと云つて私に責任を持つて來られては困ります。つまり醫者と同じ樣なもので、好い醫者に附いて其の指示を無視するよりは、たとへ惡い醫者でも好い、その方針を徹底的に體して養生する方が結局は成績が上るとしたものです。もつともさう惡い醫者でも困るでせうが、私は少くともさう惡い醫者ではない事を保證して置きます。

◪ 特に斷はつて置きたいのは、發音のための振假名です。最初の發音に關する講義の部分に於ては、萬國發音記號を用ひないで、解りやすい振假名を採用しましたが、その後と雖も、此の第一卷だけは全部假名を振りました。けれどもそれは念のために振つたので、決して發音の部を好い加減に讀んでも構はないと云ふ意味ではありません。 萬國發音符も便利には便利ですが、大部分の人はその英語に於ける應用には慣れてゐるが、獨逸語となるとまたおのづから別で、その符號のためにまた二重の苦勞をすると云つたやうな事が多いやうですから、どうせ多少たりとも英語の心得のある人にならば、萬國發音記號だらうが假名だらうが、全部それに賴るのではなく、疑問が生じた際にそれを卽座に解決するための暗示に用ひると云ふ上から見れば結局大差はない樣に思はれますから、まづ最も樂な振假名を用ひたわけです。

ところでその振假名をどの程度にまで合理的にするかの問題ですが、これは、まづ今日普通に認められてゐる範圍にとどめ、いたづらに奇拔な新活字を使つたり、小さくしたり大きくしたりするのは止しました。殊に練習問題の方は、總假名を振る事になりますから、活字の小さなのをなほその上に小さくする事は、いたづらに眼を疲らせ、おまけに誤植を多くするに過ぎませんから、橫文字の下に振る方の假名はなる可く暗示的な程度の表現にとどめました。ti を「テイ」と寫してあるからと云つて、テとイとを別々に發音する樣なことは、既に發音の部を讀んだ人にはないだらうと思つたからです。

故に、特に希望して置きたいのは、發音の講義のしてある部分を通過する際に、序でにその假名使ひの樣式にも注意して頂きたいのです。さうすれば fut が「フート」と書いてあるからと云つて英語の foot と同じ發音だなぞと思ひ誤まる事はなくなるわけですから。

◪ ただ一つ斷はつて置きたいのはアクセント（强音）の問題です。 これぱかりは紙上ではどうしても完全に呑み込んで貰ふ事は出來ませんが、少くともその場所だけは指示する必要がありますから、假名では、アクセントの在る場所は平假名にしました。たとへば lach-en の場合、lach と en との二つの綴から成つてゐますが、lach の方が强いのだと云ふ印に、假名で「らっヘン」——小活字の際には「らツヘン」——と現はしました。また fa, ti, fchu 等、二字以上で一音を表はさなければならない際には、その母音を含む部だ

けを平假名にしました。(fa = フあ、ti = テい、fu = シゆ)

單綴の文字の場合は、母音の所が強いのは當然ですから、平假名は用ひません。たとへば Trat は、「トらート」と寫せば理想的ですが、なる可く平假名を避けたいと思つて「トラート」とすることにしました。

◇ 終に臨んで、此の、殆んど私一人の專制的な監修の下に、かなり窮屈な、面白くない、しかも非常に微妙な手心を要する逐字譯と註釋とを欣んでお引請け下さつた奥脇要一、多田基、河東涓、荒木茂雄、藤田榮、末吉寛の六氏に心から御禮を申し上げて置きます。これ等の諸氏はいづれも法政大學に於て毎日顏を合せてゐる同僚教授、もしくは私が抑々 ABC から教へて同大學の獨文科を卒業されるまで終始苦樂を俱にしてゐた諸君ですが、幸ひに私の乞を容れ、貴重な暇を割いて、しかも私のかなりむつかしい註文を呑み込んで協同して下さつた事は寔に感謝に堪へません。

昭和五年十月九日

關口存男識

第一講

文字に就て

1. **書體** 現在ドイツ人は二種類の書體を用ひてゐます。一つは英語と同じやうなローマ字、即ちラテン字で、もう一つの方は、例の角ばつた、キユツキユツした、所謂ドイツ字です。人は普通後者のみが專らドイツ字だと思つてゐるやうですが、事實はむしろ反對で、近頃は、殊に多少教育のあるドイツ人は、好んでローマ字の方を書きます。けれども、ドイツ字の方を尊重する國粹的傾向もかなり盛なやうで、最近何かで讀んだところに依ると、水兵帽の前の方の、軍艦何々といふ例の金文字も、近頃はドイツ書體に改まつたさうです。學問書や文學書でみると、兩方は、まづ半々と云つたやうなところでせうね。だから、ドイツ字の方は、必ず書けなくてはいけないと云ふ理由はありませんが、讀めるだけにはしておかなくてはなりません。

私の經驗によると、ラテン字よりはドイツ字の方が遙かに讀み好くもあり、また從つて速く讀める樣に思ひます。一たい文字といふものは、一つ一つ分解して讀むものではなくて、一瞥して其の凹凸の加減その他によつて直觀的に印象を受けると云ふのが理想的な狀態ですが、さう云ふ程度にまで讀める樣になると、やはりドイツ字の方が凹凸が激しくて印象に强く應へるやうな氣がします。皆さんも漢字を讀む時の印象を想像してごらんなさい、蓋し想ひ半ばに過ぎるものがあるでせう。

では次にラテン字 (Antiqua) とドイツ字 (Fraktur) とを紹介します。——本文に這入つてからは、ラテン字の方は多分英語の方で慣れてゐられると思ひますから、全部ドイツ字體で印刷する事にします。

字　母（アルファベート）

獨逸文字				羅典文字				字名
印刷體		筆寫體		印刷體		筆寫體		
𝔄	𝔞	𝒜	𝒶	A	a	𝒜	𝒶	アー
𝔅	𝔟	𝒷	𝒷	B	b	𝒷	𝒷	ベー
ℭ	𝔠	𝒸	𝒸	C	c	𝒸	𝒸	ツェー
𝔇	𝔡	𝒹	𝒹	D	d	𝒹	𝒹	デー
𝔈	𝔢	ℰ	𝒾	E	e	ℰ	𝒾	エー
𝔉	𝔣	ℱ	𝒻	F	f	ℱ	𝒻	エフ
𝔊	𝔤	𝒢	𝒾	G	g	𝒢	𝒾	ゲー
ℌ	𝔥	ℋ	𝒽	H	h	ℋ	𝒽	ハー
ℑ	𝔦	ℐ	𝒾	I	i	ℐ	𝒾	イー
𝔍	𝔧	𝒥	𝒿	J	j	𝒥	𝒿	ヨット
𝔎	𝔨	𝒦	𝓀	K	k	𝒦	𝓀	カー
𝔏	𝔩	ℒ	𝓁	L	l	ℒ	𝓁	エル
𝔐	𝔪	ℳ	𝓂	M	m	ℳ	𝓂	エム
𝔑	𝔫	𝒩	𝓃	N	n	𝒩	𝓃	エン
𝔒	𝔬	𝒪	𝒶	O	o	𝒪	𝒶	オー

𝔓	𝔭	𝒫	𝒻,𝒿	P	p	𝒫	𝓅	ペー
𝔔	𝔮	𝒬	𝓆	Q	q	𝒬	𝓆	クー
ℜ	𝔯	ℛ	𝓇	R	r	ℛ	𝓇	エル
𝔖	ſ, 𝔰	𝒮	ſ,𝓈	S	s	𝒮	𝓈	エス
𝔗	𝔱	𝒯	𝓉	T	t	𝒯	𝓉	テー
𝔘	𝔲	𝒰	𝓊	U	u	𝒰	𝓊	ウー
𝔙	𝔳	𝒱	𝓋	V	v	𝒱	𝓋	ファウ
𝔚	𝔴	𝒲	𝓌	W	w	𝒲	𝓌	ヴェー
𝔛	𝔵	𝒳	𝒸,𝒸	X	x	𝒳	𝓍	イックス
𝔜	𝔶	𝒴	𝓎	Y	y	𝒴	𝓎	イプシーロン
ℨ	𝔷	𝒵	𝓏	Z	z	𝒵	𝓏	ツェット
	ch		𝒸𝒽		ch		𝒸𝒽	ツェー・ハー
	ck		𝒸𝓀		ck		𝒸𝓀	ツェー・カー
	tz		𝓉𝓏		tz		𝓉𝓏	テー・ツェット
	ß		ß		sz		ss, ß	エス・ツェット

ch と ck との c〔ツェー〕には、一字きりで書く時のやうな鉤がないことがわかるでせう。以下、特に注意すべき事項を列記します。

2. **ſ [f] と ſ [s]**　此の二つはよく間違へます。此の講座を印刷に附するときの私共の大なる惱みの一つです。今度の印刷屋さんは大丈夫だらうとは思ひますが、大抵のときは、ドイツ語の校正がエスとエフとのために厭になるのです。こんな紛らはしい文字があるからドイツ字は嫌はれるんですね。

でも既に私共のやうな大先生になると、決してエスとエフとを讀みちがへたりなぞはしません。活字が間違つてゐても、氣が附かずに正しく讀んでゐます。けれども、まだ小先生だつた頃には、たとへば次のやうな紛らはしい單語はよく讀みちがへたものです。

Luft	ルフト	空氣
Luſt	ルスト	快樂
ſauſen	ざウゼン	ざわめく
ſaufen	ざウフェン	牛飲する
reifen	らイフェン	稔る
reiſen	らイゼン	旅行する

3. **ſ と s**　S の小文字が二つあります。ſ の方は、これを Schluß-ſ〔シュルス・エス〕卽ち結尾のエスと云つて、一つの文字の最後にしか用ひません。その他は凡て ſ の方を用ひます。

Haus	ハウス	家
Reis	ライス	米
ſtets	シュテーツ	常に、何時も
ſechs	ゼックス	六
Chriſtus	クりストゥス	キリスト
es iſt	エス・イスト	it is

けれども、t の前では、結尾でないのに ſ を用ひます。（つまり ſt といふ子音があると思へば好いのです。）

Maſke	まスケ	假面
Freſko	フれスコー	壁畫
Fiaſko	フィあスコー	失敗

Muskel	むスケル	筋肉
Arabeſke	アラベスケ	アラビヤ模樣

たとへ、全體としては一つの單語でも、それが數語から成り立つてゐると、その一つ一つの成分はやはり一語として扱ひ、その結尾の s は ſ となります。

「家婦」は　Hausfrau　〔Hauffrau に非ず〕
「お餅」は　Reiskuchen　〔Reiſkuchen に非ず〕

因みに Frau〔フラウ〕は婦人の意、Reis は米、Kuchen〔くーヘン〕は英語の cake（菓子）です。勿論ドイツにお餅なんぞある譯ではありませんが、在邦ドイツ人たちはさう呼んでゐます。

4. **J と J**　i〔イー〕の大文字と j〔ヨット〕の大文字とは全然同じです。これは拉丁語に於けると同じ事實ですが、單語をおぼえて來ると、別に區別する必要がないのです。それはまあ追々わかります。

5. **u**　u〔ウー〕の小文字の草字體には、上部に鉤形をつけます。これを附けないと n と混同するからです。面倒臭いと思ふ人もあるでせうが、慣れて來ると、むしろ此の鉤を附けるのが樂しみになります。それは先づ冗談ですが、とにかくドイツ語では u よりも n の方を澤山使ふから、n の方をなるべく簡單にしようといふ譯なんですね。

6. **ß に就て**　此のエス・ツェットなる合成活字は例へば英文用のタイプライター等で打つときには、sz としないで、ss とします。理屈に合はない寫し方ですが、その方が發音に忠實だからです。

	ドイツ字	ラテン字
足〔フース〕は	Fuß	Fuss
街路〔シュトらーセ〕は	Straße	Strasse

7. **書例**　卷末に草書體でつづけて書いた一例を貼付しておきました。あんまり整然とした活字風のよりは、むしろ私自身が平素教室の黑板に書いたり試驗問題を謄寫版で刷つたりしてゐるままの拙い字の方が面白いと思つて、改まらないで、私の癖のままを出しておきました。ドイツ人はもつと上手です。

第二講

發音に就て

豫め斷はつておきますが、私の主義として、初學者に敎へる時には、所謂「馬鹿の一つ覺え」といふ一個條を上段に構へて斬り込んで行きます。初學の時は誰でも馬鹿なもので、斯く申す私自身でも、たとへば唯今ある語の文法の極く初步から獨學してゐますが、或種の餘りに細かい分類をした敎科書にはまつたく兜をぬぎます。一つの規則を堂々と宣言したかと思ふと、すぐその後に、微に入り細を穿つて、數々の例外が綺羅星の如くに居並んでゐるなんてのは、まつたくお叩頭をして逃げ出したくなりますからね。

とにかく馬鹿の一つ覺えをして貰ひます。例外はまた例外として、機に應じ時に臨んで申し上げて行けば好い譯ですから。發音には殊に例外が多いのです。

3. **獨逸語の發音は大體ローマ字の通り**　英語の發音は實にむつかしいが、ドイツ語の發音は非常に規則的で、たとへばサイレントになる字なんてのはめつたにありません。字の通りに讀んで行きます。馬鹿正直に。私が昔英語を習つた時に name (名) を〔ナーメ〕と讀んだり、to be を トー ベー と讀んだりして、獨學はそれだから困ると云つて笑はれたものでしたが、獨逸語はそれで好いのです。勿論アクセントの問題と長短の問題とは別ですがね。

der Regen	デル・れーゲン
der Magen	デル・まーゲン
der Onkel	デル・おンケル
der Enkel	デル・えンケル
der Garten	デル・がルテン
Blume	ぶるーメ
Name	なーメ

Bibel	びーベル
Laden	らーデン
Bruder	ぶるーデル
Mutter	むッテル
Puppe	ぷッペ
Lampe	らムペ
Ratte	らッテ
Figur	フィぐール
Knoten	クのーテン
Knabe	クなーベ
Horn	ホルン
Turm	トゥルム
Gnade	グなーデ
Osten	おステン
mal	マール
dir	ディール
rotes	ろーテス
blindem	ぶりンデム
erheben	エルへーベン
Amme	あムメ
Finger	フぃンゲル
halten	はルテン
faltete	フぁルテテ
Gasse	がッセ
Glut	グルート
Gras	グラース
Ebbe	えッベ
Flut	フルート
das Boot	ダス・ボート

das Beet	ダス・ベート
der Kaffee	デル・かッフェー
das Kaffeehaus	ダス・かッフェーハウス

凡て此の調子で行くとすれば大變結構ですが、まんざらさうでもありません。次に、その調子では行かないものを、順を追つて說明して行きます。

9. **ei [アイ] と ie [イー]**

ei は英語の nine と云ふ際の ī です。
ie は英語の keep といふ際の ee です。

nein	ナイン
hier	ヒール
Bier	ビール
Bein	バイン
drei	ドライ
eins	アインス
Teil	タイル
nie	ニー
breit	ブライト
liegen	りーゲン
fliegen	フりーゲン
Miene	みーネ
klein	クライン
Kreis	クライス
Kies	キース
Papagei	パパがイ
Giebel	ぎーベル
lieber	りーベル
heilt	ハイルト
hielt	ヒールト

10. **eu [オイ]** 英語で boy と云ふ際の oy です。

neun	ノイン
Feuer	フぉイエル
Reue	ろイエ
Greuel	グろイエル
teuer	とイエル
erneuen	エルのイエン
die Meuterei	ディー・モイテらイ
die Reiterei	ディー・ライテらイ
freuen	フろイエン
die Leute	ディー・ろイテ
der Leutnant	デル・ろイトナント
der Teufel	デル・とイフェル
die Liebelei	ディー・リーベらイ
die Heilkunde	ディー・はイルクンデ
er heult	エール・ホイルト
die Traumdeutung	ディー・トらウムドイトゥング
die Erneuerungen	ディー・エルのイエルンゲン

11. **ä [エー]** ラテン書體の時には ä と書いてもよし、ae と書いても好いのです。此の印の附いた ä の事を a-Umlaut〔アー・うムラウト〕即ち「變音の a」と呼びます。發音方は e とちつとも變りません。つまり日本語で「へ」と「え」とを同じに發音するやうなもので、一種の過去の遺物です。すつかり e で書いて、こんな面倒なものは廢してしまつても好いのですが、やはり眼の方が承知しないんですね。

käme	けーメ
Tränen	トれーネン
Käpplein	けップライン
Bär	ベール

Militär	ミリてール
Millionär	ミルリオねール
Täler	てーレル
Rätsel	れーツェル
dämmern	でムメルン

12. **ö [エー]** ラテン字の時には oe と書いても構ひません。また人名などでは ö と書かないで、わざわざ oe と書く事に決まつてゐるのがあります。たとへば Goethe〔ゲーテ〕が好い例です。

この o-Umlaut〔オー・うムラウト〕は、假名では表現できない音で、つまり、オーとエーとの中間音です。でも、どちらかと云ふとエーの方に近いから、Goethe はやはりゲーテで好いでせう。「ギョーテ」なんて假名を振る人もあるやうですが、これ實に衒學にして一世を毒するものです。英語だつて but をバットと云つて、それで充分通じてゐますからね。バットなんて書いて見たつて仕方がないでせう。實際の發音を聞くやうになればどうせわかるのですから。

töten	てーテン
tötete	てーテテ
mögen	めーゲン
Körper	けルペル
nörgeln	ねルゲルン
Regenbö	れーゲンベー
flöge	フれーゲ
blöde	ブれーデ
hören	ヘーレン
gehört	ゲヘールト
Hörner	ヘルネル

13. **ü [ユー]** 名稱は u-Umlaut〔ウー・うムラウト〕これがまた一寸厄介です。簡單に云ふと、イーとウーとの中間音です。或種のドイツ人は全然イーと發音しますが、それは訛りで、本當は少し

ウーにかゝるのです。けれども、普通、今までの習はしとして、ユーと假名で寫すのが流行つてゐますから、それを採用しておきませう。（ラテン字では ue と綴り分けてもよろしい。）

über	ゆーベル
übel	ゆーベル

注意 日本人に r と l との區別がわからないのは、富士山や武士道と同樣に世界的進出をした天晴れ國粹的事實ですが、語學者は此の現象を Rholambdazismus〔ローラムブダつィスムス〕と呼んでゐます。譯してエルエル混同症とでも申しませうか。（rho は希臘字の ρ で r に相當し、lambda は λ で、今の l に相當します。）

閑話休題、über〔ゆーベル〕は、平常の會話では〔ゆーバー〕と略した發音をします。つまり英語の over〔おーヴァー〕の -er と同じやうに發音するのです。從つて Mutter〔母〕は〔むッター〕、Bruder〔兄弟〕は〔ブるーダー〕でも構ひません。けれども übel の際は決して〔ゆーバー〕と云つては不可ません。

Tür	テュール
für	フュール
dünn	デュン
müde	ミゅーデ
Brüder	ブリゅーデル
Rübe	リゅーベ
Lüge	リゅーゲ
gülden	ギゅルデン

14. **äu [オイ]** äu は、前出の eu と同發音です。ä=e ですから、丁度おぼえ易いわけです。

Täufer	とイフェル
Knäuel	クのイエル
Räume	ろイメ
Bäume	ぼイメ

Bläue	ブろイエ
Äuglein	おイグライン
Däumling	どイムリング

15. **au** [アウ]　**ai** [アイ]　**ui** [ウイ]

これらは皆ローマ字で讀む通りですから、單に例をあげておくだけにします。

Gau	ガウ
Kaiser	かイゼル
Mai	マイ
hui!	フイ

【註】 au の發音は、實際は「アオ」に近く響きます。

16. **ach** [アハ]　**och** [オホ]　**uch** [ウフ]
所謂 Achlaut〔あハラウト〕の ch

たとへば、我々が何かに非常に感心した時に、思はずホホー！と云ふ感嘆の叫びを發します。それを強く感心してホホー！とやると、思はず喉が空氣で擦れて、一寸鼾息をかく時のやうな音が出ます。それがドイツ語の、a, o, u, の次に來る ch です。また、くしやみをする時にはハックシェイ！と云ひますが、その〔ハ〕は、ha ではなくて、ドイツ語の ch-a です。つまり ch は k と h との間なんです。

誰でも、鼾息の搔き初めは hu！で、それから五分ばかり經つと chu！になり、終には ku！になつて泥棒に這入られるといふ譯なんでせうね。

uch に〔ウフ〕と假名をつけたのは、勿論決して uff の f〔フ〕のつもりではありません。然しそんな事は鼾の話をした以上、もう斷はる必要もありますまい。

Bach	バハ	
Loch	ロホ	
Tuch	トゥーフ	
lachen	らッヘン	〔笑ふ〕
Kuchen	くーヘン	

Fluch	フるーフ	
Frucht	フるフト	
Nacht	ナハト	〔夜〕
Docht	ドホト	
Koch	コホ	〔料理人〕
machtest	まハテスト	
lachten	らハテン	
Buch	ブーフ	〔書物〕
Bruch	ブルフ	
nach	ナーハ	
Fach	ファハ	
poch	ポホ	

注意一　au の次に ch が來る際には、實際的には「アオホ」と假名に移した方が近くなりますから、これは特に心得ておいて下さい。

Bauch	バオホ
rauchen	らオヘン
raucht	ラオホト

注意二　よくある發音の間違ひは、a, o, u, の次に來る ch を、次の項で述べる Ichlaut なる發音法に誤るやつです。これは非常に注意を要します。lachen は「らッヘン」であつて、「らッヒェン」ではありません。Buche は「ぶーヘ」であつて、「ぶーヒェ」ではありません。

17. **a, o, u, 以外の次に來る ch**
所謂 Ichlaut〔いヒラウト〕

ch の前にあるのが a, o, u のどれかでない時には、ch は〔ヒ〕と發音します。ich〔イヒ〕(私) と云ふ時のヒです。

また ch の次に母音が來る時には下のやうな發音になります。

cha (ヒャ)　chi (ヒ)　chu (ヒュ)　che (ヒェ)　cho (ヒョ)

つまり、商賣人が「ヒェー」と云つて返辭をする、あれが Ichlaut です。

それから、念のために、日本語の五十音なるものが發音の上から見ると如何に不統一なものであるかを一寸表示してみませう。［　］をしたのが日本語の「は」行です。この現象はまだ後にも數回出て來ます。

ha	［ハ］	cha	ヒャ	fa	ファ
hi	ヒ	chi	［ヒ］	fi	フィ
hu	ホゥ	chu	ヒュ	fu	［フ］
he	［ヘ］	che	ヒェ	fe	フェ
ho	［ホ］	cho	ヒョ	fo	フォ

—— 例 ——

echt	エヒト
Gerücht	ゲリゅヒト
lächelt	れッヒェルト
Knecht	クネヒト
Furcht	フルヒト
Pech	ペヒ
krieche	クりーヒェ
Mönch	メンヒ
nächtlich	ねヒトリヒ
Molch	モルヒ
durch	ドゥルヒ
Patriarch	パトリあルヒ
Plutarch	プルーたルヒ
Monarch	モなルヒ
Anarchist	アナルひスト
Echo	えヒョー　［谺］
Rechnung	れヒヌング
reich	ライヒ
euch	オイヒ
deucht	ドイヒト
München	ミゅンヒェン　［町の名］

18. **-ig［イヒ］**　一語の結末に來る -ig は、-ich と同じに、即ちイヒと發音します。〔これは英語の -y の語尾に相當します。〕

König	けーニヒ	[king]
Honig	ほーニヒ	[honey]
freudig	フろイディヒ	
heutig	ほイティヒ	
morgig	もルギヒ	
deinig	だイニヒ	
meinig	まイニヒ	
feurig	フぉイりヒ	
gierig	ぎーりヒ	
Kleinigkeit	クらイニヒカイト	
Häufigkeit	ほイフィヒカイト	
Käfig	けーフィヒ	
fertig	フぇルティヒ	

19. **j＝英語の y**　ヤ、ユ、ヨの發音を出す英語の y と同じですが、詳しく云ふとそれよりは多少強くひびきます。獨逸人が「然り」ja〔ヤー〕と云ふのを聞くと、時には「ヒャー〕と聞こえるほど、それ程強く發音するのです。即ち、空氣の排出される時に、その通路をなるべく狹くして、吐く息と喉との摩擦を聞かせるのです。

jach	ヤハ
juch	ユフ
jagen	やーゲン
Japan	やーパン
jodeln	よーデルン
Jude	ゆーデ
Jacht	ヤハト
jung	ユング

jenes	イぇーネス
jubeln	ゆーベルン
Jäger	イぇーゲル
Jugendlich	ゆーゲントりヒ
konjugieren	コンユぎーレン
Joch	ヨホ

20. **w＝英語の v**

Welle	ゔぇルレ
Wunder	ゔンデル
Wanderer	わンデレル
wiegen	ゔぃーゲン
wägen	ゔぇーゲン
Löwe	れーヱ
Möwe	めーヱ
wirrwar	ゔぃルヴァル
Wut	ゔート
Kinderwagen	きンデルヴァーゲン
Wendepunkt	ゔぇンデプンクト
Regenwetter	れーゲンヱッテル
Widderfell	ゔぃッデルフェル
Wasserfall	わッセルファル

21. **z＝英語の ts**　阿とっつぁん！と云ふ時の〔ツァ〕をドイツ字で書けば za です。

次の表と、假名の表現をよく見て下さい。

ta　[タ]	za　ツァ	tscha　チャ
ti　ティ	zi　ツィ	tschi　[チ]

tu　トゥ	zu　[ツ]	tschu　チュ
te　[テ]	ze　ツェ	tsche　チェ
to　[ト]	zo　ツォ	tscho　チョ

[ ] をしたところが日本語の「た」行です。

—— 例 ——

Zeche	ツぇッヒェ
zwei	ツヴァイ　[two]
zwie	ツヴィー
Skizze	スきッツェ
Szene	スツぇーネ
zanken	ツぁンケン
Ziegenbart	ツぃーゲンバールト
Zeigefinger	ツぁイゲフィンゲル
duzen	ドゥーツェン
zwar	ツヴァール
Zungenlaut	つンゲンラウト

22. **tz＝zz**　tz〔テー・ツェット〕の發音は z〔ツェット〕と同じで、ただその前にくる母音がつまると云ふきりです。

Lutz	ルッツ
jetzt	イェツト
Grütze	グリゅッツェ
Mütze	ミゅッツェ
Matratze	マトらッツェ
Batzen	ばッツェン
benetzen	べねッツェン
ergötzen	エルげッツェン

Berlitz	ベルリッツ
Austerlitz	あウステルリッツ
Kiebitz	きービッツ
Metzger	めッツゲル
Tatze	たッツェ

23. **tſch＝英語の ch** 前に一寸表に出しました。

Tſcheche	チえッヒェ
Peitſche	ぱイチェ
rutſchen	るッチェン
Deutſchland	どイチュラント
quietſchen	クヰーチェン
ätſch!	エッチュ
Patſche	ぱッチェ
Putſch	プッチュ
Dolmetſcher	ドルめッチェル
Tolpatſch	とルパッチュ

24. **ſch＝英語の sh** ſch は殆んど一字みたいなもので、〔エス・ツェー・ハー〕と呼ばれてゐます。

Schinken	しンケン
Schuft	シュフト
Schelm	シェルム
Scheiterhaufen	シャイテルハウフェン
Handelsſchiff	はンデルスシフ
Herrſcher	ヘルシェル
wünſchen	ヰゅンシェン
Walfiſch	ヴルフィッシュ

Menſchheit	めンシュハイト
Mittelſchule	みッテルシューレ
Schulzimmer	シゅールツィムメル
Enttäuſchung	エントとイシュング

25. **ß＝濁らない s** 下の表は、[ ] をした所が日本のサシスセソです。

ßa	[サ]	ſcha	シャ
ßi	スィ	ſchi	[シ]
ßu	[ス]	ſchu	シュ
ße	[セ]	ſche	シェ
ßo	[ソ]	ſcho	ショ

—— 例 ——

Fuß	フース
Füße	フゅーセ
Maß	マース
naß	ナス
Nuß	ヌス
Gruß	グルース
grüßen	グリゅーセン
Größe	グれーセ
weiß	ヴイス
reißen	らイセン
[reiſen]	らイゼン

26. **v＝f** ファ、フィ等の音を出す f の字が既にあるのに、また v をも f に發音するのですから、一種の贅澤品です。こんなのは奢侈税をかけても好いわけですね。

Vater	フぁーテル
Vetter	フぇッテル
Vogel	フぉーゲル
Veilchen	フぁイルヒェン
verlegen	フェルれーゲン
verschulden	フェルシゅルデン
Vorschuß	フぉールシュス
Vielheit	フぃールハイト
verfertigen	フェルフぇルティゲン
Vielfältigkeit	フぃールフェルティヒカイト
vergrößern	フェルグれーセルン
verwundern	フェルヴンデルン

但し外國語から來た字の時には、v は英語と同じ發音、即ち獨逸語の w (ヴ) の發音になります。それは英、佛、伊、西を始め、どこの國語でも v は〔ヴ〕と發音してゐるからです。

Venus	ゼーヌス
Violine	ヴィオりーネ
violett	ヴィオれット
nervös	ネルゼース
Venedig	ゼねーディヒ
vulgär	ヴルげール

27. **pf＝[プ] と [フ] の中間音**　こいつは一寸厄介です。英語には全然無い音です。

抑々 p を發音する時には、唇と唇とが先づ固く密閉され、次にそれがぱっと爆發します。f の時には、上の齒で下唇を噛んだのが準備姿勢で、既に準備の時にもう息がスースーと拔けます。それがふわっと開いて fa, fi 等の音が出るわけです。

ところが獨逸語特有の pf なる子音は、決して p と f とを相前後して順次に發するのではなく、一つの音なのです。即ち、上の齒を以て下唇を噛み

しめ、同時に上下の唇をも固く閉ぢ合せて、それを、p の時と同じやうに爆發させます。すると火藥の悪い彈丸が飛び出す時のやうに、p のやうに朗らかでない、半分摩擦音の交つた音が出ます。それが pf です。

假名ではどうしても現はす事ができませんから、以下、假名を振るときには下記のやうな具合に一定しておきます。

pfa	ㇷ゚ファ
pfi	ㇷ゚フィ
pfu	ㇷ゚フゥ
pfe	ㇷ゚フェ
pfo	ㇷ゚フォ

— 例 —

Kopf	コッㇷ゚フ
Hopfen	ほッㇷ゚フェン
Pfaffen	ㇷ゚ファッフェン
Pfeffer	ㇷ゚フェッフェル
Pfropfen	ㇷ゚フろッㇷ゚フェン
pfauchen	ㇷ゚ファオヘン
Köpfe	けッㇷ゚フェ
pfeifen	ㇷ゚ファイフェン
rupfen	るッㇷ゚フェン
zupfen	つッㇷ゚フェン
Geschöpf	ゲシェッㇷ゚フ
Zopf	ツォッㇷ゚フ

28. **qu = kw**　拉典語から來た字で、「定量」といふ意味の Quantum といふ單語が、英語にも獨逸語にもありますが、

英 = quantum	クぁンタム
獨 = Quantum	クわントゥム

母音の讀みが違ふ外、qu の發音そのものが既に違つてゐます。英語は、嚴密に云ふと〔クウ〕で、獨逸語は〔クヴ〕です。即ち他のドイツ字を當てはめると kw であつて、ku ではありません。

Liquida	りークヰダー
Quartett	クヴルてット
quaken	クヴーケン
Qualle	クルヴレ
Quantität	クヴンティてート
Qualität	クヴリてート
Aquarium	アクわーリウム
qualvoll	クわールフォル
Quintilian	クヰンティリあーン

29. 最後に來る濁音は清音となる。
d＝t；g＝k；b＝p.

實際これには一理屈あるので、一たい濁音なるものは、その次に輕く〔ウ〕のやうな母音を響かさずには發音できません。英語では、たとへば bad を〔バッド〕と、〔ド〕をひゞかせますが、それは、合理的に綴に現はすとすれば badde と書く可きところです。〔ウ〕のやうな母音を後に響かさなければ、語末の -d は必然的に t と同じになります。ドイツ語の方が合理的ですね。併し -d を -t と發音するのなら、いつそ -t と書いてしまへば好い筈ですが、之れもまあ眼の方を考慮して、その儘殘しておくわけです。

da	ダー	Rad	ラート
du	ドゥー	lud	ルート
dir	ディール	Lied	リート
den	デン	Leid	ライト
doch	ドホ	Tod	トート
ganz	ガンツ	lag	ラーク
ging	ギング	Krieg	クリーク
gut	グート	trug	トルーク

gern	ゲルン	Weg	ヴェーク
Gott	ゴット	Dialog	ディアろーク
Bank	バンク	Grab	グラーブ
Biene	びーネ	Trieb	トリーブ
Bund	ブント	hub	フーブ
beben	べーベン	*belebt	べれーブト
Boden	ぼーデン	hob	ホーブ

上に * の印をつけた belebt〔べれーブト〕ですが、-bt の b は、結尾の b とは云へませんが、d や t など濁らない、固い音の前に來ると、b もやはり固くなつて p と發音します。

Abt	アプト
raubt	ラウプト
beredt	べれート
fegt	フェークト
Vogt	フォークト
Krebs	クレープス
vollends	フォルレンツ

[ds＝ts＝ツ]

30. s は母音の前では濁音

Saal	ザール	las	ラース
Sieb	ジーブ	blies	ブリース
Sud	ズート	Kurs	クルス
Segen	せーゲン	eigens	あイゲンス
so	ゾー	kurios	クリおース
Suse	すーゼ	Rose	ろーゼ
sausen	ざウゼン	Kosmos	こスモス
sauber	ざウベル	Obst	おーブスト

Säbel	せーベル	Bluts	ブルーツ
Hose	ほーゼ	bös	ベース
Sims	ジムス	Weise	わイゼ
Anselm	あンゼルム	Mars	マルス
Sand	ざント	Gans	ガンス
Häuser	ほイゼル	Haus	ハウス
Seife	ざイフェ	konfus	コンふース

Kapitalismus	カピタりスムス
maskieren	マスきーレン
Reis-ernte	らイスエルンテ
scharenweis	シやーレンヴイス

これはまあ、英語を知つて居る人には大抵のみ込めます。Rose の s は英語でも濁りますからね。しかし武士の事をドイツ人は、(日本語を知らない人は) ザムラーイと云ふなどと云ふ事は初耳でせう。私も日本に着いたばかりのドイツ人にはよく Herr Sekiguchi! [ヘル・ゼキぐーヒ!] と呼ばれる事があります。さう云ふ時には、Sekiguchi の發音は ßeki'gutschi で、アクセントは ki にあるのですと云つて、書いて教へます。

もつともドイツ人と云つても色々で、本當に正しい發音をする人は十人に一人位しかなく、みんな鄉土の訛がありますから、人によると ß をほとんど濁らないのがありますが、そんなのをハイカラがつてはいけません。

31. 頭音の st = scht
頭音の sp = schp

單語を綴に分けた時に、その中心をなしてゐる母音より左に附いてゐる子音を頭音 (Anlaut) と云ひ、右にある子音を尾音 (Auslaut) と云ひますが、頭音であるか尾音であるかに依つて發音の違ふ子音があります。

たとへば Spiel は、ie なる幹母音を中心にして、前に Sp の頭音、後に l の尾音を持つてゐますが、sp は頭音の際にはシュプと發音するから、Spiel は シュぴールです。(尾音の sp は英語の通り。)

頭音の st, sp.		尾音の st, sp.	
Sprach-e	シュプらーヘ	Rasp-el	らスペル
spiel-en	シュぴーレン	lisp-eln	りスペルン

Stund-e	シュトゥンデ	Dunst	ドゥンスト
stink-en	シュティンケン	be-ginnst	べぎンスト
Stab	シュターブ	Mast	マスト
sporn-en	シュぽルネン	Wesp-e	ゐスペ
Stra-ße	シュトらーセ	Durst	ドゥルスト
Stein	シュタイン	einst	アインスト
Ge-stirn	ゲシュティルン	gest-ern	げステルン
be-stell-en	ベシュてルレン	best-ens	ベステンス
er-stand	エルシュたント	erst-es	えールステス

では言葉を綴に分けるのはどう云ふ規則に從ふか? それは、先づ第一に意味に依つて分けるのですから、まだ文法もやらない内に完全な說明をする事は、いたづらに苦勞させるばかりですからまあ止して置きませう。とにかく頭音 (Anlaut) と尾音 (Auslaut) との區別がある事だけをはつきり覺えておいて貰へば、後は讀本の部で充分に呑み込めます。術語はむつかしくても事柄は簡單なのですから。

32. 尾音の h は發音せず

頭音の h		尾音の h	
be-hend	べヘント	seh-en	ぜーエン
ge-hört	ゲヘールト	geh-en	げーエン
er-heben	エルヘーベン	be-haupte	べはウプテ
Hand	ハント	Kuh	クー
Hirt	ヒルト	Vieh	フィー
hier	ヒール	Ruh-e	るーエ

33. 語末の g は ch に讀むも可なり

-ig の場合は旣に述べた通り必ず -ich と發音しなければ不可ませんが、-ag, -og, -ug, -äg, -eg 等、要するに i 以外の母音又は子音の次に來る結尾の g は、-k と發音しても -ch と發音してもよろしい。

たとへば Hamburg〔漢堡〕と云ふ地名は〔はンブルク〕でも〔はンブルヒ〕でも好いのです。但し〔はンブルグ〕と濁るのはよくありません。

Berg	ベルク	または	ベルヒ
Tag	ターク	〃	ターハ
Zug	ツーク	〃	ツーフ
Sieg	ジーク	〃	ジーヒ
Georg	げオルク	〃	げオルヒ
arg	アルク	〃	アルヒ
Weg	ヱーク	〃	ヱーヒ
lag	ラーク	〃	ラーハ
trug	トルーク	〃	トルーフ
bog	ボーク	〃	ボーホ

けれども、どちらが正規の發音かと云ふと、勿論 -g と發音する方が正規です。

34. **-chs＝[クス] 卽ち x**

これは英語の x と同じ發音です。但し終の s が、何か文法上の關係で後から附いた際は、やはり -chs〔フス〕と規則通りの發音をします。その區別も、文法をやれば判明します。

Luchs	ルックス	英語の	lynx
Wachs	ヴックス	〃	wax
Sachsen	ざクセン	〃	Saxonia
muchsen	むクセン		
wichsen	ゐクセン		
wechseln	ゑクセルン		
Fuchs	フックス	〃	fox
Ochs	オックス	〃	ox

文法上の意味を持つてゐる s といふのは、たとへば次のやうな時です。

ein Buch	[アイン・ぶーフ]	a book
eines Buchs	[あイネス・ぶーフス]	of a book
ich suche	[イヒ・ずーへ]	I seek
du suchst	[ドゥー・ずーフスト]	you seek

35. **-tia = zia　-tio = zio　-tie = zie**

これは拉典系統の外來語に限られた發音の例外です。

例外とは云ひながら、非常に重要だから特に擧げました。嚴密に云ふと、ti- の次にもう一つ母音が來る時はティヤ、ティオ等に發音しないで、zia〔ツィア〕zio〔ツィオ〕と發音します。之れも英語を御存じの方には何でもない事で、英語でも例へば station の -tion といふ語尾の ti- は sh のやうに發音します。英語の場合と平行してゐます。

Station	シュタツィおーン
Nation	ナツィおーン
Sektion	ゼクツィおーン
partiell	パルツィえル
Patient	パツィえント
Konditional	コンディツィオなール
Deponentia	デーぽねンツィア
Spirantia	シュピーらンツィア

注意　-tion は「チョン」ではなく「ツィおーン」です。綴りが二つで、-on の方にアクセントがあります。

36. **拉丁系の ca, ci, cu, ce, co 等はすべて ka, zi, ku, ze, ko と書換へる。**

例へば哲學者 Kant に關してかう云ふ話が傳はつてゐます。彼の祖先は英人で、蘇格蘭の生れでしたが、祖父の代あたりにドイツに歸化しました。本當の苗字は Cant だつたのですが、ドイツに來て見ると、人々が〔ツァント〕と發音して困るので、遂に役場に屆けて、綴を Kant に變へたのださうです。

c の次に ·a が來るのをツァなどと發音するのは餘りに無學な話ですが、とにかく獨逸人は c と z とを同じやうに思つてゐるのです。

昔は、例へば Cenſur と書いて〔ツェンずール〕と讀んでゐたのを、今では凡て Zenſur と書いて發音通りに現はしてゐます。但し、Cant が Kant に變つたやうに、C の後に a, o, u が來る時は、英語でも佛語でも伊太利語でもその他大抵の國語ではみな k と發音してゐますから、ドイツ人も從つてさう發音し、同時に國定の正字法で、凡て K にあらためることになつてゐます。然し古い書物を讀む時などには、まだ C が殘つてゐる事がありますから、それはみな K か Z かのどちらかになるものと考へながら發音しなければなりません。

古體	新體	
Caffee	Kaffee	かッフェー
Converſation	Konverſation	コンフェルザッィおーン
Accent	Akzent	アクツェント
Proceß	Prozeß	プロツェス
Congreß	Kongreß	コングれス
Caricatur	Karikatur	カリカトゥール
Cultur	Kultur	クルトゥール
Cölibat	Zölibat	ツェリばート

37. **其他の規則** 以上で重要な事項は盡きましたが、餘力のある方は序でに以下の諸項をも覺えておいて下さい。

(1) ph = f これは英語と同じです。

Philoſophie	フィロゾフィー
Photographie	フォトグラフィー
Symphonie	ジンフォにー
Triumph	トリうンフ
Biographie	ビオグラフィー

(2) th = t これは英語と違ひます。

Theologie	テオロぎー
Thron	トローン
Anthropologie	アントロポロぎー
Thema	てーマ
Lithographie	リトグラフィー
Naphthalin	ナフタりーン

(3) ·ck = 英語の ck.

ſchicken	しッケン
Schickſal	しックザール
Glück	グリゅック
zwacken	ツわッケン

(4) ·ng〔ング〕何でも無ささうですが、n の次に來る g は、普通の g ではないのです。鼻にかかります。日本語でも、「日本語」「英語」といふ時の「語」は、「語學」と云ふ時の「語」と全然違つた發音です。またその同じ「語學」と云ふ言葉にしても Gogaku と、同じ g を二度用ひて綴りますが、實は前の g と後の g とは物が違ふのです。日本語の規則として、語頭のガギグゲゴは固い音ですが、語の中に來る時は、少し鼻にかかつて、柔らかくなります。

·ng の g は、その鼻にかかる方の〔グ〕です。

geſungen	ゲずン[ゲ]ン
gegangen	ゲがン[ゲ]ン
Nibelungen	にーベルン[ゲ]ン
Zunge	つン[ゲ]
dringen	ドりン[ゲ]ン
Enge	えン[ゲ]

(5) dt = tt〔前出〕

Stadt	シュタット
Wundt	ヴント

ſandte	ざンテ
wandte	わンテ
gewandt	ゲわント
beredt	べれート

(6) y = ü　希臘語系統の單語に於ては y を ü に發音します。これはよほど言葉を知つてゐないと見分けられませんが、まあ次の例だけ覺えておいて下さい。

Rhythmus	りゅトムス
Hydra	ヒゅードラ
Mythos	ミゅートス
Mythologie	ミュトロぎー
Lyrik	りゅーリック
Symbol	ジュムぼール
Symmetrie	ジュムメトりー
Physik	フゅージック
Gymnasium	ギュムなージウム

まあ大抵むつかしい單語にある y は ü だと思つて好いのです。けれども ü の發音は殆んど i に近いので、ドイツ人でも必ずしも此の ü の發音を嚴守するとも限りません。段々と y を i に發音する傾向があります。

(7) 外來語の ge, gi は〔ジェ〕〔ジ〕と發音することあり。

これは其の單語について一々覺える可きです。さう澤山あるわけではありません。

Page	ぱージェ
Orange	オらンジェ
Loge	ろージェ
arrangieren	アランじーレン
engagieren	アンガじーレン
Genie	ジェにー
Giro	じーロ

ところが獨逸人には、本當はジャ、ジュの發音が出來ないので、大抵の獨逸人は此の ge, gi を ſche, ſchi と發音します。「天才」といふ Genie は〔シェにー〕です。高等教育位のある人でないと〔ジェにー〕とは濁りません。

(8) -ill- 外國語（といふのは專ら佛蘭西語）から來た字に這入つてゐる ill の綴は、次のやうに發音します。

illa	イッリャ
ill	イッリェ
illo	イッリョ

フランス語の發音を間違へたのか、それとも西班牙語の發音でも這入つたか、とにかくさういふ發音をします。けれども教育ある人達はフランス語通りに發音します。

	—俗—	—正—
Poſtillion	ポスティりょーン	ポスティよーン
Bataillon	バタりょーン	バタイよーン
Patrouille	パトるリエ	パトるイユ

發音練習

Das malerischste Haus im ganzen Dorfe ist das des
ダス　マーレリッシステ　ハウス　イム　ガンツエン　ドルフエ　イスト　ダース　デス

Schneider Timmann, das in dem Winkel liegt, den der
シュネイデル　ティムマン　ダス　イン　デム　ヴィンケル　リークト　デン　デル

Mühlbach mit dem Flusse bildet. Die Bauern finden
ミゅールバハ　ミット　デム　フるッセ　びルデット　ディー　ばウエルン　フィンデン

nichts absonderlich Schönes an ihm und wundern sich, was
ニヒツ　あッぷゾンデルリヒ　シェーネス　アン　イーム　ウント　ヴンデルン　ズィヒ　ヴァス

die Stadtleute, vorzüglich die Maler und Photographen,
ディー　シュたットロイテ　フォーるツューグりヒ　ディー　マーレル　ウント　フォトグらーフェン

daran zu sehen haben. Denn es ist nur ein kleines
ダーラン ツー ゼーエン ハーベン デン エス イスト ヌール アイン クライネス

Fachwerkhaus nach alter Art, mit schwarzem Balkenwerk
ファハヴェルクハウス ナーハ アルテル アールト ミット シュヴァルツェム バルケンヴェルク

und rot gestrichenen Füllungen; sein Strohdach ist mit
ウント ロート ゲシュトリッヒエネン フュルルンゲン ザイン シュトロ-ダハ イスト ミット

dicken, grünen Moospolstern bedeckt und zur Hälfte von
ディッケン グリューネン モースポルステルン ベデックト ウント ツール ヘルフテ フォン

dichtem, dunklem Efeu umflochten. Rechts und links von
ディヒテム ドゥンクレム エーフォイ ウムフロホテン レヒツ ウント リンクス フォン

der Gartenpforte halten zwei hohe, spitze Wacholder Wacht,
デル ガルテンプフォルテ ハルテン ツヴァイ ホーエ シュピッツェ ヴァホルデル ヴァハト

eine Kletterrose schlingt sich über die grüne Haustür hin,
アイネ クレッテルローゼ シュリンゲト ジヒ ユーベル ディー グリューネ ハウステュール ヒン

mehrere Obstbäume stehen in dem kleinen Garten, und über
メーレレ オープストボイメ シュテーエン イン デム クライネン ガルテン ウント ユーベル

den Schweinestall krümmt sich ein krauser Holderbusch hin.
デン シュヴァイネシュタル クリュムト ジヒ アイン クラウゼル ホルデルブッシュ ヒン

An allen Fenstern stehen Blumen, so daß man, obgleich
アン アルレン フェンステルン シュテーエン ブルーメン ゾー ダス マン オッブグライヒ

die Straße höher ist als das Haus, nicht hineinsehen
ディー シュトラーセ ヘーエル イスト アルス ダス ハウス ニヒト ヒネインゼーエン

kann.
カン

著者の斷書

發音を終ると、その次にはアクセントの事、綴に分ける練習、それから綴の長短の問題が來るのが例だが、それらはむしろ初學者をうんざりさせるだけの效果しかないから、私は故意に述べないで置く。そんな事は別に知らなくても或る所までは通せるからである。Zur Sache! すぐ本問題に取り掛かりませう！（發音の詳細は後卷に再び出づ。）

第三講

動詞の不定法と人稱變化

なる可く速くドイツ語の文章に慣れて貰ひたいと云ふ趣旨で、まづ最初に動詞をやります。動詞は文章を作る上に最も重要なものです。

38. **不定法とは何ぞや？** 日本語の初步を習つてゐる或る支那人に向つて、先生が、筆を動かして見せた後、かうする事を何と云ひますかと云つて問うたら、それは「書か」ですと答へた。これは日本語の動詞の不定法が凡てウ行で終らなければならないと云ふ根本的文法を知らなかつたのでせう。

不定法とは何ぞや、それは、一言にして云へば、たとへば辭書にその動詞を登錄する際に用ひる形です。

39. **不定法の語尾** 英語と獨逸語とは、つい二千年ばかり前までは同じ一つのゲルマニヤ語と云ふ言語であつたので、單語はよく似てゐます。たとへば、「學ぶ」「習ふ」と云ふ動詞の語幹（即ち日本語の manab- で、それに -a, -o, -u, -e, -i が附いて諸種の形態が生れるのだが、その中心になる manab を、動詞の語幹と云ふ）は

英語	learn	[ラーン]
獨語	lern	[レルン]

發音と綴こそ多少違へ、大體に於てよく似てゐる。ところが、英語に於ては、語幹そのものが直ちに以て不定法であるが、ドイツ語の方では、それに -en といふ語尾（日本語の -u に相當する）を附けないと不定法が出來ない。

不定法	英語	(to) learn	[ラーン]
	獨語	lernen	[れルネン]

以下に英獨の動詞の不定法を數個比較した表を掲げます。語幹だけを比べるとどことなく一脈の相通ずるものがある事がわかります。

獨	發音	英	意味
sink=en	じンケン	sink	沈む
sing=en	じンゲン	sing	歌ふ
wasch=en	わッシェン	wash	洗ふ
send=en	せンデン	send	送る
find=en	フぃンデン	find	見出す
bring=en	ブりンゲン	bring	持ち來る
dank=en	だンケン	thank	感謝する
denk=en	でンケン	think	考へる
treib=en	トらイベン	drive	驅る
trink=en	トりンケン	drink	飲む
helf=en	ヘルフェン	help	助ける
schlaf=en	シュらーフェン	sleep	眠る
hoff=en	ほッフェン	hope	望む
geb=en	げーベン	give	與へる
lieb=en	りーベン	love	愛する
leb=en	れーベン	live	生きる
raub=en	らウベン	rob	奪ふ
hör=en	ヘーレン	hear	聞く
setz=en	せッツェン	set	置く
sitz=en	じッツェン	sit	坐る
sag=en	ざーゲン	say	云ふ
leg=en	れーゲン	lay	横たへる
lieg=en	りーゲン	lie	横たはる
sprech=en	シュプれッヒェン	speak	話す
steh=en	シュてーエン	stand	立つ
stehl=en	シュてーレン	steal	盜む
seh=en	せーエン	see	見る
geh=en	げーエン	go	行く
woll=en	ゼルレン	will	欲する

schwimm=en	シュゔムメン	swim	泳ぐ
spring=en	シュプりンゲン	spring	跳ねる
tanz=en	たンツェン	dance	踊る
hab=en	はーベン	have	持つ
halt=en	はルテン	hold	保つ
fall=en	フぁルレン	fall	落ちる
beginn=en	べぎンネン	begin	始める
reit=en	らイテン	ride	騎る
schein=en	シャイネン	shine	輝く
tret=en	トれーテン	tread	踏む
füll=en	フゅルレン	fill	滿たす
fühl=en	フゅーレン	feel	感ずる
falt=en	フぁルテン	fold	疊む
flieh=en	フりーエン	flee	逃げる
flieg=en	フりーゲン	fly	飛ぶ

但し、多少の例外があつて、不定法の語尾が =n のみの事があります。語幹そのものが既に =er 又は =el の語尾を持つてゐる時には必ずさうなります。

獨	發音	英	意味
tu=n	トゥーン	do	爲す
sei=n	ザイン	be	有る
wander=n	わンデルン	wander	歩く
hunger=n	ふンゲルン	hunger	餓える
schlummer=n	シュるムメルン	slumber	まどろむ
stammel=n	シュたムメルン	stammer	吃る
stempel=n	シュてムペルン	stamp	捺印する
tröpfel=n	トれップフェルン	drop	滴らす
zwinker=n	ツゔンケルン	twinkle	瞬く
zwitscher=n	ツゔッチェルン	twitter	囀る
hämmer=n	ヘンメルン	hammer	槌で打つ

くどい様ですが、肝要事をもう一度繰り返しておきます。英語の動詞と共通の部分、即ちまだ語尾のついてゐない核心的な部分を指して、その動詞の**語幹**と云ひ、それに -en 又は -n の語尾を附けた形を指して**不定法**と云ひます。

語幹は英語の所謂 root〔根語〕stem〔幹語〕で、ドイツ語では Wurzel〔根〕Stamm〔幹〕と云ひますが、語學者は、たとへば支那語のやうな、根語ばかりで文章を綴つて行つて、その他に語尾のない國語を指して Wurzelsprache〔ゥルツェルシュプらーへ〕即ち根のみの言語と呼び、ドイツ語のやうな、語尾變化のあるのを稱して Flexionssprache〔フレキシおーンスシュプらーへ〕即ち轉尾語と呼んでゐます。

これから愈々その轉尾といふ現象に移ります。

40. 人稱變化　ドイツ語の動詞は、その主語の如何によつて、各々異つた語尾を採ります。例へば「行く」といふ不定法は geh-en ですが、「私が行く」と云ふ際には、-en を -e に變へて ich geh-e〔イヒ・げーエ〕と云ひ、「彼が行く」といふ際には er geh-t〔エル・げート〕と云ひます。それを表示して見ませう。

geh-en〔行く〕の人稱變化

第一人稱單數	ich	geh-e	[イヒ・げーエ]	私が行く
第二人稱單數	du	geh-st	[ドゥー・げースト]	汝が行く
第三人稱單數	er	geh-t	[エル・げート]	彼が行く
	sie	geh-t	[ジー・げート]	彼女が行く
	es	geh-t	[エス・げート]	それが行く
第一人稱複數	wir	geh-en	[ヴィール・げーエン]	我々が行く
第二人稱複數	ihr	geh-t	[イール・げート]	汝等が行く
第三人稱複數	sie	geh-en	[ジー・げーエン]	彼等が行く

41. 敬稱　上の外になほ第二人稱の敬稱なるものがあつて、それは

Sie geh-en〔ジー・げーエン〕貴君が行く

つまり上の表の第三人稱複數と全然同じで、只 Sie を大文字で書くだけの

差ですから、これから人稱變化を表示する時には、此の尊稱は省きます。けれども普通の會話では元來の du gehst や ihr geht は餘りに用ひないで、主として Sie gehen を用ひるのです。du と ihr との、所謂二人稱は、君僕で話し合ふ友人の間とか、親子の間とかのみで用ひます。たとへば小説の中などで、今までは Sie gehen?「貴郎はおでかけになりますか?」と云つてゐた女が、du gehst?「あなた出掛けて?」と云ふやうになつて來れば、それはもうその女は明らかに相手の男に心を許してゐる事になるのです。

英語にも此の du, ihr に相當する形がありました。それは thou〔ザウ〕と ye〔イー〕です。今では二人稱と云へばもう Sie に當る you だけしか殘つてゐません。

42. 人稱變化した形の事を定形 (verbum finitum) と呼ぶ　上述のやうに、代名詞の人稱に從つて各々違つた語尾を取つた動詞の形を稱して定形と呼びます。それは不定法と區別するためです。

單に單語として動詞を引用する時には不定法でよろしいが、私が何々する、彼女がどうする、と云つたやうに、主語と共に用ひる時には、それは必ず定形でなくてはなりません。英語の定形は不定法その儘で、ただ三人稱の單數で -s が附くきりですが、獨逸語の方は、二個所ばかり除けば、みんな不定法とちがつてゐます。念のために英語と比較してみます。(括弧の中が英語)

不定法　gehen　[to go]

	單			複		
1.	ich	geh-e	[I go]	wir	geh-en	[we go]
2.	du	geh-st	[you go]	ihr	geh-t	[you go]
3.	er	geh-t	[he go-es]			
	sie	geh-t	[she go-es]	sie	geh-en	[they go]
	es	geh-t	[it go-es]			

敬稱（單複共通）　Sie geh-en　[you go]

注意　この「定形」といふ術語は、これから盛に使ひますから、よく頭に入れて置いて下さい。文章の構造に關する説明が判るか判らぬかは、或ひは一に懸つて定形といふ術語の理解如何に在るかも知れません。

43. **名詞は文章の中途でも頭文字**
der Tee [茶]
デル　テー

ドイツ語の名詞は、英語に於ける固有名詞のやうに、文章の中途に現れる時でも頭文字、即ち大文字を用ひます。

以上で必要な事はすみましたから、早速後章「讀本の部」の第一課を根氣よく讀んで、動詞の人稱變化に慣れて下さい。英語の初歩を知つてゐる方にはすぐ讀めます。

講義の進行に關する辯解。——ひどく啓蒙的に出やがつたな、と思つて苦笑する人に對して一言して置きます。不定法とは何ぞや、なぞと云ふ説明を挿んだのは成程一見非常に啓蒙的大衆的なやうに思はれるかも知れませんがそれは定形といふ重要な概念を抑も最初から叩き込んでおかんがための準備であつて、決して皆様を馬鹿にしたのではありません。また第一卷は、何よりも發音が重要ですから、文法が進んで行く間におのづと發音が呑み込めるやうに、文法そのものの方は、一寸歩みを差し控へてゐるのです。

第四講

名詞の性、數、格

44. **性とは何ぞや？**

名詞に性のないのは、西洋語の中ではまづ英語くらゐなものでせう。獨逸語でもロシヤ語でも佛語でも、みんな其の單語に依つて性の區別があります。佛、西、伊語は男性と女性とに分けますが、獨逸語は拉典、希臘、露語等と同じく、名詞を男女中の三性に分けます。

次に數個、覺え易い名詞を其の性に別けて並べて見ませう。der, die, das 等は各々男女中性の定冠詞です。*m, f, n.* は各々男女中を示す略號で、*m.* は Maskulinum〔マスクリーヌム〕*f.* は Femininum〔フェミニーヌム〕*n.* は Neutrum〔ノイトルム〕の略です。

男性 (*m.*)			女性 (*f.*)			中性 (*n.*)		
der デル	Baum バウム	(樹)	die ディー	Hand ハント	(手)	das ダス	Buch ブーフ	(書)
der	Mann マン	(男)	die	Frau フラウ	(婦人)	das	Kind キント	(子供)
der	Vater フォーテル	(父)	die	Mutter ムッテル	(母)	das	Haus ハウス	(家)
der	Bruder ブルーデル	(兄弟)	die	Schwester シュヴェスタル	(姉妹)	das	Herz ヘルツ	(心)
der	Onkel オンケル	(伯父)	die	Tante タンテ	(伯母)	das	Wort ヴォルト	(言葉)
der	Hund フント	(犬)	die	Katze カッツェ	(猫)	das	Meer メール	(海)
der	Himmel ヒンメル	(天)	die	Erde エールデ	(地)	das	Wasser ヴァッセル	(水)
der	Tisch ティッシュ	(机)	die	Tür テュール	(扉)	das	Fenster フェンスタル	(窓)

父が男性で母が女性は分かり切つた話ですが、樹が男性で手が女性とはどうした譯でせう？

それは第一疑問の起こしかたが間違つてゐるので、樹と云ふ物體が性を持つてゐるのではありません。獨逸語の Baum といふ字が男性なんです。わかりますか？ 性は單語にあるのであつて、物それ自體にあるのではありません。

同じ一人の男を指して der Mann (男) と呼べば男性、die Memme (卑怯者) と呼べば女性になり、縮小形と云ふのを用ひて das Männchen (小男) と云へば中性になります。(縮小形に就ては 47 の 1 を見よ)

初めの内は厄介ですが、根氣よく覺えて行くと、しまひには大抵單語を見てすぐ判別できるやうになります。

それに關して一つだけおすゝめして置きたい事があります。それは、一つの單語を暗記するときには、必ず定冠詞を附して、口調で兩方が一緒に出るやうに覺える事です。

綴が同じでも、性が違ふと意味の變る字まである位です。たとへば

der	See, *m.* (ゼー)	(湖)	die	See, *f.* (ゼー)	(海)
der	Bauer, *m.* (ばウエル)	(百姓)	das	Bauer, *n.* (ばウエル)	(鳥籠)
die	Mark, *f.* (マルク)	(馬克)	das	Mark, *n.* (マルク)	(骨髓)
der	Band *m.* (バント)	(卷, 冊)	das	Band, *n.* (バント)	(リボン)

45. 男性語尾の主なるものは？

或種の名詞は、辭書で引いて檢べるまでもなく、その語尾によつて、その性を判別する事ができます。以下にその語尾の主なるものを擧げますが、これは必ずしも例を全部覺える必要はなく、一つは發音の練習です。ただ頂目の見出しになつてゐる、太く印刷した例語だけは覺えて下さい。

(1) **der Mal-er** (ゼーレル) 畫工 [-er の語尾は大抵男性]

Schneider (シユなイデル)	服屋	Schüler (シゆーレル)	生徒
Bettler (ベットレル)	乞食	Lehrer (れーレル)	教師

(2) **der Früh-ling** (フリゆーリング) 春 [-ling の語尾は凡て男性]

Liebling (りーブリング)	愛兒, 寵兒	Sperling (シユペルリング)	雀
Schmetterling (シユめツテルリング)	蝶	Lehrling (れーるリング)	弟子

(3) **der Dokt-or** (ごクトル) 博士、醫者 [-or の語尾は凡て男性]

Autor (あウトル)	著者	Pastor (ぱストル)	牧師
Direktor (ディれクトル)	校長	Motor (もートル)	モーター

(4) **der Kommun-ist** 共產主義者 [-ist の語尾は男性]

Anarchist (アナルひスト)	無政府主義者	Kapitalist (カピタリスト)	資本主義者
Nihilist (ニヒリスト)	虛無主義者	Idealist (イデアリスト)	理想主義者

(5) **der Kommun-ismus** 共產主義 [-ismus は男性]

Anarchismus (アナルひスムス)	無政府主義	Kapitalismus (カピタリスムス)	資本主義
Nihilismus (ニヒリスムス)	虛無主義	Idealismus (イデアリスムス)	理想主義

46. 女性語尾の主なるものは？

女性語尾は實に澤山あります、が、茲ではほんの主なものだけ擧げます。

(1) **die Maler-in** (まーレリン) 女畫工

隨意の男性名詞に -in の語尾を加へると、それに對する女性名詞が出來ます。

Künstler, *m.* (キゆンストレル)	藝術家	→	Künstlerin, *f.* (キゆンストレリン)	女藝術家
Freund, *m.* (フロイント)	友達	→	Freundin, *f.* (フろインディン)	女友達
König, *m.* (けーニヒ)	王	→	Königin, *f.* (けーニギン)	女王

但し、最後の綴に a, o, u の母音があると、大抵それを ä, ö, ü に變音します。(此の現象を Umlaut〔ウムラウト〕と云ひ、普通變音と云つてゐます。)

Graf, *m.* (グラーフ)	伯爵	→	Gräfin, *f.* (グレーフイン)	伯爵夫人
Koch, *m.* (コホ)	料理人	→	Köchin, *f.* (ケッヒン)	女料理人
Gott, *m.* (ゴット)	神	→	Göttin, *f.* (ゲッテイン)	女神

(2) **die Zeit-ung** (ツァイトウング) 新聞 [-ung は女性]

Nahrung, *f.* (ナールング)	滋養, 食物	Festung, *f.* (フェストウング)	要塞
Bildung *f.* (ビルドウング)	教育	Hoffnung, *f.* (ホフヌング)	希望

(3) **die Wahr-heit** (ヴァールハイト) 眞理 [-heit は抽象名詞で, 女性]

Freiheit, *f.* (フライハイト)	自由	Krankheit, *f.* (クランクハイト)	病氣
Schönheit, *f.* (シェーンハイト)	美	Menschheit *f.* (メンシヒハイト)	人類

(4) **die Ewig-keit** (エーヴィヒカイト) 永遠 [-keit も -heit と同樣]

Fähigkeit, *f.* (フェーイヒカイト)	技能	Einsamkeit, *f.* (アインザームカイト)	孤獨
Schwierigkeit, *f.* (シュヴィーリヒカイト)	困難	Persönlichkeit, *f.* (ペルゼーンリヒカイト)	人格

(5) **die Wissen-schaft** (ヴィッセンシャフト) 學問 [-schaft も抽象, 女性]

Gesellschaft *f.* (ゲゼルシャフト)	社會	Freundschaft, *f.* (フロイントシャフト)	友誼
Nachbarschaft, *f.* (ナーハバールシャフト)	四隣	Barschaft, *f.* (バールシャフト)	現金

(6) **die Universi-tät** (ウニヴェルズィテート) 大學 [-tät も同樣]

Autorität, *f.* (アウトリテート)	權威	Majestät, *f.* (マイエステート)	尊嚴, 陛下
Elektrizität, *f.* (エレクトリツィテート)	電氣	Objektivität, *f.* (オブイエクティヴィテート)	客觀性

(7) **die Sta-t-ion** (シュタツィオン) 停車場 [-tion, -ion 等も女性]

Nation (ナツィオーン)	國民	Religion (レリギオーン)	宗教
Zivilisation (ツィヴィリゼツィオーン)	文明	Konversation (コンヴェルゼツィオーン)	會話

(8) **die Mus-ik** (ムジーク) 音樂 [-ik の語尾も同樣]

Logik (ローギック)	論理	Physik (フュージック)	理學, 物理
Mystik (ミュスティック)	神秘主義	Romantik (ロマンティック)	浪漫派

(9) **die Maler-ei** (マーレライ) 繪畫 [-ei の語尾も女性]

Bildhauerei (ビルトハウエライ)	彫刻	Träumerei (トロイメライ)	夢想
Türkei (テュルカイ)	土耳古	Tschechoslowakei (チェヒヨスロヴァカイ)	國名

(10) **die Nat-ur** (ナトゥール) 自然 [-ur の語尾も女性]

Kultur (クルトゥール)	文化	Literatur (リテラトゥール)	文學
Karikatur (カリカトゥール)	漫畫	Figur (フィギール)	形

47. 中性語尾の主なるものは?

(1) 縮小語尾

大抵の名詞は、その語幹に縮小語尾なるものを附して、所謂縮小名詞 Diminutiv〔ディミヌティーフ〕なるものを作る事が出來ます。縮小語尾は

-chen 〔ヒェン〕
-lein 〔ライン〕

の二種で、此の語尾が附くと、名詞の語幹に變音し得る母音 (a, o, u) がある際には變音します。(即ち ä, ö, ü となる。-au があれば -äu となる。-äu の發音は「オイ」ですから特に注意して置きます。)

die Hand, *f.*	手	das Händchen, *n.*			
der Hund, *m.*	犬	das Hündchen, *n.*			
das Wort, *n.*	言葉	das Wörtchen, *n.*			
der Baum, *m.*	樹	das Bäumchen, *n.*			
das Kind, *n.*	子供	das Kindlein, *n.*			
die Frau, *f.*	婦人	das Fräulein, *n.*	[令孃]!!!		
der Bach, *m.*	小川	das Bächlein, *n.*			

下から二行目の、die Frau が既婚婦人、即ち英語の Mrs.〔ミシズ〕で、その縮小名詞 Fräulein が、柄の小さな可愛いミシズではなくて、未婚婦人即ち Miss〔ミス〕を意味すると云ふ事は、特殊な現象です。

餘談に亘りますが、一時帝都の街頭に現れて尖端ボーイ連をあつと云はした例のマネキン・ガールですね。 あのマネキンといふのは、白耳義地方のドイツ系の言語であるフラマン語の maneken ですが、それはドイツ語の Männchen〔小さな男〕に相當し、本當は畫工のモデルになる木製の人形の事を云つたのです。(低地獨逸語では ch は k になります。)

日本語でも此の -chen, -lein に相當するものがあります。 それは Ogawa, Ojima なぞの縮小詞「を」です。 獨逸語の -chen, -lein は、單に小さいといふばかりでなく、同時に可愛い、なつかしい、また時には侮辱的な意味を含んでゐます。 此の最後の點は、日本語の「を」〔小〕が「お」〔御〕に通じ勝ちなのに比べると反對ですね。

(2) das Leben 人生

動詞の不定法は、「何々する事」を意味しますから、從つて、その儘の形を名詞に用ひます。 然る時には、まづ語頭を大文字に改め、且つ中性として取扱ひます。

動詞		名詞	
gehen (ゲーエン)	歩む	das Gehen (ゲーエン)	歩行

sitzen (ヒツツエン)	坐つてゐる	das Sitzen (ヒツツエン)	坐り居ること
sprechen (シユプレツヒエン)	話す	das Sprechen (シユプレツヒエン)	談話
stehen (シユテーエン)	立つてゐる	das Stehen (シユテーエン)	佇立

48. 複合名詞の性は、最後の名詞に依つて定める

二個以上の名詞が集まつて一個の單語を成す時、即ち所謂複合名詞にあつては、その性は最後の名詞によつて定められます。

die Kirsche, (キルシエ)	*f.*	櫻ん坊
der Baum, (ばウム)	*m.*	樹

上記の二語を合して、櫻の樹(櫻ん坊のなる樹)といふ一語が作られると、樹が最後に來ますから、性は男性になります。

der Kirschbaum, (キルシユバウム)	*m.*	櫻の樹

Kirsch-e の語尾 -e は、口調で無くなります。 合成名詞を作る時の、結びつけ方には、別に一定の規則はありません。 英語は二字離して置きますが、ドイツ語は一字に融合します。もし融合するのが餘り奇拔だと思はれるやうな場合には、二字の間に繋ぎの印 Bindestrich〔ビンデシュトリヒ〕を置きます。殊に形容詞の場合に。

deutsch-japanisches Wörterbuch 獨和辭典
(ドイチユ ヤパーニツシエス ヴルテルブーフ)

性の問題に關してはいづれ詳しい特殊講義をするつもりです。

49. 數に就て

單數 [Singular] 複數 [Plural]

單數複數は英語にもありますが、ドイツ語では特に此の現象に注目する事が必要です。 と云ふのは、英語ならば、名詞の語尾に -s を附ければ大抵複數が出來るから、事が頗る簡單ですが、ドイツ語はさうは行きません。

英語に複數形の不規則なものがあります。たとへば goose が geese になつたり、child が children になつたりするのがそれです。ドイツ語は、ほとんど全部の單語がその調子で行くと思へば大過ありますまい。まあ愕かないで、複數の話をする時まで待つて下さい。初めに悄氣るのは大禁物です。

まつたく、それ位の事で愕いては駄目です。ギリシヤ語やサンスクリットをやつて御覽なさい。複數の外になほ雙數 (Dual) と云ふのがあつて、數個の机といふ際と、二つの机といふ際とでは、机と云ふ字の形がすつかり違ひ、それに附く形容詞も、動詞も、語尾がすつかり別物になつて來るのです。それから考へたらドイツ語は實に樂です。

50.

格に就て	
第一格 [Nominativ]	第三格 [Dativ]
第二格 [Genitiv]	第四格 [Akkusativ]

日本語には、「何々が」とか、「何々を」とか云つて、所謂「てにをは」なるものがあつて、一つの名詞が文章内にあつて、意味の上から、如何なる位置に立つてゐるかを明瞭に表現する手段がありますが、英語ではもうさう云ふ「てにをは」が無くなつて、一部は前置詞に依り、一部は語順に依つてその意を表はしてゐます。

ところが、元來の印歐語系統の言語（印歐といふのは、印度から歐洲に至るといふ意味で、梵語、波斯語、露語、獨語、拉丁語、希臘語、その他白人の言語の大部分を指します。）は、みんな、名詞の語尾變化に依つて、此の「てにをは」を現はして來ました。ドイツ語もそれをはつきりと傳へてゐます。

參考のために、梵語と希臘語と拉丁語とで、「神」といふ名詞の單數だけを變化してみませう。（梵語と拉丁語とには冠詞がありません。）

梵　語

主格	[Nominativ]	devas	神が
呼格	[Vokativ]	deva !	神よ！
屬格	[Genitiv]	devasya	神の
與格	[Dativ]	devaaya	神に

離格	[Ablativ]	devaat	神から
具格	[Instrumentalis]	devena	神で〔を以て〕
所格	[Lokativ]	deve	神の所に
客格	[Akkusativ]	devam	神を

希　臘　語

主格	ο	θεος		神が
呼格	ω	θεος	[θεε]	神よ
屬格	του	θεου		神の
與格	τω	θεω		神に
客格	τον	θεον		神を

拉　丁　語

主格	deus	神が
呼格	deus !	神よ
屬格	dei	神の
與格	deo	神に
離格	deo	神から
客格	deum	神を

獨　逸　語

主格	der	Gott	神が
屬格	des	Gottes	神の
與格	dem	Gotte	神に
客格	den	Gott	神を

一寸斷はつておきますが、基督教徒達の謂ふ神を指す時には冠詞を附けません。それは固有名詞だからです。神を固有名詞だとは、なるほどひどく合理的ですな。之れは英語でも佛語でもさうです。

とにかくまあ以上で、格の如何なるものかは分かつたでせう。

51. **格變化の一例**　今はまだ名詞格變化の序論をやつてゐるので、具體的な事實には言及しませんが、これからの研究が混亂しないやうに、一寸一般の見通しと云つたやうな事を述べて置きます。

これから一體何を研究するのかと云ふに、一言にして云へば、たとへば一個の名詞

der Baum, *m.*　樹

を捕へて、それを次のやうに活用させる方法を研究するのです。（略號は、*S.*＝單數。*Pl.*＝複數。*m.*＝男性。*f.*＝女性。*n.*＝中性。1. 2. 3. 4. は各々「が」「の」「に」「を」を意味します。）

S.			*Pl.*		
1.	der Baum（バウム）	[樹が]	1.	die Bäume（ベイメ）	[樹々が]
2.	des Baum=es（ばウメス）	[樹の]	2.	der Bäume（ベイメ）	[樹々の]
3.	dem Baum=e（ばウメ）	[樹に]	3.	den Bäume=n（ベイメン）	[樹々に]
4.	den Baum（バウム）	[樹を]	4.	die Bäume（ベイメ）	[樹々を]

これが女性の字であつたら、また樣子がすつかり變つて來るわけです。

必ず定冠詞 der 等を附けなければならないと云ふのではありませんが、これで慣らしておくと、定冠詞以外のもの、（形容詞、不定冠詞等）を附ける時に大いに助かるのです。

以上の型を見てもわかる通り、ドイツ語は、一部は名詞の前に附くものによつて、一部は名詞自身の語尾に依つて「が」「の」「に」「を」を表現します。

52. **格變化を知る上の要件**　一字一字に就て其の格變化を知り、上述のやうな合計八段の表がすぐ眼前に繰り擴げられるやうにするためには、二つの條件があります。

(1) 單複各々その一格を知つてゐる事。前に述べたやうに、ドイツ語の複數形は、英語の child, children のやうなもので、單數だけを知つてゐて、一般的規則に依つて其の複數を作るといふ譯には行きませんから、單語をおぼえると同時に、その複數をもついでに覺えなくてはなりません。

老婆心までに云つておきますが、辭書にのつてゐるのは凡て單數一格の形です。（動詞が凡て不定法の語尾 =en, =n をつけて登錄されてゐるのと同樣に。）

(2) 第二の條件は、申すまでもなく、これから述べんとする格變化の一般的規則を知る事です。

これからの話はすべて單複各々一格を與へられたものとして、それを出發點にします。辭書には必ず同時に複數の一格も載つてゐますから。

第　五　講

定　冠　詞　そ　の　他

名詞が格變化をする時に最も重要な役割を受持つてゐるのは其の前に附く冠詞ですから、先づ冠詞の中の一つたる定冠詞の變化を研究します。

53. 定冠詞一覽

		M. (男性)	F. (女性)	N. (中性)
S.	1. (が)	der デル	die ディー	das ダス
	2. (の)	des デス	der デル	des デス
	3. (に)	dem デム	der デル	dem デム
	4. (を)	den デン	die ディー	das ダス
Pl.	1. (が)		die ディー	
	2. (の)		der デル	
	3. (に)		den デン	
	4. (を)		die ディー	

複數は何性でも同じです。

Der Vater liebt die Mutter.
デル　フあーテル　りーブト　ディー　もゥテル

[The father loves the mother.]

父が (der Vater) 母を (die Mutter) 愛する (liebt 不定法は lieben) と云へば、名詞は各々その格の定冠詞を持つてゐます。表を見て下さい。

Der Maler dankt dem Vater der Kinder.
デル　まーレル　ダンクト　デム　フあーテル　デル　きンデル

[The painter thanks the father of the children.]

畫工が (der Maler) 子供たちの (der Kinder = das Kind の複數二格) 母に (der Mutter) 感謝する (dankt = danken が三人稱に人稱變化したもの) となると、冠詞が上の表によつてすつかり違つて來ます。

54. 定冠詞と同語尾の指示詞と疑問詞

dies=er ディーゼル	[英語の this]	此の
jen=er イえーネル	[英語の that]	彼の
jed=er イえーデル	[英語の every]	各々の
solch=er ゼルヒエル	[英語の such]	そんな
welch=er ゔェルヒエル	[英語の what, which]	どの

上の表はみんな男性一格に附ける形を擧げたのですが、(辭書にも、みな男性單數一格を代表として擧げる事になつてゐます) 主として其の語幹の方に注目して下さい。語尾の =er は其の時次第で色々に變化します。

どういふ風に變化するかと云ふと、大體定冠詞と同じです。處々違つた所はありますが。

上の單語の各々に就て其の變化を示す代りに、語尾だけ示しませう。

	M.	F.	N.	Pl.
1.	=er	=e	=es	=e
2.	=es	=er	=es	=er
3.	=em	=er	=em	=en
4.	=en	=e	=es	=e

55. 之れを稱して强語尾と謂ふ

上述の語尾を稱して、後章形容詞の時に現はれて來る弱語尾と區別するために、强語尾と謂ひます。

定冠詞は、此の正式の强語尾なるものが多少崩れたので、謂はば變態强語尾です。

定冠詞と、dieser, jener 等の指示詞、及び疑問詞 welcher は、各格に於て完全に强語尾を取るから、次の第六講で述べる不定冠詞其他と區別して、之れを**完全强語尾詞**と云ひます。

56. 一例 dieſ=er の格變化

(1) 男性名詞の前に來た時

S. 單數	1.	dieſ=er デいーゼル	Mann マン	此の男が
	2.	dieſ=es デいーゼス	Mann=es マンネス	此の男の
	3.	dieſ=em デいーゼム	Mann=e マンネ	此の男に
	4.	dieſ=en デいーゼン	Mann マン	此の男を
Pl. 複數	1.	dieſ=e デいーゼ	Männer めンネル	此の男達が
	2.	dieſ=er デいーゼル	Männer めンネル	此の男達の
	3.	dieſ=en デいーゼン	Männer=n めンネルン	此の男達に
	4.	dieſ=e デいーゼ	Männer めンネル	此の男達を

(2) 女性名詞の前に來た時

S. 單數	1.	dieſ=e デいーゼ	Frau フラウ	此の女が
	2.	dieſ=er デいーゼル	Frau フラウ	此の女の
	3.	dieſ=er デいーゼル	Frau フラウ	此の女に
	4.	dieſ=e デいーゼ	Frau フラウ	此の女を
Pl. 複數	1.	dieſ=e デいーゼ	Frauen フらウエン	此の女達が
	2.	dieſ=er デいーゼル	Frauen フらウエン	此の女達の
	3.	dieſ=en デいーゼン	Frauen フらウエン	此の女達に
	4.	dieſ=e デいーゼ	Frauen フらウエン	此の女達を

(3) 中性名詞の前に來た時

S. 單數	1.	dieſ=es デいーゼス	Kind キント	此の兒が
	2.	dieſ=es デいーゼス	Kind=es キンデス	此の兒の
	3.	dieſ=em デいーゼム	Kind=e キンデ	此の兒に
	4.	dieſ=es デいーゼス	Kind キント	此の兒を
Pl. 複數	1.	dieſ=e デいーゼ	Kinder キンデル	此の兒達が
	2.	dieſ=er デいーゼル	Kinder キンデル	此の兒達の
	3.	dieſ=en デいーゼン	Kinder=n キンデルン	此の兒達に
	4.	dieſ=e デいーゼ	Kinder キンデル	此の兒達を

名詞その者の變化はまだ正式にはやつてゐませんから、玆では主として dieſer の變化を呑み込んで貰ひたいのです。他の指示詞疑問詞もこれと同じ調子で變化します。

57. ſein [英 to be] の人稱變化

Ich bin der Vater dieſes Kindes.
イヒ ビン デル ふぁーテル でいーゼス キンデス

[I am the father of this child.]

bin は英語の am に相當する定形(前出)即ち動詞の人稱變化した形ですが、此の定形に對する不定法、即ち英語の to be に相當する形は ſein です。ſei までが語幹で =n は不定法の語尾です。

ſei=n の人稱變化

ich イヒ	bin ビン	[私は……である]	wir ヴィール	ſind ゼント	[我々は……である]
du ドゥー	biſt ビスト	[汝は……である]	ihr イール	ſeid ザイト	[汝等は……である]

er (エル)	[彼は……	sie (ジー)	sind (ジント)	[彼等は……である]
sie (ジー) ist (イスト)	[彼女は……である]	Sie (ジー)	sind (ジント)	[貴君は……である]
es (エス)	[それは……			

此の sein といふ動詞の人稱變化は一つの例外的變化です。これから少しづゝ異例を暗記して貰ひます。異例であれば、それは必ず重要な言葉です。道具が使はれる程磨滅するやうに、言葉も、その磨滅の甚だしさに依つて其の重要さを察すべきです。

☞ 茲で讀本の部の第二課 (A. B 兩方共)を研究する事。

第六講

不定冠詞その他

58. **定冠詞と不定冠詞との意味の區別**

英語をよく御存じの方には云ふまでもない事ですが、定冠詞は殆んど無意味なもので、譯する時には全然ほつたらかしても構はないものですが、不定冠詞の方は、なるべく譯す方が宜しい。

der	Mensch (めンシュ)	人間	ein (アイン)	Mensch (めンシュ)	或る人間
das	Tier (ティール)	動物	ein (アイン)	Tier (ティール)	一匹の動物
die	Magd (まークト)	下女	eine (あイネ)	Magd (まークト)	一人の下女

der Mensch を「其の人間」なぞと譯するのは、それは特殊な場合で、後章に出て來ますが、それは定冠詞の指示詞的用法といふ部類に屬し、その時には定冠詞とは謂はない事になつてゐます。(第二卷第二十四講)

59. **不定冠詞の變化**

不定冠詞にも、略(ほゞ)定冠詞や指示詞の場合のやうに、所謂强語尾なるものが附きますが、その强語尾は三個所で缺けてゐます。☞ の印を打つたところに注意。(その個所以外は正規の强語尾ですから、改めて研究の要なし。)

		M.	*F.*	*N.*
S.	1.	ein ☞	ein=e	ein ☞
	2.	ein=es	ein=er	ein=es
	3.	ein=em	ein=er	ein=em
	4.	ein=en	ein=e	ein ☞

複數形はありません。「一つの」といふ意味ですから、單數の場合だけしか使はないのです。

60. 之れを稱して不完全强語尾と謂ふ

かくの如く、三個所に於て强語尾が缺如する變化樣式を、不完全强語尾の樣式と謂ひます。表示すると下の樣になります。（但し、複數もあります。即ち此の不完全强語尾樣式に據つて變化するのは單に不定冠詞だけではないから、その他の場合には複數が要るのです。）

不完全强語尾一覽

	M.	*F.*	*N.*	*Pl.*
1.	無尾	-e	無尾	-e
2.	-es	-er	-es	-er
3.	-em	-er	-em	-en
4.	-en	-e	無尾	-e

61. 不完全强語尾を採る物主代名詞其他

下に掲げる物主代名詞その他數個の言葉は、前の章でやつた、完全强語尾を採る定冠詞その他と混同しないやうに、特に念を入れて下さい。後章、形容詞を論ずる時に、此の區別が非常な重大さを帶びて來ますから。

(1) 物主代名詞は全部不完全强語尾

		單數			複數	
一人稱		mein（マイン）	私の		unser（ウンゼル）	我々の
二人稱		dein（ダイン）	汝の		euer（オイエル）	汝等の
三人稱	*M.*	sein（ザイン）	彼の		ihr（イール）	彼等の
	F.	ihr（イール）	彼女の	（敬稱）	Ihr（イール）	貴君の
	N.	sein（ザイン）	それの			

(2) 否定的不定冠詞 kein（カイン）

これは英語の no の一種の用法に當ります。たとへば

英＝[I have no child.]

獨＝Ich（イヒ） habe（はーベ） kein（カイン） Kind（キント）.

「私は一人も子供を持たない」即ち

Ich（イヒ） habe（はーベ） nicht（ニヒト） ein（アイン） Kind（キント）.

と云ふ代りです。

(3) was（ヴス） für（フユール） ein（アイン）.....？　[どんな種類の]

用例一　Was（ヴス） für（フユール） eine（あイネ） Frau（フラウ） bist（ビスト） du（ドゥー）？

お前は [du] どんな [was für eine] 婦人で [Frau] あるか [bist]？

用例二　Was（ヴス） für（フユール） Leute（ろイテ） sind（ゾント） sie（ゾー）？

彼等は [sie] 如何なる [was für] 人たちで [Leute] あるか [sind]？

was für の次の ein が省かれるのは、次の名詞が複數だからです。

62. 一例　sein [英 his] の格變化

(1) 男性名詞の時

S.	1.	sein（ザイン）	Vater（ふあーテル）	彼の父が
	2.	sein-es（ざイネス）	Vater-s（ふあーテルス）	彼の父の
	3.	sein-em（ざイネム）	Vater（ふあーテル）	彼の父に
	4.	sein-en（ざイネン）	Vater（ふあーテル）	彼の父を

Pl.	1.	sein-e	Väter (フェーテル)	彼の父達が
	2.	sein-er	Väter (フェーテル)	彼の父達の
	3.	sein-en	Väter-n (フェーテルン)	彼の父達に
	4.	sein-e	Väter (フェーテル)	彼の父達を

(2) 女性名詞の時

S.	1.	sein-e	Mutter (むッテル)	彼の母が
	2.	sein-er	Mutter (むッテル)	彼の母の
	3.	sein-er	Mutter (むッテル)	彼の母に
	4.	sein-e	Mutter (むッテル)	彼の母を
Pl.	1.	sein-e	Mütter (みゅッテル)	彼の母達が
	2.	sein-er	Mütter (みゅッテル)	彼の母達の
	3.	sein-en	Müttern (みゅッテルン)	彼の母達に
	4.	sein-e	Mütter (みゅッテル)	彼の母達を

(3) 中性名詞の時

S.	1.	sein	Kind (キント)	彼の子供が
	2.	sein-es	Kind-es (キンデス)	彼の子供の
	3.	sein-em	Kind-e (キンデ)	彼の子供に
	4.	sein	Kind (キント)	彼の子供を
Pl.	1.	sein-e	Kinder (キンデル)	彼の子供達が
	2.	sein-er	Kinder (キンデル)	彼の子供達の
	3.	sein-en	Kinder-n (キンデルン)	彼の子供達に
	4.	sein-e	Kinder (キンデル)	彼の子供達を

63. **unser [我等の] と euer [汝等の]**

此の二つの物主代名詞は、格變化をする時は、口調が長つたらしくなるので、好んでその綴の一部を省略します。たとへば「我々の子供に」は、正しく云へば unserem Kinde ですが、それを unserm Kinde または unsrem Kinde と云つても構ひません。「汝等の母が」は、euere Mutter の代りに eure Mutter ともします。むしろ後者の方が普通です。

64. **紛らはしき場合**

既に人代名詞に於ても、たとへば、單に sie と云ふと、彼女だか彼等だか解らないやうな困つた現象があります。Sie と大書してあれば、それは「貴君」と決まりますが、小文字の時には、その次に來る定動詞の語尾によつて初めて判明します。

ところが文章の書き出しは凡て大文字ですから、Sie sind となつてゐる時には、貴君が何とかであるのか、彼等が何とかであるか、全然わかりません。これはドイツ語の缺陷です。然し文章の中に這入つてゐる時には、前後の文脈から推せば大抵わかるのです。また、わかる樣に書いてなければそれは拙い文章です。けれども前後を略いた簡單な練習問題では、兩意の場合がよくありますから、その心算で考へて下さい。

物主代名詞の ihr〔彼女の、または彼等の〕も同樣です。殊に文章の初めで、例へば Ihr Kind…… とあれば、それは三つの意味を持つてゐます。それからまた、物主代名詞 sein [英 his] と、動詞 sein [英 to be] とが偶然同形ですが、これは前後の文脈によつて、決して混同する懼れはない筈です。

65. **haben [英＝to have, 持つ] の人稱變化**

少し前に、「私は小兒を持たない」と云ふ文例を出しましたから、その「持つ」と云ふ動詞の人稱變化を示します。これから人稱變化の示し方はなるべく簡潔にしますが、略された部分は、前の sein 等について察して下さい。

不定法　hab=en（はーベン）　[持つ]

ich（イヒ）	hab=e（はーベ）	私が持つ	wir（ヴィール）	haben（はーベン）	我々が持つ
du（ドゥー）	hast（ハスト）	汝が持つ	ihr（イール）	habt（ハープト）	汝等が持つ
er（エル）	hat（ハット）	彼が持つ	sie（ズィー）	haben（はーベン）	彼等が持つ

念のために云つておきますが、此の人稱變化は du hast, er hat を除けば、他はみんな人稱變化一般の法則に從つて、不定法の語幹 hab= にそれぞれ其の人稱の語尾が附いてゐるきりである事がわかります。

☞ 讀本の部第三課を讀め。

第七講

單數の格變化

其處で愈々懸案になつてゐた名詞の格變化に移ります。冠詞類の格變化をやる際に同時に名詞もあげて來ましたから、もう大體の感じは出來てゐるでせう。

また同じ事を繰り返しておきます。これは重要な事ですから、何遍繰り返しても足りない位です。即ち

單數一格の形と複數一格の形とを知つてゐなければ
八段の格變化表は造られない。

勿論、その他に、その名詞の性を知つてゐなければならないのは云ふまでもない事です。

66. **單數格變化の圖式**　單數一格の形、即ち辭書にある形を假に —— で表はすと、各性各格の形は下の表の如くになります。

	M.	*F.*	*N.*	*M.*（例外）所謂弱變化の男性
1.	——	——	——	——
2.	——(e)s	——	——(e)s	——en
3.	——(e)	——	——(e)	——en
4.	——	——	——	——en

圖式にして見れば案外簡單なものです。男性と中性とは全然同じ語尾を取るし、女性は全部一格の通りと云ふのですから、實に容易です。

唯一つ注意しなければならないのは、男性名詞の中には、表の右端に示したやうな、例外的な變化をする名詞がある事です。これを、**弱變化の男性名詞**と云ひます。

表の中で括弧をした所は、省いても差支へないと云ふ印です。例へば、男性二格の例を引くと、「私の犬の」と云ふ時には、mein=es Hund=es と云つてもよし、又は省略語尾で、mein=es Hund=s〔フンツ〕と云つても好い。中性三格の例を引くと、「彼女の家に」と云ふ時には、ihr=em Hauſ=e が本當だが、ihr=em Haus と云つても好い。

所が、既にアクセントの無い語尾を持つてゐる單語、例へば der Gart=en〔庭〕 der Vat=er〔父〕 das Gebäud=e〔建築〕等を變化する時には、括弧内の(e)は決して入れてはいけない事になつてゐます。

	誤	正
一人の父の	eines Vater=es	eines Vater=s
庭に	dem Garten=e	dem Garten
此の建物の	dieſes Gebäude=es	dieſes Gebäude=s

これらは第一口調から來ることで、極く自然な現象ですから、その中に直ぐ呑み込めます。

67. **格變化の例** 頭の好い人は、上の説明だけで、すぐ讀本部の第四課に行けますが、何だか少し實例を見ないと頼りないと思はれる人のために、左に二三色んな組合せの實例を掲げておきます。

(1) ein Arzt, *m.* 一人の醫師

これは男性名詞(單に男性名詞と云へば、それは例外の弱變化男性でない、普通の男性、即ち前の圖式の左端の M の事です)に不定冠詞を附した例です。(Arzt の發音は、アルツトではなく、アールツトである所に注意)

1. ein Arzt
2. eines Arztes
3. einem Arzte (又は Arzt)
4. einen Arzt

二格は、eines Arzts でも好い筈ですが、口調が悪いから、それは云ひません。

(2) deine Welt, *f.* 汝の世界

これは女性名詞ですから、dein=e のみを變化して、名詞そのものは、みんな同形です。

1. deine Welt
2. deiner Welt
3. deiner Welt
4. deine Welt

(3) jen=es Land あの國

1. jenes Land
2. jenes Land=es, または Land=s
3. jenem Land=e, または Land
4. jenes Land

(4) jed=er Morgen 毎朝

これは、Morg=en と云ふ字に =en の語尾がありますから、二格三格の e を省かないと口調が悪くなります。

1. jeder Morgen
2. jedes Morgen=s [Morgenes は誤]
3. jedem Morgen [Morgene は誤]
4. jeden Morgen

(5) welch=er Menſch? どの人間

Menſch は所謂弱變化名詞ですから、普通のやうには變化しません。

1. welcher Menſch?
2. welches Menſch-en?
3. welchem Menſch-en?
4. welchen Menſch-en?

(6) ſolch-er Knabe. そんな少年
ゼルヒエル クなーベ

Knabe の e は、二格以下に於て省かれます。これも口調です。(これも弱變化の男性)

1. ſolcher Knabe
2. ſolches Knab-en
3. ſolchem Knab-en
4. ſolchen Knab-en

(7) mein Vogel, *m.* 私の鳥
フォーゲル

男性の場合ですが、mein は、ſolcher や jeder や dieſer なぞのやうなのとは違つて、不完全强語尾ですから、mein-er Vogel とは云ひません。特に御注意。

ドイツ語を三年も四年もやつた人が、作文を作らせると、「私の父」を meiner Vater なぞとやつて笑はせることがよくありますからね。さう格變化を勝手に發明してはいけません。

1. mein Vogel
2. meines Vogel-s [Vogel-es は誤]
3. meinem Vogel [Vogel-e は誤]
4. mein-en Vogel

68. 奇問百出

生徒——先生、質問があります。
先生——何ですか?

生徒——「かれの」といふ ſein [英 his] は三人稱單數男性ですね。
先生——さうです。
生徒——男性の癖にどうして女性の語尾を取つたりしますか? だつて ſein-e, ſein-er, ſein-er, ſein-e と、女性の四段に變化するでせう。
先生——なるほどね。それはさうです。ſein, ſein-es, ſein-em, ſein と中性の四段にも變化します。だから ſein そのものは男性ですが、その次に何性の名詞が來るかによつて語尾が決まるので、決して ſein そのものの性とは關係はないのです。物主代名詞に限らず、冠詞とか形容詞とか云ふものは、それ自身の語幹に各々一つの意味を持つと同時に、その語尾によつて、次に來る名詞の性、數、格を示す役目を持つてゐるのです。どうです判りましたか?
他の生徒——先生! 今問題になつてゐる ſein, ſeines, ſeinem, ſein なんてのはみんな二格ですか?
先生——えつ? 何ですつて? それはまたどうした譯で?
生徒——だつて「彼れの」と云つて「の」がつくぢやありませんか。
先生——ははあ、それは毎年出る質問ですな。百人に一人位は必ずさう云ふ疑問を抱くものと見えます。「彼れの」といふ「の」は、それは日本語では「彼れ」が形容的ではなくて、一個の獨立した名詞だから、單にさう云ふ言ひ廻し方をするだけです。では一寸作文を作つて見ませう。「彼の父に」はどう言ひますか?
生徒——Seines Vater です。
先生——それ、そんな事を云ふから困ります。「彼の」の「の」に囚はれて、父が男性だからと云ふので二格の -es を採つたのでせう? さうぢやありません。「彼の父に」といへば ſein-em でなければなりません。まあよく前に出てゐる表を見て考へてごらんなさい。

69. 男性弱變化名詞に就いて

例 der Menſch, des Menſch-en

以上述べたところで、一つの名詞の單數一格の形さへ知つてゐれば四段の活用が出來る事になつた譯ですが、ただ一つ困つたのは、男性名詞の場合で、男性の時には、それが普通の男性〔所謂强變化〕か、それとも例外になる弱

變化かと云ふ事を知る必要があると云ふ、此の點です。もつとも作文の時には、辭書を引けばそれが示されてゐます。たとへば、片山氏の變解獨和小辭典（南江堂發行）で、Löwe といふ字を引いて見ると、始めには

Löwe, *m.*, ～n, *pl.*～n. (1) [動] 獅子 .....

となつてゐます。*m.* とあるのは勿論男性と云ふ事ですが、その次に ～n とあるのは、二格が Löwe-n になると云ふ事で、從つて Löwe は弱變化だといふ事がわかります。普通なら Löwes の筈ですからね。

ところが普通の男性の König を引くと、

König, *m.*, ～s, *pl.*～e, (1) 王、國王

となつてゐます。*m* の次の ～s は矢張り二格です。これは普通の變化、卽ち所謂强變化の男性名詞だといふ事が解ります。

此の、單數二格を示すといふ事は、男性の時にのみ必要なんで、女性中性は例外變化が無いから、たとへば

Luft, *f.* *pl.* Lüfte. (1) 空氣

の如く、二格をあげず、*f.* の次にすぐ複數形が示してあります。

弱變化に屬するのは、主として次のやうな單語です。

(1) 外來語で人を意味するものの大部

der Soldat（ゾルダート） 兵士	der Advokat（アドヴォカート） 辯護士
der Aristokrat（アリストクラート） 貴族主義者	der Demokrat（デモクラート） 民主主義者
der Jurist（ユーリスト） 法律學者	der Journalist（ジュールナリスト） 新聞記者
der Protestant（プロテスタント） 新教徒	der Student（シュトゥーデント） 學生

(2) -e で終る男性名詞

der Knabe（クナーベ） 少年	der Löwe（レーヴェ） 獅子
der Sklave（スクラーヴェ） 奴隷	der Rabe（ラーベ） 鴉

der Hase（ハーゼ） 兎	der Affe（アッフェ） 猿
der Riese（リーゼ） 巨人	der Bote（ボーテ） 使者

(3) その他少數の名詞

der Mensch（メンシュ） 人間	der Tor（トール） 愚人
der Narr（ナル） 馬鹿者	der Held（ヘルト） 勇士
der Prinz（プリンツ） 王子	der Fürst（フュルスト） 侯爵
der Graf（グラーフ） 伯爵	der Ochs（オクス） 牡牛

以上はいづれも基本的な例語ですから、これをしつかり覺えておけば後は類推できるやうになります。

第　八　講

簡單な文章の構成法

70. **語順**　文章を綴る時に、劈頭第一に疑問になるのは語順です。獨逸語の語順は、たとへ英語を知つてゐる人と雖も、改めて研究しなければならぬ事が數々あります。今日は先づそれらの規則の中の最も重要な、讀本の部を讀む上に差し詰め必要な事を數箇條説明しませう。

71. **二格の附け方**

1. das Haus des Onkels
2. des Onkels Haus.

「伯父の家」と云ふ時の「伯父の」[des Onkel=s] は、英語の of the uncle と同様、「家」といふ字の後に附けます。之れが正規の構造ですが、その外になほ、日本語と同じ様に、「伯父の家」といふ文句通りの語順にする事があります。その際は、das Haus の das は除かれます。(英語にも同様の方法があるのは御存じの通り。)

72. **倒置法 (1)**

Haſt du ein Buch?
ハスト　ドゥー　アイン　ブーフ

「汝は一冊の本を持つてゐる」を獨譯すれば——Du haſt ein Buch. となりますが、「汝は本を持つてゐるか?」となると、Haſt du ein Buch? となります。主語 du と、その定形(人稱變化をした形の事)との語順が反對になるから、これを倒置法と云ひます。

ドイツ語の疑問文は如何なる際でも倒置法でやります。

Komm=ſt du heute? —— 汝は今日來るか?
コムスト　ドゥー　ホイテ

Geh=e ich nicht? —— 私は行かないか?
ゲーエ　イヒ　ニヒト

Leb=t er noch? —— 彼はまだ生きてゐるか?
レープト　エル　ノホ

上のやうな場合には、英語ならば Do you come? と云つたやうに、do といふ助動詞と come の不定法とを並用する所です。

73. **倒置法 (2)**

Haſt du Mut, ſo komm!
ハスト　ドゥー　ムート　ゾー　コム

倒置法はまた、「若しも……ならば」と云ふ文を作るのに用ひます。つまり、「若し汝が勇氣を持つなら、然らば來れ!」と云ふ代りに、「汝勇氣を持つや、然らば來れ」と云ふと思へば解ります。これは倒置法の持つ第二の意味として、特によく覺えて下さい。

上の文例の ſo は「然らば」komm! は、komm=en〔來る〕の命令形です。

74. **倒置法 (3)**

Heute kommt er.
ホイテ　コムト　エル

文章の劈頭に、主語以外のものが來ると、その次の主語と定形は倒置されます。これは英語と少し違ふわけです。英語では、主義としては、さういふ場合には倒置をしません。

彼は今日來る、と云はず、今日彼は來ると云はうと思ふと、Heute (今日) er (彼は) kommt (來る) とすると誤で、Heute kommt er といふ順になります。この現象は、讀本の部で、これから盛に出て來ます。

75. **助動詞の用法**　助動詞が加はつて來ると、動詞的要素が少くとも二個になるから、話が大分込み入つてきます。

一寸次の文例の語順を見て下さい。

獨 — Ich will ein Lied ſingen.
イヒ　ヴィル　アイン　リート　ゼンゲン

英 — I will sing a song.

私は一つの歌を歌はうと欲する、と云ふ意味ですが、英語の sing (不定法) に當る ſingen が文章の一番最後にある事に氣がつくでせう。これがドイツ語の語順の一つの顯著なる特徴です。

will は不定法 wollen〔欲する〕の定形です。

76. **werden と wollen** (ヴェーアデン / ヴォルレン)

wollen と、もう一つ重要な助動詞 werden の人稱變化を示します。二つとも不規則です。

不定法 werd=en (意味ハ次ニ説明ス)

定形	ich werd=e (ヴェーアデ)	wir werd=en (ヴェーアデン)
	du wir=ſt (ヴィルスト)	ihr werd=et (ヴェーアデット)
	er wird (ヴィルト)	ſie werd=en (ヴェーアデン)

不定法 woll=en [欲する]

定形	ich will (ヴィル)	wir woll=en (ヴォルレン)
	du will=ſt (ヴィルスト)	ihr woll=t (ヴォルト)
	er will (ヴィル)	ſie woll=en (ヴォルレン)

77. **werden の三つの用法**

上の表で、werden の方は意味が書いてありませんが、これは一寸念を入れて置く必要があるので、少し詳しく分解して置きます。後になつて非常に必要な字ですから。

(1) Ich werde krank. [私は病氣になる]

werden は先づ「なる」と云ふ意味を持つてゐます。但し此の時は助動詞ではなく、獨立した一つの動詞です。

(2) Ich werde heute gehen. [私は今日行く筈]

その次には、英語の shall と同じやうに、未來の助動詞として用ひます。その時には、それと併用する動詞が、不定法になつて、文の最後に來ます。(上例中の gehen.)

(3) Ich werde nicht geliebt. (ゲリープト) [私は愛されない]

これはまだやつてゐない範圍に屬しますが、上例の geliebt は lieb=en [愛する] の過去分詞です。

即ち werden は、過去分詞と共に用ひられると、受身(受働)の助動詞となり、「……られる」と云ふ意味になります。

78. **助動詞ある際の語順**

助動詞が這入る時の語順は、既に上述の文例に依つて多少わかり掛けたでせう。

即ちこれを規則にして云ふと。

定形の助動詞は主語の直後又は直前(倒置の際)に置き、
それに附隨する他の動詞は文章の最後に置かれる。

また繰り返して云ひますが、ずつと前に説明した定形、又は定動詞 [verbum finitum] なる概念が茲に至つて重要な意味を帶びて來ました。定形と不定形との區別は非常に重要です。(42 參照)

定形に附隨する動詞といふのは大抵の場合不定形(不定法)または後章に於て述べる過去分詞です。

即ちドイツ語に於ては、定形と不定法(又は過去分詞)とが文の前後に於て相呼應しつつ一つのまとまつた意味をなすのです。

79. **配語法の練習**

練習のために、助動詞と動詞とを用ひた簡單な文章を作つて見ませう。

まづ出發點として下の如き單純な場合を選びます。

問題一 「彼女が贈る」

贈るといふ不定法は ſchenk=en 故、それを彼女 [ſie] の場合に變化して定形を作ればよろしい。

答 Sie (ジー) ſchenk=t. (シェンクト)

問題二 「彼女は贈るならん」

未來にすれば好い。未來の助動詞 werden の、三人稱單數女性 [ſie wird]

が定形として据えられ、schenken は不定法の位で最後につけられる。つまり英語の位です。

答　Sie wird schenken.
ジー　ヴィルト　シェンケン

問題三　「彼女はそれを贈るならん」

それ [es] を何處へ入れるかの問題です。茲で斷然英語と相異して來る。英語なら一番最後に附けるでせうが、ドイツ語では次のやうになる。(即ち定形と不定形との間へ這入る。)

答　Sie wird **es** schenken.
ジー　ヴィルト　エス　シェンケン

問題四　「彼女はそれを私に贈るならん」

こんどは「私に」[mir] が割り込みます。これもやはり前と同じ。

答　Sie wird es **mir** schenken.
ジー　ヴィルト　エス　ミール　シェンケン

問題五　「彼女はそれを私に今日贈るならん」

答　Sie wird es mir **heute** schenken.
ジー　ヴィルト　エス　ミール　ホイテ　シェンケン

問題六　「今日彼女はそれを私に贈るならん」

こんどは今日が先頭に來ました。すると例の倒置法といふ奴が行はれる。即ち主語 (sie) と定形 (wird) との順が反對になる。—— 意味は大して違ひません。ただ「今日」と云ふ概念が強調されて、明日ではなく今日だ、といふ事になり、「今日」に念が入ります。

答　Heute wird sie es mir schenken.
ホイテ　ヴィルト　ジー　エス　ミール　シェンケン

問題七　「私にこそ彼女はそれを贈るならめ」

變な日本語だが、つまり「私」を強調したのです。

答　Mir wird sie es heute schenken.
ミール　ヴィルト　ジー　エス　ホイテ　シェンケン

問題八　「彼女はそれを私に今日贈るでせうか?」

答　Wird sie es mir heute schenken?
ヴィルト　ジー　エス　ミール　ホイテ　シェンケン

問題九　「彼等は彼等の伯父の園を見ようと欲する」

「欲する」は wollen, その三人稱複數も wollen;「見る」といふ不定法は sehen.

答　Sie wollen den Garten ihres Onkels sehen.
ジー　ヴォルレン　デン　ガルテン　イーレス　オンケルス　ゼーエン

問題十　「彼は彼の父を愛せんと欲する」

答　Er will seinen Vater lieben.
エル　ヴィル　ザイネン　ファーター　リーベン

注意　will に對する不定法 wollen は、英語の will に相當するが、決して未來の意味には用ひず、ただ「欲する」といふ意味のみ持つてゐます。

英語は未來を現はすのに、will と shall とを人稱によつて使ひ分けますが、ドイツ語では、未來を現はす專門の助動詞 werden があるから、そんな間に合せをする必要がないのです。

☞ 讀本の部、第四課を讀め。

第　九　講

複數一格の形に就て

單數一格から出發して其の四段の格變化を知る方法は前々章で終り、讀本の部で其の練習も一通りすみました。こんどは複數です。

單數の形を見て直ちに其の複數一格を知ると云つたやうな一般的規則は遺憾ながら無いのだと云ふ事は、英語の child, children の例をあげて斷はつておきましたが、さうすると、ドイツ語の名詞は一々その複數を暗記しなければならないと云ふ事になります。一寸聞くとぞつとするでせうが、なあに、滿更そんな譯でもありません。字に依ると必ず知れるのもあり、大抵かうだらうと感じで見當のつく事もあり、殊に作文の時とは違つて、原文を讀む時には、次に述べるやうな一般論を心得ておくと、追々見當がつく樣になります。

80. 辭書中の略符　辭書には必ず複數形を示す事になつてゐますが、その際或種の略符が用ひてあります。

たとへば der Mann を引いて見ると

Mann, *m.* ——(e)s. *pl.* —"—er.

最後の *pl.* 以下が複數の形です。線は單數一格卽ち Mann を表し、變音符があるのは、a を ä にするといふ事故、結局その形は Männer となります。(英語の man, men といふのも、此の點でまく似て居るでせう。英語も昔はドイツ語のやうに頗る複雜だつたので、近代に近づくに從つて整理され、單純になつたのですが、まだかういふ man, men のやうなドイツ式がちよいちよい殘つてゐます。ドイツ語を知つてゐると、英語の不規則が說明されます。)

此の Mann, Männer は、複數に於て -er と云ふ綴が殖えるから、假に之れをエル式と名づけます。すると、此のエル式がかなり多いのです。Mann は男性ですが、中性の大部分は -er 式です。

例	Land, ラント	*n.*	國	*pl.*	Länder レンデル
	Gut, グート	*n.*	財	*pl.*	Güter ギューテル
	Blatt, ブラット	*n.*	葉	*pl.*	Blätter ブレッテル
	Haus, ハウス	*n.*	家	*pl.*	Häuser ホイゼル
	Glas, グラース	*n.*	コップ	*pl.*	Gläser グレーゼル
	Loch, ロホ	*n.*	穴	*pl.*	Löcher レクヒエル
	Weib, ヴイプ	*n.*	妻	*pl.*	Weiber ヴイベル
	Kind キント	*n.*	小兒	*pl.*	Kinder キンデル
	Wort, ヴルト	*n.*	言葉	*pl.*	Wörter ヴエルテル
	Buch, ブーフ	*n.*	書物	*pl.*	Bücher ビューヒエル

此のエル式の特徵は、少くとも變音できる母音があれば必ず變音するといふ點です。

エル式はほんの一例ですが、その外に尙ほ e 式といふのがあり、n 式といふのがあり、また單數以上に語尾のふえない、同語尾式といふのがあります。——そして、有難い事には、たつた其の四つきりしかありません。勿論一つの單語がそのどれに屬するかを知るのが一寸大變ですがね。

81. 複數の四種類　その四種を今一寸表にして御覽に入れます。(四種といふのは其の語尾によつて分類したので、變音するかしないかをも顧慮すると、實は六種類になります。)

大別	細別	單複の關係	例
同尾式	同音同尾	*S.*—— *pl.*——	der Onkel — die Onkel (伯父)
	變音同尾	*S.*—— *pl.*—"—	der Vater — die Väter (父)
エー式	同音エー式	*S.*—— *pl.*——e	der Tag — die Tage (日)
	變音エー式	*S.*—— *pl.*—"—e	die Hand — die Hände (手)
エル式	必ず變音	*S.*—— *pl.*—"—er	das Haus — die Häuser (家)
エヌ式	必ず同音	*S.*—— *pl.*——(e)n	die Schwester — die Schwestern (姉妹)

82. **性と複數形との關係** 性と複數形との間には多少の關係があります。

(1) 多少の例外はあるが、**男性名詞**の簡單なものは主としてエー式に屬します。

Arm, (アルム)	*m.*	(Arme) (あるメ)	腕	Berg, (ベルク)	*m.*	(Berge) (ベルゲ)	山
Brief, (ブリーフ)	*m.*	(Briefe) (ブりーフエ)	手紙	Fisch (フイッシュ)	*m.*	(Fische) (フいッシエ)	魚
Freund, (フロイント)	*m.*	(Freunde) (フろインデ)	友	Feind, (ファイント)	*m.*	(Feinde) (ふあインデ)	敵
Hund, (フント)	*m.*	(Hunde) (ふンデ)	犬	Mond, (モーント)	*m.*	(Monde) (もーンデ)	太陰
Tag, (ターク)	*m.*	(Tage) (たーゲ)	日	Tisch, (ティッシュ)	*m.*	(Tische) (てしッシエ)	机

König, (けーニヒ)	*m.*	(Könige) (けーニゲ)	王	Arzt (アールツト)	*m.*	(Ärzte) (えールツテ)	醫師
Baum, (バウム)	*m.*	(Bäume) (はイメ)	樹	Fuß (フース)	*m.*	(Füße) (フゆーセ)	足
Hut, (フート)	*m.*	(Hüte) (ヒゆーテ)	帽子	Kopf, (コップフ)	*m.*	(Köpfe) (けップフエ)	頭
Sohn, (ゾーン)	*m.*	(Söhne) (ゼーネ)	子息	Stock, (シュトック)	*m.*	(Stöcke) (シュてッケ)	ステッキ
Stuhl, (シュトゥール)	*m.*	(Stühle) (シュテゆーレ)	椅子	Traum, (トラウム)	*m.*	(Träume) (トろイメ)	夢
General, (ゲネらール)	*m.*	(Generale (ゲネらーレ)	または	Generäle) (ゲネれーレ)			將軍
Admiral, (アドミらール)	*m.*	(Admirale (アドミらーレ)	または	Admiräle) (アドミれーレ)			提督

(2) エル式に中性の多い事は一寸前に述べました。

(3) 女性は大抵エン式に屬します。殊に女性には單數が -e で終るのが多い。それが全部エン式になるから、これで隨分助かります。

Frau, (フラウ)	*f.*	(Frauen) (フらウエン)	婦人	Tür, (テユール)	*f.*	(Türen) (テゆーレン)	扉
Uhr, (ウール)	*f.*	(Uhren) (うーレン)	時計	Zahl (ツアール)	*f.*	(Zahlen) (ツあーレン)	數
Zeit, (ツアイト)	*f.*	(Zeiten) (ツあイテン)	時	Arbeit (あルバイト)	*f.*	(Arbeiten) (あルバイテン)	仕事
Welt, (ヴェルト)	*f.*	(Welten) (ゑルテン)	世界	Tat (タート)	*f.*	(Taten) (たーテン)	行爲

-e で終る女性名詞

Rose, (ろーゼ)	*f.*	(Rosen) (ろーゼン)	薔薇	Nase, (なーゼ)	*f.*	(Nasen) (なーゼン)	鼻
Blume, (ブろーメ)	*f.*	(Blumen) (ブろーメン)	花	Tasche, (たッシエ)	*f.*	(Taschen) (たッシエン)	ポケット
Schule, (シゆーレ)	*f.*	(Schulen) (シゆーレン)	學校	Erde, (えールデ)	*f.*	(Erden) (えールデン)	土地
Geige, (ガイゲ)	*f.*	(Geigen) (ガイゲン)	提琴	Sonne, (ゾンネ)	*f.*	(Sonnen) (ゾンネン)	太陽

その他、女性語尾の所で述べた、-heit, -keit, -tät, -tion, -ung, -schaft 等の語尾はみな -en 式です。-en 式は、つまり專ら女性のための複數と云つても好い程です。

唯一つ斷つておきたいのは、-in で終る女性です。これは口調上、n を二つにしてから -en を附けます。

Königin, *f.* 女王 ——*pl.* Königinnen.
けーニギン　けーニギンネン

(4) 同尾式は、その單數に於て既に複數のやうな語尾を持つてゐる名詞です。たとへば Vat-er, Gart-en, Gebirg-e (山地) 等で、既に -er, -en, -e なぞをつけてゐますから、その儘を複數に使ひます。また Onk-el の -el も、別に複數の語尾ではないが、同尾式に屬します。

Kais-er, *m.*	(Kais-er)	皇帝		Mal-er, *m.*	(Mal-er)	畫工
かイゼル				まーレル		
Wag-en, *m.*	(Wag-en)	車		Reg-en, *m.*	(Reg-en)	雨
ヴーゲン				れーゲン		
Himm-el, *m.*	(Himm-el)	天		Eng-el, *m.*	(Eng-el)	天使
ひムメル				えンゲル		
Brud-er, *m.*	(Brüd-er)	兄弟		Mutt-er, *m.*	(Mütt-er)	母
ブるーデル	ブりゅーデル			むッテル	みゅッテル	
Gart-en, *m.*	(Gärt-en)	庭		Of-en, *m.*	(Öf-en)	煖爐
がルテン	げルテン			オーフエン	えーフエン	
Vog-el, *m.*	(Vög-el)	鳥		Apf-el, *m.*	(Äpf-el)	林檎
フぉーゲル	フぇーゲル			あプフエル	えップフエル	

所謂縮小名詞(前出)も、-chen, -lein 等の語尾が附く故、同尾式に屬します。これは既に變音をしてゐる故、必ず同音同尾です。

Mädchen, *n.* (Mädchen) 少女　Männchen, *n.* (Männchen) 小男
めーとヒエン　めンヒエン

以上で、複數の形に關する一般的考察を終りました。けれども之れは單なる考察だけで、實際に當つては、やはり一字一字に就いて其の複數形に注意しなければならないので、單語の數が澤山覺はれば覺はる程、いろんな個々の規則が明らかになつて來ます。まだ唯今のやうな程度に於てあんまり細かい規則を數多く詰め込むのは、馬鹿の一つ覺え主義に反しますから、複數の話はこれで一先づ打ち切ります。

83. 助動詞 lassen [to let] mögen [may]

讀本を讀む必要上また助動詞を二つ研究します。

lassen は「……せしめる」また「……する事を許す」と云ふ意味です。

mögen の方は少しむつかしい。後で說明します。

lassen [英 to let]
らッセン

ich	lasse らッセ	wir	lassen らッセン
du	läßt レスト	ihr	laßt ラスト
er	läßt レスト	sie	lassen らッセン

用例一 Der Vater läßt das Kind im Garten spielen.
デル ふぁーテル レスト ダス キント イム がルテン シュぴーレン

父が [der Vater] 小兒を [das Kind] 庭の中で [im Garten] 遊ば [spielen] しめる [läßt]。

im は in と dem とを融合した形で、「中で」といふ際の in の次には必ず名詞を三格にする。これを前置詞の格支配といふ。in は、「中に向つて」といふ場合は四格支配、「中で」といふ際は三格支配です。

前章で說明した、助動詞と動詞とを併用する場合の配語法が此の文章にも現れてゐます。

用例二 Der Onkel läßt seinen Sohn eine Universität besuchen.
デル おンケル レスト ざイネン ゾーン あイネ うニぶルジてート べずーヘン

伯父が [der Onkel] かれの子息をして [seinen Sohn, 男性四格] 或る大學を [eine Universität] 訪れ [besuchen] しめる [läßt]。

不定法 mögen [英 may]
めーゲン

ich	mag マーク	wir	mögen めーゲン
du	magst マークスト	ihr	mögt メークト
er	mag マーク	sie	mögen めーゲン

mögen の最も普通の意味は、「……する事を好む」といふ意味で、その他に英語にもある意味、即ち「たとへ……しようとも」といふ意味もあるが、それは玆では述べない。

用例 Ich mag den Freund meines Bruders nicht sehen.
イヒ マーク デン フロイント マイネス ブるーデルス ニヒト ゼーエン

私は [ich] 私の兄弟の [meines Bruders] 友人を [den Freund] 見る事を [sehen] 好まない [mag nicht]。

84. **複數形を作る練習** 一つは發音の練習のために、略符を見ながら複數を作つて發音する練習をして見ませう。解答はすぐ其の後に出てゐますが、なるべくそれを見ないで。(また單複とも必ず定冠詞をつける事を忘れないで。)

(1) Gast, *m. pl.* —"—e 客
ガスト
(2) Straße, *f. pl.* ——n 街
シュトらーセ
(3) Kind, *n. pl.* ——er 子供
キント
(4) Stock, *m. pl.* —"—e 杖
シュトック
(5) Schwester, *f. pl.* ——n 姉妹
シュヴェステル
(6) Vogel, *m. pl.* —"— 鳥
フォーゲル
(7) Arbeit, *f. pl.* ——en 勞働
あルバイト
(8) Lehrer, *m. pl.* —— 教師
れーレル
(9) Arzt, *m. pl.* —"—e 醫師
アールツト
(10) Buch, *n. pl.* —"—er 書物
ブーフ
(11) Haus, *n. pl.* —"—er 家
ハウス
(12) Kaiserin, *f. pl.* ——nen 皇妃
かイゼリン

(13) Stadt, *f. pl.* —"—e 市
シュタット
(14) Garten, *m. pl.* —"— 庭
がルテル
(15) Frau, *f. pl.* ——en 婦人
フラウ
(16) Tag, *m. pl.* ——e 日
ターク
(17) Zimmer, *n. pl.* —— 部屋
ツィムメル
(18) Hand, *m. pl.* —"—e 手
ハント
(19) Fuß, *m. pl.* —"—e 足
フース
(20) Mutter, *f. pl.* —"— 母
むッテル

解答

(1) Gäste. (2) Straßen. (3) Kinder. (4) Stöcke.
ゲステ シュトらーセン キンデル シュテッケ
(5) Schwestern (6) Vögel. (7) Arbeiten. (8) Lehrer.
シュヴェステルン フェーゲル あルバイテン れーレル
(9) Ärzte. (10) Bücher. (11) Häuser. (12) Kaiserinnen.
エールツテ ビゅーヒエル ヒイゼル かイゼリンネン
(13) Städte. (14) Gärten. (15) Frauen. (16) Tage.
(シュテッテ シュテーテ げルテン フらウエン たーゲ
(17) Zimmer. (18) Hände. (19) Füße. (20) Mütter.
ツィムメル ヘンデ フゅーセ もゅッテル

85. **複數形のみしか無い字** 複數の形のみが使はれて、それに相當する單數形を絶對に使はない字があります。これを稱して文法學者は、拉典語で Pluralia tantum〔プルーらーリア・たントゥム〕と謂つてゐます。

Leute, *pl.* ろイテ	人々
Eltern, *pl.* えルテルン	兩親
Gebrüder, *pl.* ゲブリゅーデル	兄弟[けいてい] (けうだいニ非ズ)
Geschwister, *pl.* ゲシュヴェステル	兄弟姉妹 (兄妹, 姉弟等々)
Ferien, *pl.* フェーリエン	休暇

Kosten, *pl.* 費用
こステン

Trümmer, *pl.* 廢墟
トリゆムメル

Alpen, *pl.* アルプス山
あルペン

Gliedmaßen, *pl.* 四肢
グリートマーセン

Ränke, *pl.* 詭計
れンケ

Blattern, *pl.* 痘瘡
ブらツテルン

Pocken, *pl.* 同上
ぽツケン

Masern, *pl.* 麻疹
まーゼルン

Einkünfte, *pl.* 収入
あインキユンフテ

☞ 讀本の部第五課を讀め。

第十講

複數の格變化

複數一格の形に就て述べて來ましたから、今度は、その一格を出發點として、複數四段の格變化を説明します。こんどは頗る簡單で、殆んど苦しんで暗記するやうな事は一つもありません。

86. **複數格變化の圖式** まづ複數形を、-n で終るものと、然らざるものとに分けます。然らざるものと云つたところで、さう色々な語尾を持つてゐる譯ではなく、前章に於て説明したところで見ると、複數の形は、必ず -e, -er, -en 又は -n, 及び el と、此の五種類になります。下の表は、此の五種類の語尾を -n で終るものと、然らざるものとに分けて、その格變化を示したものです。さうすると頗る簡單になりますから。

語尾が n に終るもの (-n, -en)		然らざるもの (-e, -er, -el)	
1. die	——	1. die	——
2. der	——	2. der	——
3. den	——	3. den	—— n
4. die	——	4. die	——

87. **實例** あんまり簡單ですから、兎や角説明するのは止して、すぐ變化表にした數個の實例を並べませう。

Gast, *m. pl.* —"—e. 客
ガスト

1.	die	Gäste	客たちが
2.	der	Gäste	客たちの
3.	den	Gästen	客たちに
4.	die	Gäste	客たちを

Mutter, *pl.* —"— 母

1.	die	Mütter	母たちが
2.	der	Mütter	母たちの
3.	den	Müttern	母たちに
4.	die	Mütter	母たちを

Vogel, *m. pl.* —"— 鳥

1.	die	Vögel	鳥たちが
2.	der	Vögel	鳥たちの
3.	den	Vögeln	鳥たちに
4.	die	Vögel	鳥たちを

Frau, *f. pl.* ——en 婦人

1.	die	Frauen	女たちが
2.	der	Frauen	女たちの
3.	den	Frauen	女たちに
4.	die	Frauen	女たちを

Garten, *m. pl.* —"— 庭

1.	die	Gärten
2.	der	Gärten
3.	den	Gärten
4.	die	Gärten

Buch, *n. pl.* —"—er 書物

1.	die	Bücher
2.	der	Bücher
3.	den	Büchern
4.	die	Bücher

以上で多分お解りの通り、複數の一二四格は必ず同形で、三格は、もし語尾に *n* がない時に限つて特別に *n* が附け加へられるのです。

最後に一寸私の講義方針に關する説明を附け加へておきます。同時に名詞の格變化全般に亘る復習にもなると思ひますから。

一言にして云ふと、私の此の教へ方は、普通の獨逸語の文法書の教へ方と、或る一點に於て非常に相違があつて、或種の古式な大家は悲鳴をあげて憤慨すると思ふのです。それは、名詞の變化を教へる時に、第一から第五までの部類に分けて、單數から複數四格までの八段の變化全體を表にして教へなかつたからです。たとへば、その教へ方に依ると、

第一變化の甲

例 Vater 父

der	Vater	die	Väter
des	Vaters	der	Väter
dem	Vater	den	Vätern
den	Vater	die	Väter

第一變化の乙

例 Onkel 伯父

der	Onkel	die	Onkel
des	Onkels	der	Onkel
dem	Onkel	den	Onkeln
den	Onkel	die	Onkel

第二變化の甲

例 Arzt 醫者

der	Arzt	die	Ärzte
des	Arztes	der	Ärzte
dem	Arzte	den	Ärzten
den	Arzt	die	Ärzte

第二變化の乙

例 Tag 日

der	Tag	die	Tage
des	Tages	der	Tage
dem	Tage	den	Tagen
den	Tag	die	Tage

第三變化

例 Land 國

das	Land	die	Länder
des	Landes	der	Länder
dem	Lande	den	Ländern
das	Land	die	Länder

第四變化の甲

例 Frau, *f.* 女

die	Frau	die	Frauen
der	Frau	der	Frauen
der	Frau	den	Frauen
die	Frau	die	Frauen

第四變化の乙

例 Mensch, *m.* 人間

der	Mensch	die	Menschen
des	Menschen	der	Menschen
dem	Menschen	den	Menschen
den	Menschen	die	Menschen

第五變化

例 Auge 眼

das	Auge	die	Augen
des	Auges	der	Augen
dem	Auge	den	Augen
das	Auge	die	Augen

つまり、ドイツ語の單語全部を以上の八つの部類に分けて、その一々の部類について、其の類には主として何性のどんな語尾をもつた名詞が屬するか、なぞと云ふ事を研究するのです。 これは實に無益なことで、そんな詮索は文法學者の餘戲に任せておけばよろしい。初學者は決してそんな單語の分類なぞをやつてゐるべきではなく、むしろ一般的規則をはやく呑み込んで、その後は實地に就いて會得して行くべきだと思ひます。

かういふ、どの文法書でも採用してゐる或種の因襲といふものは、すべて其の據つて以て發する淵源なるものがあつて、これは明らかにドイツ人がラテン語やギリシヤ語をやる時の癖から來てゐるのです。 たとへばラテン語では、名詞の單數一格から複數一格までの變化を規準にして、やはり五種の變化に分けてゐます。餘計な事だが、五と云ふ數を符合させた所なぞはラテン語そのままです。 ちよつと拉丁語の一般を示して見ませう。

第一變化 rosa 薔薇

1.	ros-a	ros-ae
2.	ros-ae	ros-arum
3.	ros-ae	ros-is
4.	ros-am	ros-as
離格	ros-a	ros-is

第二變化 dominus 主人

1.	domin-us	domin-i
2.	domin-i	domin-orum
3.	domin-o	domin-is
4.	domin-um	domin-os
離格	domin-o	domin-is

呼格	domin-e	domin-i

第三變化　rex　王

1.	rex	reg-es
2.	reg-is	reg-um
3.	reg-i	reg-ibus
4.	reg-em	reg-es
離格	reg-e	reg-ibus

第四變化　exercitus　軍隊

1.	exercit-us	exercit-us
2.	exercit-us	exercit-uum
3.	exercit-ui	exercit-ibus
4.	exercit-um	exercit-us
離格	exercit-u	exercit-ibus

第五變化　res　物、件

1.	res	res
2.	rei	rerum
3.	rei	rebus
4.	rem	res
離格	re	rebus

此の表を一瞥すればすぐわかる通り、ラテン語では、その變化の部類によつて、格語尾そのものが根本的に相異してゐるのです。此の字が第何番目の變化に屬してゐるかといふ事が分らなければ、格變化が全然わからないのです。それだからこそ態々さういふ煩雜な事を教へる必要があるのです。ところがドイツ語では、第一變化も第二變化も、變化の樣式はちつとも異つてゐない。單數の變化法は第一も第二も第三も同じです。複數の變化も全部に亘つてみんな一定の法則に從つて變化してゐる。それをわざわざ複雜にして初學者を困らせる必要はちつともない。これが私の意見です。

一たいドイツ人と云ふ奴は、事苟しくも學問に關して來るといふと、實用的と云ふ事に對する感じが全然ない。高遠な事柄に就て論ずる時はドイツ人は世界一ですが、初學者に手つ取り早く或種の初步の智識を授けると云つたやうな場合には、ホッテントット人種よりも低能です。ドイツ語を習ふ人は特に其の點に注意しなければなりません。

たとへば、ドイツ人の作つた辭書で、外國人がドイツ語を研究するのに好都合な辭書が、今日までの所まだ一冊もないと云ふ事實なぞが、這般の消息をよく傳へてゐると思ひます。たとへば英國人や佛蘭西人には此の點では絕對に及び難いのです。

だから我我日本人としては、學問上の、殊に語學なぞの實地的方面では、決してドイツ人の學者なんぞのやつてゐる儘を眞似てはいけないのです。

以上は私の文法が舊來の慣習を無視してゐる事に關する辯解ですが、ドイツ文化に關心をお持ちになる方々を前にしての事ですから、決して無益な辯解ではなかつたと信じます。

第十一講

副文章の配語法

88. 副文章とは何ぞや

例へばこんな文章があるとします。「若しおまへが明日私の兄弟を訪問せんと欲するならば、私は今日その事を彼に書いてやるであらう。」 此の文章は明らかに前後二部分から成り立つてゐます。「若しも……ならば」までが一つの意味をなして居り、それから以下がまた一つの別な事を意味してゐます。それよりも、文章の核心をなすのは動詞ですから、動詞を中心にして考へると、此の文章の全體は二つの動作から成り立つてゐる。 それは「訪問する」と云ふ動作と、「書く」といふ動作とです。 そして其の二つの動作を中心にして、明らかに二つの事實が構成されてゐる。だから文章が二つの部分に分けられたやうに見えるのです。

もう一つの例をあげると、たとへば、「汝は汝の父母を愛しない、しかし汝の父母は汝を愛する。」 この文章も、やはり前後二個の部分に岐れてゐます。

ところが前の例と後の例とでは、文法上の性質が全然相違してゐるのです。 これを見わける事ができないと獨逸語の文章論が全然わからなくなります。

そこで少し理屈を云ひませう。「若しおまへが明日私の兄弟を訪問しようと欲するならば、私は其の事を彼に書いてやらう。」といふ文章にあつては、前の方の半部は副文章で、後の方の半部は主文章だといふ事になります。即ち、前半部は、それだけでは一つの完成した意味をなさない。 後半部が來て初めて其の落ち附く先がわかるが、「若し……ならば」だけでは、お二階だけあつて一階のない家のやうなものです。 そんな家は第一考へられない。同樣に副文章だけで主文章のない文章なんてものは考へられません。

ところが、一階だけあつて二階の無い家は在り得ます。 同樣に、主文章だけあつて副文章のない文章はあり得ます。

つまり副文章といふのは、日本語で云ふ時には必ず先に云はなければならない部分で、後に續く本文章の條件になるやうな句を指して云ふのです。文

法學者は、此の副文章の事を從屬文章とも云ひます。それ自身だけでは獨立して存在できない中途半端な句だからです。

それに反して、後で擧げた第二の例を考へて見ると、これは、前後二部分から成り立つてゐるとは云ひながら、それは各々獨立した二つの主文章です。その間に「しかし」といふ繋ぎの言葉が這入つてゐるに過ぎません。

89. 副文章に於ける定形の後置

主文章といふのは、既に今までに述べて來た普通の簡單な文章の事ですから玆では改めて構造法を述べません。ところが副文章の構造法は、たとへば英語なぞとは非常に違つてゐて、むしろ日本語の語順その儘と云つたやうな點がありますから、その點ではむしろ會得し易いのですが、西洋語だと思ふと反つてその日本語に似てゐることが困難に感ぜられるのです。

理屈よりも實例の方が解り易いから早速實例をあげませう。主として配語法に注意して讀んで下さい。

1. daß [……と云ふ事. 英語の that]

Sie sagt mir, daß sie heute zu ihrem Onkel gehen will.
ジー ザークト ミール ダス ジー ホイテ ツー いーレム おンケル げーエン ヴィル

彼女は [sie] 彼女が [二度目の sie] 今日 [heute] 彼女の伯父の所へ [zu ihrem Onkel = zu なる前置詞は三格を支配する] 行かうと [gehen] 欲する [will] と [daß] 云ふ [sagt]。

2. weil [が故に]

Sie werden einen Preis bekommen, weil Sie so fleißig sind.
ジー ヴェールデン あイネン プライス べこムメン ヴァイル ジー ゾー フらイシヒ ジント

あなたは [二度目の Sie] そんなに [so] 勤勉 [fleißig] である [sind] から [weil] あなたは [Sie] 一つの褒賞を [einen Preis] 得る [bekommen] でせう [werden]。

3. wenn (若しも……ならば)

Der Arzt wird deine Mutter besuchen, wenn sie noch immer krank ist.
デル アールツト ヴィルト ダイネ むッテル ベすーヘン ヴェン ズィー ノホ いムメル クランク イスト

彼女が [sie 母の事] まだ [noch] 相變らず [immer] 病氣 [krank] である [ist] ならば [wenn] 醫者が [der Arzt] お前の母を [deine Mutter] 訪問する [besuchen] でせう [wird]。

4. da (……から) [weil と略同意]

Das Kind muß immer bei seiner Mutter bleiben, da der Vater es nicht allein spielen läßt.
ダス キント ムス いムメル バイ ざイネル むッテル ブらイベン ダー デル ふあーテル エス ニヒト アらイン シュぴーレン レスト

小兒は [das Kind] 父が [der Vater] 彼を [es, 小兒が中性故] 獨りでは [allein] 遊ば [spielen] しめない [nicht läßt] から [da] 何時も [immer] 自分の母の所に [bei seiner Mutter] とどまら [bleiben] なければならぬ [muß]。

5. ob [……かどうか、英語の whether]

Wir fragen unsere Eltern, ob sie nach Hause gehen wollen.
ヴィール フらーゲン うンゼレ えルテルン オップ ズィー ナーハ はウゼ げーエン ヴォレン

我々は [wir] 我々の兩親に [unsere Eltern = 文字通りに云へば「我々の兩親を」です。 fragen 問ふ、と云ふ動詞は日本語とは違つて四格の補足語を取ると云ひます] 彼等が [sie] 家へ [nach Hause 熟語ですから Hause に冠詞がありません] 行かうと [gehen] 思ふ [wollen] かどうかを [ob] 問ふ [fragen]

6. obgleich [……にも拘らず]

Er kann Krankheiten heilen, obgleich er kein Arzt ist.
エル カン クらンクハイテン はイレン オップグらイヒ エル カイン アールツト イスト

彼は [er] 彼が [er] 醫者でない [kein Arzt ist] に拘らず [obgleich] 病氣を [Krankheiten = 冠詞がないのは不定冠詞の複數故] なほす事が [heilen] できる [kann]。

以上の文例で、will, sind, ist, läßt 等、所謂定形(42 參照)なるものが、副文章内に於ては日本語の場合と同じ語順、即ち文章の一番最後に置かれる事が解つたらうと思ひます。即ち、副文章の構造は、接續詞 daß, weil, da 等が先頭に位する事だけが日本語と反對で、その他の配語法は殆んど日本語と變らないのです。

ただ否定の nicht だけは、日本語では一番最後だが、ドイツ語では動詞の前に來ます。動詞といふのは、定形ではなく、不定法等の前にです。

原則として云ふと、主文章内に於ては、定形は主語の次に位し、副文章内に於ては最後位を占めるのです。むしろ最後位を占める事が、その文章が副文章なることを表示する役目を持つてゐるのです。この現象を**定形の後置**と呼んで置きませう。

90. **主文章副文章全般に亘る考察**

日本語の配語法と比較すると、ドイツ語の配語法は非常に簡單に覺えられます。即ち、主文章に於ても副文章に於ても、主語と定形とを除く他の各要素の配列法は全然日本語と同しと思つて大過ありません。(接續詞だけは例外ですが。)そして主文章に於ては定形が主語の次、または主語の前に來(所謂倒置法)、副文章に於ては最後に來る(定形の後置)といふ、ただ之れだけの話です。定形といふ概念さへ得られると、理屈はこんなにわかり易くなります。

次に同じ意味の主文章を副文章に改める練習をして見ませう。定形以外のものは絶對に移動させるに及びません。只接續詞を先頭に据えて、定形を最後に移しさへすれば、それで好いのです。

主文章 「私は今朝學校へ行かねばならぬ」。

Ich muß heute morgen in die Schule gehen.
イヒ ムス ほイテ もルゲン イン ディー しユーレ げーエン

註 1. heute morgen の morgen は大文字に書く事もありますが、それは稍古式です。
2. in der Schule (三格) は「學校で」の意、in die (四格) となると「……へ」になります。
3. 定形は勿論 muß (ねばならぬ) で、muß の不定法は müssen〔英 must〕です。

上文を、たとへば「私は今日學校へ行かねばならないに拘らず」と改めて見ませう。すると muß を後へ持つて來ればそれで好いのです。

Obgleich ich heute morgen in die Schule gehen muß.

最初の obgleich を除けると、後はその儘の順に譯して行けば日本語になるでせう。

91. 語學史的考察

語學史的に多少の考察を加へると、此の定形を最後に持つて來る副文章の構造は、西洋の言語としては、一寸古代の遺物に屬するわけで、古くは西洋各國語の祖先である梵語に於て此の構造が最も顯著な發達を遂げて居り、ギリシヤ語ラテン語に於ては、それよりはいくらか現代の英語式な語順がはびこりかけてはゐますが、それでもやはり此の定形後置の構造が大部分を占めてゐます。

たとへばラテン語では、「父は善良である」といふ簡單な文を作る時にでも、極く自然な文を作らうと思へば、

Pater bonus est.
父は 善良 である

となり、定形 est〔獨逸語の ist〕は日本語の通り後に來るのです。しかも之れは副文章ではなく本文章です。

定形を後置する構造を後結法と呼び、英語的に主語のすぐ後へ持つて來るのを前結法と呼ぶとすれば、日本語は最も完全な後結法を守り、現代の西洋語、殊に南方諸國の言語は完全な前結法であり、ドイツはその中間で、主文章は前結的、副文章は後結的といふ事になります。

92. 併立する二つの主文章

此の章の一番最初に擧げた二つの文例のうちの最後のもの、即ち、「汝は汝の兩親を愛しない、併し汝の兩親は汝を愛する」と云ふ文をもう

一度考へて貰ひたい。此の文章もやはり二つの部分に分れてはゐますが、決してそれは主文章と副文章とではない。兩方とも併立してゐる二つの主文章です。また一階と二階との例を引くと、これは二階と一階との關係ではなく、並んで建つてゐる二軒の平屋です。だから文章の構造も、兩方ともあたりまへの主文章に作つて、その間に「併し」といふ接續詞を入れればそれで好いのです。

Du liebst deine Eltern nicht, aber deine Eltern lieben dich.
ドゥー リーブスト ダイネ エルテルン ニヒト あーベル ダイネ エルテルン リーベン ディヒ

汝は [du] 汝の兩親を [deine Eltern] 愛しない [liebst nicht] しかし [aber] 汝の兩親は [deine Eltern] 汝を [dich] 愛する [lieben]。

主文章副文章の關係であるか、それとも二つの主文章の關係であるかは、常に注意しなくてはなりません。作文の時には殊に必要です。

併立する二つの主文章を結び付ける接續詞は左のやうなものです。(詳細は第四卷 301)

aber (あーベル)	しかし
oder (おーデル)	もしくは
und (ウント)	そして
denn (デン)	如何となれば
doch (ドホ)	しかし
allein (アらイン)	しかし
dann (ダン)	それから [英語の then]

93. können [英 can] と müssen [英 must]

副文章の文例に此の二つの助動詞の定形を用ひましたから、その人稱變化を表示しませう。助動詞はすべて人稱變化が不規則ですから、一々覺える必

要があります。數は大してありません。時稱の助動詞が三つ (sein, haben, werden) 話法の助動詞といふのが七つ (wollen, müssen, können, dürfen, lassen, mögen, sollen) それきりです。

不定法　können (ケンネン) (can)

ich	kann (カン)	wir	können (ケンネン)
du	kannst (カンスト)	ihr	könnt (ケント)
er	kann (カン)	sie	können (ケンネン)

不定法　müssen (ミュッセン) (must)

ich	muß (ムス)	wir	müssen (ミュッセン)
du	mußt (ムスト)	ihr	müßt (ミュスト)
er	muß (ムス)	sie	müssen (ミュッセン)

☞ 讀本の第六課を讀む事

第十二講

形容詞の格變化

概論

形容詞の格變化は、獨逸語の文法の先づ最初の難關とされてゐます。「形容詞の語尾すらわかつてゐない癖に」なぞと云つた樣な言葉がよく口にされる所を以て見ると、此の形容詞の語尾なるものが解らなければ一人前でないと見えます。

形容詞の格變化は、これがずらりと表になつてゐる所を見ると、ひやあ、こんなのを一々暗記するのは大變だなあ、と云つた樣な氣持がしますが、一應よく其の理屈を呑み込んでしまへば決して愕くには當らないものなので、厄介な表を掲げるよりも前に先づ主旨を理解して頂く事にします。その爲めに、此の一講だけは、概論の部と各論の部とに分けまして、同じ事柄を二度繰り返して述べる事にします。即ち只今の概論の部に於ては、形容詞の格變化に關する一見甚だ複雜な表を一貫してゐる、一つの簡單な法則に就て研究し、各論の部に於てはこれを色々な場合に當てはめながら、元來は單に與へられたる表として鵜呑みにしなければならない筈の物を、一たび會得したる法則の力に依つて作り上げて行くと云ふ方針を取るのです。換言すれば、暗記力に訴へるよりも前に先づ理解力に訴へると云ふ Methode [メとーデ] です。

94. 形容詞の客語的用法と附加語的用法

嚴密に考へて頂くために、先づ根本的な事實から出立します。いやにやかましい事を云ふやうですが、既に相當の頭腦を持つた智識階級の人が一つの語學を習得せんとする時には、子供が英語を習ふ時とは違ひますから、やはり相當に文法上の認識論に深入りした方が、結局は混亂を豫防し、曖昧を除去する事になつて將來のためです。

形容詞には二種類の用法があります。「私の母は病氣である」といふ際の「病氣」と、「私の病氣の母」といふ際の「病氣」とは、ドイツ語では、とにかく兩方とも形容詞には相違ないが、用法が全然ちがひます。前者を形容詞の客語的用法と云ひ、後者を附加語的用法と云ひます。

Meine Mutter ist krank.——客語的用法
（メイネ　むッテル　イスト　クランク）

Meine kranke Mutter.——附加語的用法
（メイネ　クランケ　むッテル）

すぐ注目して貰ひたいのは、krank [sick] なる形容詞が、客語として用ひられる時には原形の儘だが、附加語として用ひられる時には -e の語尾を採つてゐる點です。此處がつまり英語と違ふので、英語ならば my mother is sick の際も my sick mother の際も sick は依然として sick の儘ですが、ドイツ語では、附加語として用ひられる言葉は、冠詞たると形容詞たるとを問はず、すべて「格語尾」といふものを採らなければならないのです。

すると形容詞はすべて冠詞と同じ樣な語尾を採るかと云ふに、——玆が形容詞のむつかしい所以なので——さうは行きません。冠詞並びに冠詞と同じ取扱ひをするもの——即ち指示代名詞、物主代名詞等——は、既に述べて來た樣に、各性各格に對する一定の語尾を持つてゐます。定冠詞の男性三格と云へば dem に決まつて居り、物主代名詞 sein [his] の女性二格と云へば seiner と決まつて居ます。故に、それらの冠詞、指示代名詞、物主代名詞等を一括して、之れを形容詞から區別するために、「定語尾屬」または「定語尾を有する附加語」と呼びます。

すると、形容詞はどうかと云ふに、形容詞は普通此の「定語尾屬」なるものと名詞との間に置かれるもので、——たとへば der kranke Vater (病氣の父)——若し形容詞までが定語尾と同じ語尾を採るとなると、同じ樣な語尾が澤山續いて妙に單調な變な事になりますから、——たとへば der guter Vater 等——それを緩和せんが爲めに、形容詞のために特別に「弱語尾」といふものが設けられてゐます。der krank-e Vater の krank-e の -e は、その弱語尾なるものです。

すると形容詞は如何なる場合に於ても其の弱語尾を採りさへすれば好いのかと云ふに、さう云ふ譯でもありません。たとへば「私の病氣の父」といふ際には、前例と同じく男性の一格でありながら mein kranker Vater と云つて、krank- は -er の語尾を採ります。つまり定冠詞なぞと同じ、所謂强語尾

なるものを採るわけです。それは何故かと云ふに、前例の der kranke Vater の場合には der に既に -er といふ强語尾が附いてゐるから krank が弱語尾を取つたのですが、mein kranker Vater の際は、mein は -er の强語尾を採つてゐません。故に、形容詞の方が代償として -er の語尾を採るわけです。

95. 附加語として用ひられる形容詞には二樣の語尾あり

これで愈々形容詞の格語尾に關する難點が明瞭になりました。形容詞には、定語尾屬の如き、一定の格語尾がない。其の前に置かれる定語尾屬が强語尾を採つて居るかゐないかに從つて、二種の語尾を使ひわける。換言すれば形容詞の格語尾は相對的なものだと云ふ事が明瞭になりました。

老婆心までに一つ特に念を入れて置きたい事があります。それは、形容詞の語尾を決める時には、まづ第一に其の前に來る定語尾屬の形がはつきりとわかつてゐると云ふ事が先決條件になるのですから、既に通過して來た der des dem den の變化、及びそれとは數個所違つてゐる ein, eine 等の變化を此の際はつきり念頭に思ひ泛かべて下さい。同時に、强語尾とは何ぞや (55 項) 完全强語尾を有する冠詞屬と不完全强語尾を有する冠詞屬とはどう違ひ、その各々には如何なる種類のものが屬するか (60) の問題をも一寸復習して貰ひたいと思ひます。

96. 形容詞格語尾一覽表

强語尾は既に御存じの筈ですから、實をいふと玆では弱語尾の表だけで好い筈なんですが、兩方を對照しなければならない關係上、强弱の兩語尾を一括して表にして見ます。主として弱語尾の方を暗記して下さい。

m.

	强	弱
1	-er	-e
2	-es	-en
3	-em	-en
4	-en	-en

f.

	强	弱
1	-e	-e
2	-er	-en
3	-er	-en
4	-e	-e

n.

	强	弱
1	-es	-e
2	-es	-en
3	-em	-en
4	-es	-e

pl.

	强	弱
1	-e	-en
2	-er	-en
3	-en	-en
4	-e	-en

弱語尾の方は、一見すれば判る通り、-e と -en の二種だけしかありません。その中でも -e の方は五個所だけで、他はすべて -en ですから、覚え方によつては非常に簡單になります。

要するに强語尾の方が正式の語尾で、弱語尾はその形の崩れたもの、或ひは「音便」の様なものだと思へば好い譯です。

97. 强弱二様の語尾の使ひ分け方

もう其の二つの使ひ分け方は 94 項で一寸説明しましたから、呑み込みの好い方は多分おわかりになつたらうと思ひますが、なほ念のために一つ法則にして申し上げて置きませう。

まづ順序として、今までに述べて來た範圍内に於て、一寸臨時の法則を建てて見ます。後になるとまたその例外が生じて來て、一部分訂正しなければならないのですが、踏む可き順序を踏まないと或種の構造がはつきりしませんから、廻りくどい様だが、やはり私の説明に附いて來て頂かないと困ります。

今までの話によると、形容詞の格語尾が强を採るか弱を採るかは、その前に置かれる「定語尾」屬が既に强語尾を採つてゐるか、それとも無語尾であるかに依つて左右されるのでした。之れを法則として約言すると——

> 附加語として用ひられる形容詞は、その前に立つ定語尾屬が既に强語尾を採れる際には弱語尾を採り、然らざる場合、卽ち定語尾屬が無語尾なるか、それとも全然何等の定語尾屬も前に置かれざる場合には形容詞其の者が强語尾を採る。

何等の定語尾屬もなくして初めから形容語で初まることは有り得ます。たとへば、「良き父よ!」と呼び掛ける際——此の際には勿論一格を用ひますが、ギリシヤ語やラテン語の例にならつて此れを呼格 (Vokativ) と呼ぶ事があります、そして呼格には決して冠詞を附けません——には guter Vater! と云ひます。また不定冠詞の複數の場合には無冠詞です (gute Väter).

98. 一寸した例外

ところが、形容詞と名詞とだけの場合に、一寸した例外が生じて來ます。それは次の様な場合です。

gut-en	Weines	良き酒の	[男性二格]
gut-en	Vaters	良き父の	[男性二格]
gut-en	Kindes	良き兒の	[中性二格]

此の gut-en の語尾は弱語尾ですから、唯今述べた規則に反してゐる譯です。前には定語尾屬がないから、gut には强語尾を附して gutes Weines, gutes Vaters 等になる可き筈です。ところがさうならないのはどう云ふ譯でせうか?

男性中性の二格に於て、冠詞類を伴はざる形容詞が弱語尾を採るのは、やはり音便の關係で、その原因は名詞の語尾に在ります。guten Weines の際は、Wein に -es と云ふ丁度二格の强語尾と同じものが附きますから、それが影響して gut の語尾が弱になるのです。

斯う云ふ現象は、その名詞が男性の弱變化名詞の際を考慮に入れて見ると益々はつきり首肯する事が出來ます。男性弱變化名詞は、69 項に説明した通り、二格に於ては -es の語尾を採らないで、-en の語尾を採ります。その際は、前に附く形容詞が代償として -es の强尾を採ります。

gut-es	Mensch-en	良き人間の
gut-es	Knab-en	良き少年の

斯くの如く、次に來る名詞の語尾が前に立つ形容詞の語尾に影響を及ぼすといふ事は、男性中性の二格に限つてある現象です。如何となれば、それ以外の場合には名詞に形容詞と同じ强語尾の附く場所が無いからです。

一つ斷はつて置きたいのは、guter Vater 等の場合の Vater といふ形です。Vater には -er と云ふ一見男性一格の强語尾の如きものが附いてゐますが、これは「格語尾」ではありません。それは單數の一格から複數の四格までに全部つくもので、名詞その者の語尾であつて、特別に一格であるが故に附けたものではありません。それ故形容詞の語尾を弱めるだけの資格は持つてゐないのです。——名詞その者が元から持つてゐる語尾と「格語尾」とを混同してはいけません。

そこで結論を下します。いづれにしても、後に續く名詞の格語尾に依つても影響を蒙る事があるとすれば、前項に於て述べた法則は、嚴密に云ふとすれば左の如く改めなければなりますまい。

附加語として用ひられる形容詞は、その前に立つ定語尾屬或ひはその後に來る名詞が既に强語尾を採れる場合には弱語尾を採り、然らざる場合、卽ち定語尾屬が全然無語尾なるか、それとも全然何等の定語尾屬も前に置かれざる際には形容詞その者が强語尾を採る。

法則はこれで完全になりました。

99. 相補の法則 Kompenſationsgeſetz

此の法則さへ理解して居れば、各論の部に入つてから展開される諸種の場合は、別に苦しんで暗記しなくても、作文の時なぞには、少し理屈を考へて居れば、自分で表を作り上げる事が出來ます。

私は此の法則を相補の法則と名づけて置きます。それは、形容詞と、形容詞の前後に置かれるものとの間に成り立つてゐる或種の默約の樣なもので、形容詞の方か、形容詞の前後か、とにかくそのいづれかに强語尾が無くてはならないが、その兩方ともに在るといふ事は決して無いのです。前後に在る時には形容詞にない、形容詞に在る時には前後に無いと云ふ關係になつてゐて、此の「强語尾」と云ふものを中心にして考へて見ると、その兩者の間には或種の相補の法則が支配してゐると見る可きです。

形容詞の問題を離れて一寸一般的な觀察になりますが、此の「强」だの「弱」だのと云ふ妙な用語は、ドイツの有名な國語學者 Jakob Grimm が用ひてから後一般に採用される樣になつたのですが、それは單に形容詞の場合のみではなく、名詞の變化についても、また第二卷に於て述べる動詞の三要形なるものについても用ひられる言葉ですから、それらが一緒にならない樣に、はつきりと場合を區別して置いて下さい。

各　論

以上に述べた相補の法則なるものを活用して、これから愈々形容詞の格變化を表にして作り上げて見ませう。頭の好い方は、別に表を見るまでもなく、自分で作る事がお出來でせうが、單にやつと表が作れると云ふ事のみを以て足れりとせず、進んでは其の表に慣れながら習慣の力で覺える事も必要ですから、これからは、暗記を主にしてやつて行きませう。

まづ形容詞を用ひる場合、その前に來るものの種類によつて三つの場合が考へられます。

1. 前に定語尾屬なき場合

guter Vater!　　良き父よ！

2. 前に完全强語尾を有する定語尾屬が來る場合

der gute Vater　　良き父

3. 前に不完全强語尾を有する定語尾屬が來る場合

ein guter Vater　　一人の良き父

100. 定語尾屬なき場合（形容詞の强變化）

これを普通形容詞の强變化と云つてゐますが、それは一寸語弊があつて、98 項に於て申し上げたやうに、男性と中性の二格は弱變化になるのですから、嚴密に云ふと混合變化です。けれども普通は强變化と呼んでゐます。

	單數						複數	
	男性		女性		中性		（各性）	
1	gut-er	Mann	gut-e	Frau	gut-es	Kind	gut-e	Leute
2	gut-en*	Mannes	gut-er	Frau	gut-en*	Kindes	gut-er	Leute
3	gut-em	Manne	gut-er	Frau	gut-em	Kinde	gut-en	Leuten
4	gut-en	Mann	gut-e	Frau	gut-es	Kind	gut-e	Leute

〔註〕 * の個所のみ弱語尾を採つてゐる。

Mann = 男　Frau = 女　Kind = 子供　Leute = 人々

それから、名詞そのものが、二格に於て -es を採らぬ場合、卽ち男性弱變化名詞にあつては次の如くなります。二格だけが前の表の男性とちがつて來るきりです。

	男性弱變化名詞	
1	gut=er	Mensch
2	gut=es	Menschen
3	gut=em	Menschen
4	gut=en	Menschen

101. 完全强語尾を有する定語尾屬の次に來る場合
(形容詞の弱變化)

完全强語尾を有する定語尾屬といふのは左の六つが主なものです。

der	(定冠詞)	jeder	[every]
dieser	[this]	solcher	[such]
jener	[that]	welcher	[which]

假に一番普通な定冠詞を附けて表を作つて見ると。

	單			數					
	m.			*f.*			*n.*		
1	der	gut=e	Mann	die	gut=e	Frau	das	gut=e	Kind
2	des	gut=en	Mannes	der	gut=en	Frau	des	gut=en	Kindes
3	dem	gut=en	Manne	der	gut=en	Frau	dem	gut=en	Kinde
4	den	gut=en	Mann	die	gut=e	Frau	das	gut=e	Kind

	複		數
1	die	gut=en	Leute
2	der	gut=en	Leute
3	den	gut=en	Leuten
4	die	gut=en	Leute

此の際には、前に來るものが完全强語尾ですから、後に來る形容詞は必然的に完全弱語尾の筈です。これを普通弱變化と稱してゐるのはすこぶるもつともです。

102. 不完全强語尾を有する定語尾屬の次に來る場合
(形容詞の混合變化)

今度は一寸注意しなくてはなりません。同じ定語尾屬ではありながら、不定冠詞 ein 物主代名詞 mein, dein 其の他、及び否定冠詞 kein は、定冠詞などとは一部分變化表がちがつて來ます。即ち三個所に於て强語尾を缺いた、所謂不完全强語尾の定語尾屬なるものです。これが出立點ですから、この點がはつきりわからないでゐる方は一寸第六講の 59 項 60 項を讀み直して下さい。

かう云ふ定語尾屬が前に來ると、形容詞はその三個所强語尾の缺けてゐるところでは强語尾を取り、その他では弱語尾を採ります。それから複數では、不定冠詞の場合には、第一不定冠詞をつけませんから、形容詞は四段とも强、mein, dein 等にあつては弱になります。大變厄介なやうですが、既に相補の法則を理解してゐれば何でもない事です。先づ例として不定冠詞の場合と、mein を附した場合とを表示して見ませう。

不定冠詞を伴ふ場合

	單			數					
	m.			*f.*			*n.*		
1	ein	gut=er	Mann	eine	gut=e	Frau	ein	gut=es	Kind
2	eines	gut=en	Mannes	einer	gut=en	Frau	eines	gut=en	Kindes
3	einem	gut=en	Manne	einer	gut=en	Frau	einem	gut=en	Kinde
4	einen	gut=en	Mann	eine	gut=e	Frau	ein	gut=es	Kind

	複	數
1	gut-e	Leute
2	gut-er	Leute
3	gut-en	Leuten
4	gut-e	Leute

mein を伴ふ場合

	單			數		
	m.		*f.*		*n.*	
1	mein gut-er	Mann	meine gut-e	Frau	mein gut-es	Kind
2	meines gut-en	Mannes	meiner gut-en	Frau	meines gut-en	Kindes
3	meinem gut-en	Manne	meiner gut-en	Frau	meinem gut-en	Kinde
4	meinen gut-en	Mann	meine gut-e	Frau	mein gut-es	Kind

	複		數
1	meine	gut-en	Leute
2	meiner	gut-en	Leute
3	meinen	gut-en	Leuten
4	meine	gut-en	Leute

103. 格變化の際特に注意すべき形容詞

1. weiſe (賢明なる) müde (疲れたる) 等、客語的用法の際に -e といふ語尾の附く字があります。

Ich bin ganz müd-e.
イヒ ビン ガンツ ミュード

譯　私はすつかり草疲れてゐる。

辭書にも勿論 -e なる語尾が附いた儘擧げてあります。故に附加語的用法の場合には、weiß, müd と見なして語尾を附けて行きます。

ein müder Hund.
アイン ミュードル フント

譯　一匹の疲れた犬。

2. hoch (高い) と云ふ字に限つて、これを附加語的に用ひる際には hoh- として變化します。こんな事は此の一字きりです。

客語的＝Der Berg ist hoch.
デル ベルク イスト ホーホ

譯　(山は高い)

附加語的＝Der hohe Berg.
デル ホーエ ベルク

(譯　高い山)

3. edel (高尚な、貴き) dunkel (暗い) heiter (朗らかな) 等、語幹そのものが既に語尾樣のものを備へてゐる字は、最後の綴の e を省いて格語尾を附けます。但し -er の語尾の方は必ずさうしなければならない事はありません。

ein edles Haus. (或る貴き家柄)
アイン エードレス ハウス

ein dunkles Zimmer. (或る暗い部屋)
アイン ドゥンクレス ツィムメル

ein heitres Wetter. (或る晴朗な天氣)
アイン ハイトレス ヴェッテル

又は ein heiteres Wetter.
ハイテレス

4. naß (濕つた) blaß (青ざめた) 等は、發音が〔ナス〕〔ブラス〕等短いから、短い ſ の發音を存するために、語尾を附ける時には ß を ſſ に書きかへます。これは形容詞ばかりとは限らず、名詞その他すべて變化する言葉に共通の法則です。

ein nasses Kleid. (一つの濕つた衣)
アイン ナッセス クライト

eine blasse Farbe. (一つの褪めた色)
アイネ ブラッセ ファルベ

但し發音が長い時には ß を存します。たとへば bloß〔ブロース、裸の〕、groß〔グロース、大なる〕等。

der bloße Körper. (赤裸々の肉體)
デル ブロースセ ケルペル

die große Stadt. (大きな都會)
ディー グロースセ シュタット

名詞の場合もこれに從ひます。たとへば Fluß〔フルス、河〕は Fuß〔フース、足〕とは違つて、格變化の時 ß を ss に變へなければなりません。

der	Fluß	die	Flüsse
des	Flusses	der	Flüsse
dem	Flusse	den	Flüssen
den	Fluß	die	Flüsse

動詞もその通りで、これは反對に、不定法の ss が或る所では ß に變ります。

不定法 küssen (接吻する)

彼が接吻する＝er küßt.

(詳細は第二卷 118 に出づ)。

104. **助動詞 dürfen** dürfen は「云々……しても宜しい」といふ意味の助動詞で、英語の may の持つてゐる最も普通の意味に相當します。

不定法 dürfen (英 may)
デゆルフエン

ich	darf	wir	dürfen
	ダルフ		デゆルフエン

du	darfst	ihr	dürft
	ダルフスト		デユルフト
er	darf	sie	dürfen
	ダルフ		デゆルフエン

用例 Du darfst meine Schwester besuchen.
ドウー ダルフスト マイネ シュゑステル ベずーヘン

譯——汝は [du] 私の姉妹を [meine Schwester] 訪問して [besuchen] よろしい [darfst]。

「何々してはいけない」といふ禁止の場合には、英語では must not であるが、ドイツ語では dürfen に nicht をつけるのが普通である。

用例 Du darfst nicht rauchen.
ドウー ダルフスト ニヒト らオヘン

譯——汝 [du] 喫煙す [rauchen] 可からず [darfst nicht]。

☞ 讀本の部第七課を讀め。

獨逸語と英語との比較

關口存男

限ある頁數で獨逸語と英語との比較を述べるなどと云ふ事は到底不可能な業ではあるが、大綱に亘る高遠な理屈を抜きにして、極く卑近な、すぐ右から左へと應用の利く樣な、斷片的な比較談をするのは、必ずしも無益なことではあるまいと思ふ。

誰でも一つの語學を始める時にうんざりするのは、單語の暗記といふ事であるが、此の點から見ると、多少たりとも英語を知つた後に獨逸語を始める人は幸ひである。第一兩方ともよく似た言葉が澤山ある。

Das Land (the land) 陸.	Die Hand (the hand) 手.
Der Sand (the sand) 砂.	Das Gold (the gold) 金.
Der Winter (the winter) 冬.	Der Ring (the ring) 指輪.
Die Butter (the butter) バタ.	Der Frost (the frost) 霜, 極寒.
Der Wolf (the wolf) 狼.	Das Nest (the nest) 巣.
Das Horn (the horn) 角.	blind (blind) 盲目の.
Der Name (the name) 名.	in (in) 内に, へ.
best (best) 最善の.	bitter (bitter) 苦き.
Der Finger (the finger) 指.	die Post (the post) 郵便.
Die Form (the form) 形.	

以上のものは綴りが全然同じものの例であるが、全然同じとは行かなくても、尠くとも發音の樣子が酷似してゐるのが可成多い。

bei=by 傍に.	fein=fine 美しき.
Bier=beer 麥酒.	Wein=wine 葡萄酒.

hier＝here　此處に.	Haus＝house　家.
Mann＝man　男.	Schuh＝shoe　靴.
Busch＝bush　叢林.	Lamm＝lamb　小羊.
Stroh＝straw　藁.	singen＝sing　歌ふ.
sinken＝sink　沈む.	springen＝spring　跳ぶ.
ringen＝wring　絞る.	Fisch＝fish　魚.

又母音だけが多少異つてゐるのもある。

Hut＝hat　帽子.	Rast＝rest　休息.
Wurm＝worm　虫.	Sturm＝storm　嵐.
Strom＝stream　流れ.	Stock＝stick　杖.
reich＝rich　富める.	Heim＝home　自宅.
rund＝round　圓き.	Grund＝ground　土地.
Pein＝pain　苦痛.	Stoff＝stuff　材料.
für＝for　ために.	und＝and　そして.
Freund＝friend　友人.	See＝sea　海.
Sohn＝son　息.	frei＝free　自由な.
Faust＝fist　拳.	Feuer＝fire　火.
Nase＝nose　鼻.	lang＝long　長き.
Werk＝work　仕事.	Wunder＝wonder　奇蹟.

以上は唯、よく似てゐるといふ例を擧げたのに過ぎないが、以下に二三多少法則めいた事實を、項を追つて述べることにする。主として子音に關する法則で所謂グリム・ゼルネル氏の子音變遷の法則なるものを、通俗的に例證したものである。同氏の法則を紹介するとなると大變だから、理屈を拔きにして、例だけで自ら合點の行くやうにした。

第一　舌音間の類似

舌音とは、舌先で發音する子音卽ち f, t, b 及び英語の th, 獨逸語の z, ß 等を總稱して呼ぶのである。此等の子音の間には、舌で發音するといふ類似點があるために、長い間の使用の結果、お互に混同されてしまふ。獨逸語と英語との單語を比較してみると這般の關係が明瞭である。發音法や正字法が國によつて相違してゐるのが、決して偶然の現象ではないことが、これによつても證せられる譯である。

一例を擧げると、日本人は l と r との區別がわからない。支那人は l と n とを間違へる。それは l も r も n も共に所謂流動子音といふ一部類に屬してゐるのであるから、無理もないことだと言へば言ふことも出來る。

さて、その舌音がどういふ風に相通じてゐるかと云ふと、主な部類は次のやうなものである。

(a)　獨逸語の s 音は英語の t 音に相當す。

Wasser＝water　水.	Geiß＝goat　山羊.
was＝what　何.	Straße＝street　街路.
es＝it　其れは.	grüßen＝greet　挨拶する.
beißen＝bite　咬む.	süß＝sweet　甘き.
aus＝out　(內部)から.	groß＝great　大なる.
Nuß＝nut　堅果.	Fuß＝foot　足.
besser＝better　より良き.	vergessen＝forget　忘れる.
Fessel＝fetter　足械.	das＝that　それ.
Kessel＝kettle　釜.	heiß＝hot　熱き
hassen＝hate　憎む.	weiß＝white　白き.
lassen＝let　…せしめる.	essen＝eat　食ふ.

(b) 獨逸語の z 音が英語の t 音に相當す.

zehn=ten 十.	zwölf=twelve 十二.
zwei=two 二.	zu=to 及び too に迄, 餘りに.
Netz=net 網.	Zunge=tongue 舌.
Zeh=toe 足指.	Zeit=tide 時.
Zähre=tear 涙.	Er[zähl]ung=tale 物語.
Katze=cat 猫.	Witz=wit 機智.
sitzen=sit 坐る.	setzen=set 置く.
Minze=mint 薄荷.	Hitze=heat 熱.
Herz=heart 心.	Warze=wart 疣.
Salz=salt 鹽.	Zin=tin 錫.
Sitz=seat 席.	Zweig=twig 枝.

(c) 獨逸語の d 音が英語の th 音に相當す.

da=there 其處に.	das=that 其れは.
dies=this 此れは.	du=thou 汝は.
ander=other 他の.	dann=then それから.
doch=though 然しながら.	Mund=mouth 口.
Leder=leather 皮革.	Feder=feather 羽.
drei=three 三.	dünn=thin 薄き.
dick=thick 厚き.	Ding=thing 物.
Dank=thank 感謝.	denken=think 考へる.
Bruder=brother 兄弟.	Donner=thunder 雷.

Dorn=thorn 茨.	Tod=death 死.
Erde=earth 地球.	Nord=north 北.
Süd=south 南.	Daumen=thumb 拇指.
Kleider=clothes 著物.	beide=both 兩方とも.

(d) 獨逸語の t 音が英語の d 音に相當す.

Garten=garden 庭.	Brot=bread 麵麭.
Tod=death 死.	Wort=word 語.
Spaten=spade 鋤.	Traum=dream 夢.
Sattel=saddle 鞍.	Tür=door 扉.
Seite=side 側.	teuer=dear 親愛なる.
hart=hard 堅き.	Tat=deed 行爲.
tun=do 爲す.	unter=under 下に, へ.
Tag=day 日.	Tropfen=drop 滴.
Tau=dew 露.	Gott=god 神.
Welt=world 世界.	Schatten=shadow 蔭.
kalt=cold 冷たい.	Braut=bride 花嫁.
Blut=blood 血.	Bart=beard 髭.
Bett=bed 寢床.	Tisch=desk 机.
gut=good 善き.	trinken=drink 飲む.
Schulter=shoulder 肩.	falten=fold 疊む.

第二　喉音間の類似

喉音とは、喉の奥の狭い所で發音する音、即ち k, g, 及び獨逸語の ch がそれである。英語の ch は、その發音の實際から云ふと、むしろ前述の舌音に入る可きものかも知れないが、その歴史的事實は矢張り獨逸語の ch と同様、喉音として見るとよく法則に合する。だから、英語の ch も、佛語の ch も、多少舌音がかつた喉音なのである。それは同國人たちの發音してゐるのを聞くと首肯できる。

喉音間にも矢張り前と同じ様な類似が求められる。

(a)　獨逸語の ch 音が英語の gh 音に相當す。

Licht＝light　光.	recht＝right　右の.
Sicht＝sight　見ること.	Nacht＝night　夜.
Tochter＝daughter　娘.	hoch＝high　高き.
acht＝eight　八.	Macht＝might　力.
mochte＝might　(may——してよい) の過去.	
lachen＝laugh　笑ふ.	doch＝though　然しながら.
nichts＝naught　無.	Wucht＝weight　重み.
brachte＝brought　(bring——持つて來る) の過去.	
Flucht＝flight　逃亡.	

(b)　獨逸語の k 音は英語の ch 音に相當す。

Kinn＝chin　顎.	Kirche＝church　教會.
Kiste, Kasten＝chest　箱.	Kirsche＝cherry　櫻實.
	Bank＝bench　腰掛.
kiesen＝choose　選ぶ.	Kind＝child　子供.
Käse＝cheese　乾酪.	Kanal＝channel　海峽.
Kammer＝chamber　室.	Küchlein＝chicken　雛.

(c)　獨逸語の ch 音は英語の k 音に相當す.

Milch＝milk　乳.	Lerche＝lark　雲雀.
horch!＝hark!　聽け!	suchen＝seek　探す.
siech＝sick　病の.	Kuchen＝cake　菓子.
machen＝make　作る.	er[wachen]＝wake　目を覺ます.
Woche＝week　週.	weich＝weak　弱き.
Storch＝stork　鸛.	Koch＝cook　料理人.
brechen＝break　破る.	Elch＝elk　麋, 角鹿.

(d)　獨逸語の g 音が英語の y 音。

Weg＝way　道.	Tag＝day　日.
sagen＝say　言ふ.	legen＝lay　横へる.
mögen＝may　してよい.	gelb＝yellow　黄色の.
gellen＝yell　鋭く叫ぶ.	Garn＝yarn　絲.
gestern＝[yester]day　昨日.	Auge＝eye　眼.

なほ形容詞の語尾の ig が英語の y に相當することは誰でも氣の附く事實である。例へば mächtig＝mighty 强力なる、geizig＝greedy 貪慾なる、の如きである。

第三　唇音間の類似

唇音といふのは p b, wh, f, v, 及び獨逸語の pf, w, である。

(a)　獨逸語の f 音は英語の p 音。

schlafen＝sleep　眠る.	hoffen＝hope　望む.
offen＝open　開きたる.	Affe＝ape　猿.

Pfeife=pipe 笛.	Apfel=apple 林檎.
tropfen=drop 滴る.	Schaf=sheep 羊.
Karpfen=carp 鯉.	Kupfer=copper 銅.
auf=up 上に, へ.	Schiff=ship 船.
Harfe=harp 竪琴.	häufen=heap 堆積する.
tief=deep 深き.	Seife=soap 石鹸.

(b) 獨逸語の b 音が英語の v 音.

haben=have 持つ.	Taube=dove 鳩.
Grab=grave 墓.	Rabe=raven 大鴉.
leben=live 生活する.	lieben=love 愛する.
Silber=silver 銀.	Leber=liver 肝臓.
geben=give 與へる.	Herbst (秋)=harvest (收穫).
über=over 越えて, 上に.	Fieber=fever 熱病.
übel=evil 惡しき.	Biber=beaver 海狸.
Weber=weaver 織匠.	treiben=drive 驅る.
sieben=seven 七.	

(c) 獨逸語の w 音が英語の wh.

Wann=when 何時.	was=what 何.
wo=where 何處.	Wirbel=whirl 渦卷.
weiß=white 白き.	Weile=while 間.
[Wal]fisch=whale 鯨.	Weizen=wheat 小麥.
wer=who 誰.	wispern=whisper 囁く.
wetzen=whet 研ぐ.	

以上で大體子音に關する法則の重なるものを擧げたのであるが、この外に獨逸語の s 音が英語の r 音に相當するものがある。例へば Eisen=iron 鐵、Hase=hare 兎、ver[loren]=lost 失はれたる、の如きである。梵語では s と r とが文法的に相通ずるやうになつてゐる。例へば d- で始まる語の前に s が來ると、その s が音便で r に代ると云ふが如き規則が澤山ある。

是迄述べたのが子音に關するものであるから、次には母音に就いての法則を述べなければならない順序であるが、母音となると一寸簡單に述べられない。だから以下に簡明なものだけを述べておくことにする。

(a) 獨逸語の ei 音は英語の o 音に相當する.

Stein=stone 石.	ein=one 一.
Bein=bone 骨.	nein=no 否.

(b) 獨逸語の ü 音は英語の o 音に相當する.

für=for 爲に.	Tür=door 戸.
kühl=cool 凉しき.	über=over 越えて, 上に.

發音や正字法以外に亘つて英獨兩語を比較する事は紙數が許さないが、最後に一寸、獨逸語といふ國語が英語と同じ祖先から發した國語でありながら、如何に文法上の法則が純粹に維持されて來たかと云ふ例を述べることにする。獨逸語は英語に較べると、文法造語法等は、遙に規則正しいのである。だから英語だけでは全然譯がわからずに丸呑みにしてゐた事が、獨逸語の文法上から研究して見ると判然として來る場合が多い。以下はほんの一例に過ぎない。

英語では年寄のことを old と云ひ、その比較級に elder といふ形がある。これは古い不規則な形である、と云つて敎へるのが普通らしいが、不規則と言ふ言葉の意味は決して偶然を意味するものではない。英國人といふ奴は變な奴で、誰に一言の挨拶もなく、理由も根據もない elder なんてものを拵へ上げてしまつた——と言ふ譯ではない。これには文法上の理由がある。それが獨逸語では、ちやんと規則に當てはまつてゐる。獨逸語では比較級を造る時には大體英語に似た法則があつて、原級の上に -er を足せば比較級になり、-st を足せば最高級になる。ところが獨逸語には英語にはない變音(又は曲音)といふ現象があつて、母音 a, o, u, のそれぞれの上に二個の縱線を引いて、

a を ä に、o を ö に、u を ü にする。そして ä は殆んど e に等しい發音をする。ところで、獨逸語ではこの變音符を比較級と最高級の上に冠するのが普通である。其處で獨逸語の年寄の alt といふ語が älter になる譯である。其處でまた英語の elder の譯も自然に解つて來るであらう。つまり獨逸語には、英語の方で既に湮滅してしまつた古來ゲルマニア語の文法を今に到るまで傳へて來てゐるのである。その文法の最要の部分は、ラテン語、ギリシヤ語、遡つてはサンスクリット即ち古代印度語と共通なのである。もつと極端に言へば、獨逸人は、釋迦が說法をする時に用ひたと同じ語法を現代の文明國間にあつて、最も純粹に最も正しく傳へてゐるのである。

讀本の部

獨文　關口存男
譯註　奥脇要一

第一課

(動詞の人稱變化)

lieben リーベン	愛する	liegen リーゲン	横はる	nicht mehr ニヒト メール	[no more]
loben ろーベン	褒める	denken デンケン	考へる	wo ヴー	[where]
leben れーベン	生きる	tun トゥーン	爲す	auch アオホ	[also]
stehen シュテーエン	立つ	kommen こムメン	來る	oder おーデル	[or]
trinken トりンケン	飲む	das Kind ダス キント	子供	etwas えトヴァス	[something]
rauchen らオヘン	喫煙する	warum ヴァるーム	[why]	nichts ニヒツ	[nothing]
lachen らッヘン	笑ふ	sehr ゼール	非常に	was ヴァス	[what]
spielen シュピーレン	遊ぶ	schon ショーン	すでに	aber あーベル	[but]
weinen ヴァイネン	泣く	jetzt イエツト	今	nicht ニヒト	[not]
lernen れルネン	學ぶ	noch ノホ	まだ	es エス	[it]

1. Ich liebe. (イヒ りーベ) 2. Du stehst. (ドゥー シュテーエスト) 3. Er[註1] (エル) weint. (ヴァイント) 4. Sie (ジー) lacht. (らハト) 5. Wir (ヴィール) leben (れーベン) hier. (ヒール) 6. Ihr (イール) tut (トゥート) es. (エス) 7. Sie (ジー) tun (トゥーン) es (エス) nicht. (ニヒト) 8. Er (エル) tut (トゥート) es, (エス) aber (あーベル) sie (ジー) tut (トゥート) es (エス) nicht. (ニヒト) 9. Er (エル) trinkt (トりンクト) und (ウント) lacht. (らハト) 10. Es (エス) liegt (りーグト) hier. (ヒール)

【譯】 1. 私は (ich) 愛する (liebe). 2. 汝は (Du) 立つ (stehst). 3. 彼は (er) 泣く (weint) 4. 彼女は (sie) 笑ふ (lacht) 5. 我々は (wir) 此所に (hier) 住む (leben) 6. 汝等は (ihr) それを (es) 爲す (tut) 7. 彼等は (sie) それを (es) 爲さ (tun) ない (nicht) 8. 彼は (er) それを (es) 爲す (tut). 併しながら (aber) 彼女は (sie) それを (es) 爲さ (tut) ない (nicht) 9. 彼は (er) 飲み (trinkt) 且つ (und) 笑ふ (lacht) 10. それが (es) 此所に (hier) 横はつてゐる (liegt)

11. Was lernst Du[註2]? 12. Ich lerne nichts. 13. Wir lernen
ヴァス レルンスト ドゥー イヒ レルネ ニヒツ ヴィール レルネン
etwas. 14. Was trinkst Du, Kaffee oder Tee? 15. Ihr lobt
エトヴァス ヴァス トリンクスト ドゥー カッフェー オーデル テー イール ローブト
es, aber wir loben es nicht. 16. Sie tun es, aber ich tue es
エス アーベル ヴィール ローベン エス ニヒト ズィー トゥーン エス アーベル イヒ トゥーエ エス
nicht. 17. Ich lebe hier in Japan, Sie leben auch hier in Japan.
ニヒト イヒ レーベ ヒール イン ヤーパン ズィー レーベン アオホ ヒール イン ヤーパン
18. Er tut etwas, aber sie tut nichts. 19. Wo spielt er? 20.
エル トゥート エトヴァス アーベル ズィー トゥート ニヒツ ヴォー シュピールト エル
Er spielt hier.
エル シュピールト ヒール

【譯】 11. 汝は (Du) 何を (was) 學ぶ (lernst) か 12. 私は (ich) 〔何も〕 (nichts) 學ば (lerne) 〔ない〕 13. 我々は (wir) 何かを (etwas) 學ぶ (lernen) 14. 汝は (Du) 何を (was) 飲む (trinkst) か、コーヒー (Kaffee) か、或は (oder) 茶か (Tee) 15. 汝等は (ihr) それを (es) 褒める (lobt) が併しながら (aber) 我々は (wir) それを (es) 褒め (loben) ない (nicht) 16. あなたは (Sie) それを (es) 爲す (tun) が併しながら (aber) 私は (ich) それを (es) 爲さ (tue) ない (nicht) 17. 私は (ich) 當 (hier=here) 日本 (Japan) に (in) 住む (lebe) あなた (Sie) も亦 (auch) 當日本に (hier in Japan) 住む (leben) 18. 彼は (er) 何かを (etwas) 爲す (tut) が併しながら (aber) 彼女は (sie) 何も (nichts) 爲さ (tut) ない 19. 彼は (er) 何所に (wo) 遊んでゐる (spielt)[註3] か 20. 彼は (er) 此所に (hier) 遊んでゐる (spielt)

21. Denkst Du oder denkst Du nicht? 22. Er lebt nicht mehr
デンクスト ドゥー オーデル デンクスト ドゥー ニヒト エル レーブト ニヒト メール
23. Sie lernt noch nichts. 24. Sie lieben es nicht. 25. Weinen
ズィー レルント ノホ ニヒツ ズィー リーベン エス ニヒト ヴァイネン

Sie, oder lachen Sie? 26. Der Vater lacht, die Mutter lacht
ズィー オーデル ラッヘン ズィー デル ファーテル ラハト ディー ムッテル ラハト
auch. 27. Wo leben Sie jetzt? 28. Sie kommt noch nicht. 29.
アオホ ヴォー レーベン ズィー イエツト ズィー コムト ノホ ニヒト
Ich trinke jetzt nicht mehr. 30. Trinken Sie noch?
イヒ トリンケ イエツト ニヒト メール トリンケン ズィー ノホ

【譯】 21. 汝は (du) 考へる (denkst) か、或は (oder) 汝は (du) 考へ (denkst) ない (nicht) か 22. 彼は (er) 最早 (nicht mehr) 生きてゐ (lebt) ない 23. 彼女は (sie) 未だ (noch) 何も (nichts) 學ば (lernt) ない 24. 彼等は (sie) それを (es) 愛さ (lieben) ない (nicht) 25. あなたは (Sie) 泣いてゐます (weinen) か、それとも (oder) あなたは (Sie) 笑つてゐます (lachen) か 26. 父は (der Vater) 笑ふ (lacht) 母 (die Mutter) も亦 (auch) 笑ふ (lacht) 27. あなたは (Sie) 今 (jetzt) 何所で (wo) お暮らし (leben) ですか 28. 彼女は (sie) 未だ (noch) 來 (kommt) ない (nicht) 29. 私は (ich) 今は (jetzt) 最う (nicht mehr) 飲ま (trinke) 〔ない〕 30. あなたは (Sie) 未だ (noch) 飲みます (trinken) か

31. Was rauchst Du? 32. Wo liegt es? 33. Was tut die
ヴァス ラオホスト ドゥー ヴォー リークト エス ヴァス トゥート ディー
Mutter? 34. Wo steht der Vater? 35. Warum kommen Sie
ムッテル ヴォー シュテート デル ファーテル ヴァルーム コムメン ズィー
nicht? 36. Sie weint schon. 37. Ich lobe es sehr. 38. Was
ニヒト ズィー ヴァイント シューン イヒ ローベ エス ゼール ヴァス
lernen wir, Englisch oder Deutsch? 39. Trinkst Du etwas? 40.
レルネン ヴィール エングリッシュ オーデル ドイチュ トリンクスト ドゥー エトヴァス
Wo steht ihr?
ヴォー シュテート イール

【譯】 31. 君は (Du) 何を (was) 喫みますか (rauchst) 32. それは (es) 何所に (wo) 横はつてゐるか (liegt) 33. 母は (die Mutter) 何を (was) 爲すか (tut) 34. 父は (der Vater) 何所に (wo) 立つてゐるか (steht) 35. 何故 (warum) あなたは (Sie) 來 (kommen) ないか (nicht) 36. 彼女は (sie) 既に (schon) 泣いてゐる (weint) 37. 私は (ich) それを (es) 非常に (sehr) 褒める (lobe) 38. 我々は (wir) 何を (was) 學ぶか (lernen) 英語か (Englisch) 又は (oder) 獨逸語か (Deutsch) 39. 汝は (Du) 何か或物を (etwas) 飲むか (trinkst) 40. 何所に (wo) 汝等は (ihr) 立つか (steht)

41. Der Mann hier lacht und singt. 42. Die Mutter lebt
デル マン ヒール ラヘト ウント ジンゲト ディー ムツター レーブト
schon nicht mehr. 43. Steht der Vater hier? 44. Warum
シヨーン ニヒト メール シユテート デル ファーター ヒール ヴァーム
kommt er nicht? 45. Ihr lernt Japanisch und Deutsch. 46.
コムト エル ニヒト イール レルント ヤパーニツシユ ウント ドイチユ
Das Kind weint nicht mehr. 47. Die Mutter weint und das
ダス キント ヴァイント ニヒト メール ディー ムツター ヴァイント ウント ダス
Kind weint nicht. 48. Ich trinke Bier oder Wein, Du trinkst
キント ヴァイント ニヒト イヒ トリンケ ビール オーデル ヴァイン ドゥー トリンクスト
Kaffee oder Tee. 49. Warum steht das Kind hier? 50. Was
カツフエー オーデル テー ヴァーム シユテート ダス キント ヒール ヴアス
lerne ich jetzt, Deutsch, Englisch oder Französisch?
レルネ イヒ イエツト ドイチユ エングリツシユ オーデル フランツエーゾツシユ

【譯】 41. 此所にある (hier) 人は (der Mann) 笑ひ (lacht) 且 (und) 歌ふ (singt) 42. 母は (die Mutter) 最早 (nicht mehr) 既に (schon) 生きて (lebt) 〔ない〕 43. 父は (der Vater) 此所に (hier) 立つか (steht) 44. 何故に (warum) 彼は (er) 來 (kommt) ないか (nicht) 45. 汝等は (ihr) 日本語 (Japanisch) と (und) 獨逸語とを (Deutsch) 學ぶ (lernt) 46. 子供は (das Kind) 最早 (nicht mehr) 泣かゝ (weint) 〔ない〕 47. 母は (die Mutter) 泣く (weint) そして (und) 子供は (das Kind) 泣かゝ (weint) ない (nicht) 48. 私は (ich) ビール (Bier) 又は (oder) 葡萄酒を (Wein) 飲む (trinke). 君は (Du) コーヒー (Kaffee) 又は (oder) 茶を (Tee) 飲む (trinkst) 49. 何故に (warum) 子供は (das Kind) 此所に (hier) 立つか (steht) 50. 何を (was) 私は (ich) 今 (jetzt) 學んでゐるか (lerne) 獨逸語か (Deutsch) 英語か (Englisch) 又は (oder) 佛蘭西語か (Französisch)

51. Du lernst Deutsch und Englisch. 52. Der Vater tut jetzt
ドゥー レルンスト ドイチユ ウント エングリツシユ デル ファーター トゥート イエツト
nichts. 53. Die Mutter lobt das Kind. 54. Er lacht und der
ニヒツ ディー ムツター ローブト ダス キント エル ラヘト ウント デル
Vater lacht auch. 55. Lebt der Vater und die Mutter noch? 56.
ファーター ラヘト アオホ レーブト デル ファーター ウント ディー ムツター ノホ
Warum liegt das Kind hier? 57. Warum rauchen Sie nicht
ヴァーム リーグト ダス キント ヒール ヴァーム ラウヘン ジー ニヒト
mehr? 58. Warum trinkst Du noch? 59. Warum spielt das
メール ヴァーム トリンクスト ドゥー ノホ ヴァーム シユピールト ダス
Kind nicht mehr? 60. Lernen Sie auch Deutsch?
キント ニヒト メール レルネン ジー アオホ ドイチユ

【譯】 51. 汝は (Du) 獨逸語 (Deutsch) と (und) 英語とを (Englisch) 學ぶ (lernst) 52. 父は (der Vater) 今は (jetzt) 何も (nichts) 爲さ (tut) 〔ない〕 53. 母は (die Mutter) 子供を (das Kind) 褒める (lobt) 54. 彼は (er) 笑ふ (lacht) そして (und) 父 (der Vater) も亦 (auch) 笑ふ (lacht) 55. 父 (der Vater) と (und) 母とは (die Mutter) まだ (noch) 生きてゐるか (lebt) 56. 何故に (warum) 子供は (das Kind) 此所に (hier) 横はつてゐるか (liegt) 57. 何故 (warum) あなたは (Sie) 最う (nicht mehr) 喫烟し (rauchen) 〔ないか〕 58. 何故に (warum) お前は (Du) まだ (noch) 飲酒するか (trinkst) 59. 何故に (warum) 子供は (das Kind) 最早 (nicht mehr) 遊ば (spielt) 〔ないか〕 60. あなた (Sie) も亦 (auch) 獨逸語を (Deutsch) 學ぶか (lernen)

61. Warum tut sie es nicht? 62. Er raucht nicht, spielt auch
ヴァーム トゥート ジー エス ニヒト エル ラウホト ニヒト シユピールト アオホ
nicht. 63. Das Kind und die Mutter weinen noch. 64. Der
ニヒト ダス キント ウント ディー ムツター ヴァイネン ノホ デル
Vater lobt es sehr. 65. Der Mann denkt etwas, aber das Kind
ファーター ローブト エス ゼール デル マン デンクト エトヴアス アーベル ダス キント
denkt nichts. 66. Wo liegt Deutschland? 67. Was lobt der
デンクト ニヒツ ヴー リーグト ドイチユラント ヴアス ローブト デル
Vater oder die Mutter? 68. Sie tun es, aber ich tue es nicht.
ファーター オーデル ディー ムツター ジー トゥーン エス アーベル イヒ トゥーエ エス ニヒト
69. Er kommt nicht mehr. 70. Trinken Sie auch Tee?
エル コムト ニヒト メール トリンケン ジー アオホ テー

【譯】 61. 何故に (warum) 彼女は (sie) それを (es) 爲さ (tut) ないか (nicht) 62. 彼は (er) 喫烟し (raucht) ない (nicht) 賭博もし (spielt auch) ない (nicht) 63. 子供 (das Kind) と (und) 母とは (die Mutter) まだ (noch) 泣いてゐる (weinen) 64. 父は (der Vater) それを (es) 非常に (sehr) 褒める (lobt) 65. 大人は (der Mann) 何か知ら或物を (etwas) 考へる (denkt) が併しながら (aber) 子供は (das Kind) 何物も (nichts) 考へ (denkt) 〔ない〕 66. 何所に (wo) 獨逸國は (Deutschland) 横はつてゐるか (liegt) 67. 父 (der Vater) 又は (oder) 母は (die Mutter) 何を (was) 褒めるか (lobt) 68. あなたは (Sie)[註4] それを (es) 爲す (tun) が併しながら (aber) 私は (ich) それを (es) 爲さ (tue) ない (nicht) 69. 彼は (er) 最早 (nicht mehr) 來 (kommt) 〔ない〕 70. あなた (Sie) も亦 (auch) 茶を (Tee) 飲むか (trinken)

71. Nein, ich trinke Milch. 72. Lebt nicht der Vater noch?
ナイン イヒ トリンケ ミルヒ レーブト ニヒト デル ファーテル ノホ
73. Ja, er lebt noch, aber die Mutter lebt nicht mehr. 74. Was
ヤー エル レーブト ノホ あーベル ディー むッテル レーブト ニヒト メール ヴァス
lobt ihr? 75. Warum trinken Sie nichts?
ローブト イール ヴァるーム トりンケン ジー ニヒツ

【譯】 71. 否 (nein) 私は (ich) ミルクを (Milch) 飲む (trinke) 72. 父が (der Vater) まだ (noch) 生きてゐる (lebt) ではないか (nicht) 73. はい (ja) 彼は (er) まだ (noch) 生きてゐる (lebt) が併しながら (aber) 母は (die Mutter) 最早 (nicht mehr) 生きてゐ (lebt)〔ない〕 74. 何を (was) 汝等は (ihr) 褒めるか (lobt) 75. 何故に (warum) あなたは (Sie) 何も (nichts) 飲ま (trinken)〔ないか〕

【註】〔1〕 er (エル) の發音の問題ですが、之れは普通の場合は「エル」と短く發音し、殊に取立てて er が問題にされる時は「エール」と發音します。例へば、Er ist es. (それは彼れです). er selbst (彼自身) の如きさうです。
エール イスト エス エール ゼルブスト

〔2〕 du を大文字に Du とするは、Sie (貴方は) の場合と同じ行き方でありますが、此の Du は、初歩の獨逸文章を筆者が、直接の呼掛〔direkte Anrede (ディれクテ・あンレーデ)〕として書く際に、用ゐられるのです。それから、手紙の文句の中でも大字に書きます。序でに申上げますが、第二人稱の尊稱として現今は Sie が用ゐられてゐますが、古くは Ihr が用ゐられました。更に古くは Er と云ふ形もあります。いづれの場合を見ましても皆大文字で書いてあります。併し、英語は I と大字にして you は小文字にしてあります。國民性の差異が最も根本的な言語の上に現れてゐます。

〔3〕 獨逸語には、英語に於けるが如き進行法と云ふ形がなく、普通の現在形を以つて之れを兼ねてゐる。

〔4〕 Sie は、「かれらは」と譯すことも出來ます。それは Sie が文章の先頭にあるから、三人稱複數でも、大文字で書かなければならないからです。併し、此の問題は、こんな短い一行丈けの文章であるから起るので、普通の長い文章の一部である場合には、前後の意味で、いづれか一つに定まらなければなりません。

第 二 課

A

(定冠詞) 及び (sein の人稱變化)
ザイン

Garten, *m.* ガルテン	庭園	gehorchen ゲほルヒエン	服從する
Haus, *n.* ハウス	家	gehören ゲヘーレン	屬する
Baum, *m.* バウム	樹	suchen ずーヘン	探す
Stadt, *f.* シュタット	市	begegnen ベゲークネン	逢ふ
Kaiser, *m.* かイゼル	皇帝	zerstören ツェルシュテーレン	破壞する
Kaiserin, *f.* かイゼリン	女帝. 皇妃	verteidigen フェルたイディゲン	守る
König, *m.* けーニヒ	王	dort ドルト	[there]
Königin, *f.* けーニギン	女王. 王妃	in と三格 = [in] イン	
Onkel, *m.* おンケル	伯父	in と四格 = [into] イン	

1. Die Mutter gehorcht dem Vater. 2. Der König zerstört
ディー むッテル ゲほルヒト デム ファーテル デル けーニヒ ツェルシュテールト
den Garten der Königin. 3. Gehört der Garten dem Kaiser oder
デン ガルテン デル けーニギン ゲヘールト デル ガルテン デム かイゼル おーデル
der Kaiserin? 4. Der Kaiser lobt das Haus der Mutter. 5.
デル かイゼリン デル かイゼル ローブト ダス ハウス デル むッテル
Wir gehorchen dem Kaiser und dem König. 6. Der Vater verteidigt
ヴール ゲほルヒエン デム かイゼル ウント デム けーニヒ デル ファーテル フェルたイディヒト
die Mutter und das Kind. 7. Warum zerstört der Kaiser die Stadt
ディー むッテル ウント ダス キント ヴるーム ツェルシュテールト デル かイゼル ディー シュタット
des Königs? 8. Hier begegnet die Mutter der Königin. 9. Der
デス けーニヒス ヒール ベゲークネット ディー むッテル デル けーニギン デル
König gehorcht dem Kaiser nicht mehr. 10. Der Onkel ist der
けーニヒ ゲほルヒト デム かイゼル ニヒト メール デル おンケル イスト デル
Bruder des Vaters oder der Mutter.
ブるーデル デス ファーテルス おーデル デル むッテル

【譯】 1. 母は (die Mutter) 父に (dem Vater) 服從する (gehorcht) 2. 王

は (der König) 王妃の (der Königin) 庭園を (den Garten) 破壞する (zerstört) 3. 庭園は (der Garten) 皇帝に (dem Kaiser) 又は (oder) 皇妃に (der Kaiserin) (いづれに) 屬するか (gehört) 4. 皇帝は (der Kaiser) 母の (der Mutter) 家を (das Haus) 褒める (lobt) 5. 我々は (wir) 皇帝に (dem Kaiser) そして (und) 王に (dem König) 服從する (gehorchen) 6. 父は (der Vater) 母を (die Mutter) そして (und) 子供を (das Kind) 守る (verteidigt) 7. 何故に (warum) 皇帝は (der Kaiser) 王の (des Königs) 市を (die Stadt) 破壞するか (zerstört) 8. 此所で (hier) 母は (die Mutter) 王妃に (der Königin) 逢ふ (begegnet) 9. 王は (der König) 最早 (nicht mehr) 皇帝に (dem Kaiser) 服從し (gehorcht) 〔ない〕 10. 叔父は (der Onkel) 父の (des Vaters) 又は (oder) 母の (der Mutter) 兄弟で (der Bruder) ある (ist)

11. Ich bin das Kind des Hauses. 12. Der Kaiser zerstört
イヒ ビン ダス キント デス ハウゼス デル カイゼル ツエルシユテールト
den Garten des Vaters. 13. Der Garten und das Haus gehören
デン ガルテン デス ファーテルス デル ガルテン ウント ダス ハウス ゲヘーレン
dem König. 14. Du bist der König der Stadt dort. 15. Dort
デム ケーニヒ ドゥー ビスト デル ケーニヒ デル シユタット ドルト ドルト
begegnet dem Kaiser die Mutter des Königs. 16. Das ist das
ベゲークネット デム カイゼル ディー ムッテル デス ケーニヒス ダス イスト ダス
Haus des Onkels. 17. Auch die Königin gehorcht dem König. 18.
ハウス デス オンケルス アオホ ディー ケーニギン ゲホルヒト デム ケーニヒ
Er ist der Onkel des Königs. 19. Wir verteidigen noch das Haus
エル イスト デル オンケル デス ケーニヒス ヴィール フェルテイディゲン ノホ ダス ハウス
des Kaisers. 20. Er verteidigt die Stadt des Kaisers.
デス カイゼルス エル フェルテイディヒト ディー シユタット デス カイゼルス

【譯】 11. 私は (ich) 當家の (des Hauses) 子供で (das Kind) ある (bin) 12. 皇帝は (der Kaiser) 父の (des Vaters) 庭園を (den Garten) 破壞する (zerstört) 13. 庭園 (der Garten) と (und) 家とは (das Haus) 王に (dem König) 屬する (gehören) 14. 汝は (Du) 彼所の (dort) 市の (der Stadt) 王 (der König) なり (bist) 15. 彼所で (dort) 王の (des Königs) 母は (die Mutter) 皇帝に (dem Kaiser) 逢ふ (begegnet) 16. 之れは (das) 叔父の (des Onkels) 家で (das Haus) ある (ist) 17. 王妃 (die Königin) も亦 (auch) 王に (dem König) 服從する (gehorcht) 18. 彼は (er) 王の (des Königs) 叔父で (der Onkel) ある (ist) 19. 我々は (wir) まだ (noch) 皇帝の (des Kaisers) 家を (das Haus) 守る

(verteidigen) 20. 彼は (er) 皇帝の (des Kaisers) 市を (die Stadt) 守る (verteidigt)

21. Sie ist die Mutter der Kaiserin. 22. Der König gehorcht
ジー イスト ディー ムッテル デル カイゼリン デル ケーニヒ ゲホルヒト
der Königin nicht. 23. Du bist das Kind der Königin. 24. Was
デル ケーニギン ニヒト ドゥー ビスト ダス キント デル ケーニギン ヴァス
suchst Du?—Ich suche den Garten des Vaters. 25. Gehört die
ズーフスト ドゥー イヒ ズーヘ デン ガルテン デス ファーテルス ゲヘールト ディー
Stadt dem Kaiser oder dem König? 26. Sind sie noch nicht in
シユタット デム カイゼル オーデル デム ケーニヒ ジント ジー ノホ ニヒト イン
dem Garten des Onkels? 27. Begegnet die Mutter der Königin?
デム ガルテン デス オンケルス ベゲークネット ディー ムッテル デル ケーニギン
28. Warum sucht er nicht das Kind des Mannes hier? 29.
ヴァーム ズーフト エル ニヒト ダス キント デス マンネス ヒール
Der Kaiser gehorcht dem König nicht. 30. Wir sind in der Stadt
デル カイゼル ゲホルヒト デム ケーニヒ ニヒト ヴィール ジント イン デル シユタット
des Königs.
デス ケーニヒス

【譯】 21. 彼女は (sie) 皇妃の (der Kaiserin) 母で (die Mutter) ある (ist) 22. 王は (der König) 王妃に (der Königin) 服從し (gehorcht) ない (nicht) 23. 汝は (Du) 王妃の (der Königin) 子供で (das Kind) ある (bist) 24. 何を (was) 汝は (Du) 探してゐるか (suchst)—私は (ich) 父の (des Vaters) 庭園を (den Garten) 探してゐる (suche) 25. 市は (die Stadt) 皇帝に (dem Kaiser) 又は (oder) 王に (dem König) (いづれに) 屬するか (gehört) 26. 彼等は (sie) もう (noch) 叔父の (des Onkels) 庭園(の中)に (in dem Garten) ゐ (sind) ないか (nicht) 27. 母は (die Mutter) 王妃に (der Königin) 逢ふか (begegnet) 28. 何故 (Warum) 彼は (er) 此所にゐる (hier) 人の (des Mannes) 子供を (das Kind) 探さ (sucht) ないか (nicht) 29. 皇帝は (der Kaiser) 王に (dem König) 服從し (gehorcht) ない (nicht) 30. 我々は (wir) 王の (des Königs) 市の中に (in der Stadt) ゐる (sind)

31. Wir kommen in die Stadt des Kaisers. 32. Wo liegt das
ヴィール コンメン イン ディー シユタット デス カイゼルス ヴォー リークト ダス
Haus des Onkels? 33. Der Garten gehört jetzt der Stadt der
ハウス デス オンケルス デル ガルテン ゲヘールト イエツト デル シユタット デル
Königin. 34. Die Stadt des Kaisers liegt dort. 35. Ist sie
ケーニギン ディー シユタット デス カイゼルス リークト ドルト イスト ジー

nicht die Königin der Stadt hier? 36. Das Kind gehorcht der
ニヒト デイー ケーニギン デル シュタット ヒール ダス キント ゲホルヒト デル
Mutter nicht mehr. 37. Wo steht das Stadthaus? 38. Ihr
ムッテル ニヒト メール ヴォー シュテート ダス シュタットハウス イール
seid noch in dem Garten des Onkels. 39. Ihr kommt jetzt in
ザイト ノホ イン デム ガルテン デス オンケルス イール コムト イエツト イン
den Garten der Königin. 40. Die Mutter lobt den Baum des
デン ガルテン デル ケーニギン ディー ムッテル ローブト デン バウム デス
Gartens.
ガルテンス

【譯】 31. 我々は (wir) 皇帝の (des Kaisers) 市(の中)へ (in die Stadt) 來る (kommen) 82. 何所に (wo) 叔父の (des Onkels) 家は (das Haus) あるか (liegt) 33. 庭園は (der Garten) 今は (jetzt) 王妃の (der Königin) 市に (der Stadt) 屬する (gehört) 34. 皇帝の (des Kaisers) 市は (die Stadt) 彼所に (dort) 在る (liegt) 35. 彼女は (sie) 此所の (hier) 市の (der Stadt) 女王 (die Königin) ではあり (ist) ませぬか (nicht) 36. 子供は (das Kind) 〔最早〕 (nicht mehr) 母に (der Mutter) 服從し (gehorcht) 〔ない〕 37. 何所に (wo) 市役所は (das Stadthaus) あるか (steht) 38. 汝等は (ihr) まだ (noch) 叔父の (des Onkels) 庭園の中に (in dem Garten) ゐる (seid) 39. 汝等は (ihr) 今や (jetzt) 王妃の (der Königin) 庭園(の中)へ (in den Garten) 來る (kommt) 40. 母は (die Mutter) 庭園の (des Gartens) 樹を (den Baum) 褒める (lobt)

41. Der Garten gehört noch dem Vater. 42. Sie sind schon
デル ガルテン ゲヘールト ノホ デム ファーター ジー ジント ショーン
in dem Haus des Onkels. 43. Sie kommen jetzt in das Haus
イン デム ハウス デス オンケルス ジー コムメン イエツト イン ダス ハウス
des Vaters. 44. Der Vater sucht noch das Kind der Königin. 45.
デス ファーターズ デル ファーター ズーフト ノホ ダス キント デル ケーニギン
Er sucht das Haus der Mutter. 46. Das Haus gehört schon der
エル ズーフト ダス ハウス デル ムッテル ダス ハウス ゲヘールト ショーン デル
Mutter. 47. Wir sind nicht mehr in dem Garten der Königin
ムッテル ヴィール ジント ニヒト メール イン デム ガルテン デル ケーニギン
48. Wo begegne ich dem Vater des Königs? 49. Der Kaiser
ヴォー ベゲーグネ イヒ デム ファーター デス ケーニヒス デル カイゼル
zerstört den Garten der Kaiserin. 50. Warum gehört der Garten
ツェルシュテールト デン ガルテン デル カイゼリン ヴァルム ゲヘールト デル ガルテン
dem Kaiser? 51. Was suchen Sie hier in der Stadt? 52. Der
デム カイゼル ヴァス ズーヘン ジー ヒール イン デル シュタット デル
Mann dort ist der Kaiser.
マン ドルト イスト デル カイゼル

【譯】 41. 庭園は (der Garten) まだ (noch) 父に (dem Vater) 屬する (gehört) 42. 彼等は (sie) 既に (schon) 叔父の (des Onkels) 家(の中)に (in dem Haus) ゐる (sind) 43. 彼等は (sie) 今や (jetzt) 父の (des Vaters) 家(の中)へ (in das Haus) 來る (kommen) 44. 父は (der Vater) まだ (noch) 王妃の (der Königin) 子供を (das Kind) 探してゐる (sucht) 45. 彼は (er) 母の (der Mutter) 家を (das Haus) 探す (sucht) 46. 家は (das Haus) 既に (schon) 母に (der Mutter) 屬する (gehört) 47. 我々は (wir) 〔最早〕 (nicht mehr) 王妃の (der Königin) 庭園(の中)に (in dem Garten) ゐ (sind) 〔ない〕 (nicht) 48. 何所で (wo) 私は (ich) 王の (des Königs) 父に (dem Vater) 逢ふか (begegne) 49. 皇帝は (der Kaiser) 皇妃の (der Kaiserin) 庭園を (den Garten) 破壞する (zerstört) 50. 何故に (warum) 庭園は (der Garten) 皇帝に (dem Kaiser) 屬するか (gehört) 51. あなたは (Sie) ここの (hier) 市で (in der Stadt) 何を (was) 探すか (suchen) 52. 彼所にゐる (dort) 人は (der Mann) 皇帝で (der Kaiser) ある (ist)

B

(dieser, jener, jeder, welcher)
ディーゼル イェーネル イェーデル ヴェルヒエル

Tor, *n.* トール	門	gehen ゲーエン	行く
Land, *n.* ラント	國	fürchten フゥルヒテン	恐れる
Freund, *m.* フロイント	友	achten アハテン	尊敬する
Feind, *m.* ファイント	敵	gar nicht ガール ニヒト	全然…しない
Frau, *f.* フラウ	女	erst エールスト	やつと
Arzt, *m.* アールツト	醫者	morgen モルゲン	明日
Tag, *m.* ターク	日. 晝	heute ホイテ	今日
Morgen, *m.* モルゲン	朝	zu ツー	と三格 = [to]
Abend, *m.* アーベント	晩	wie? ヴィー	[how]
heißen ハイセン	名乘る. 呼ばれる	fast ファスト	[almost]

1. Ich zerstöre das Tor dieses Hauses. 2. Hier ist das Tor
イヒ ツエルシユテーレ ダス トール ディーゼス ハウゼス ヒール イスト ダス トール
des Gartens. 3. Dieser Mann ist der König dieses Landes. 4.
デス ガルテンス ディーゼル マン イスト デル ケーニヒ ディーゼス ランデス
Diese Frau ist die Mutter des Freundes. 5. Jener Kaiser zerstört
ディーゼ フラウ イスト ディー ムッテル デス フろインデス イえーネル かイゼル ツエルシユテールト
das Haus des Königs. 6. Dieses Kind hier geht heute zum (zu
ダス ハウス デス ケーニヒス ディーゼス キント ヒール ゲート ほイテ ツーム ツー
dem) Arzt. 7. Er kennt den König dieses Landes sehr gut. 8.
デム あールツト エル ケント デン ケーニヒ ディーゼス ランデス ゼール グート
Er trinkt fast jeden Tag. 9. Jeder Garten gehört der Frau des
エル トリンクト ファスト イえーデン ターク イえーデル ガルテン ゲヘールト デル フラウ デス
Kaisers. 10. Jeden Morgen kommt sie in das Haus des Kaisers.
かイゼルス イえーデン もルゲン コムト ジー イン ダス ハウス デス かイゼルス

【譯】 1. 私は (ich) 此の家の (dieses Hauses) 門を (das Tor) 破壞する (zerstöre) 2. 此所に (hier) 庭園の (des Gartens) 門が (das Tor) ある (ist) 3. 此の人は (dieser Mann) 此の國の (dieses Landes) 王で (der König) ある (ist) 4. 此の女は (diese Frau) 友人の (des Freundes) 母で (die Mutter) ある (ist) 5. 彼の皇帝は (Jener Kaiser) 王の (des Königs) 家を (das Haus) 破壞する (zerstört) 6. 此所にゐる (hier) 此の子供は (dieses Kind) 今日 (heute) 醫者の所へ (zum Arzt) 行く (geht) 7. 彼は (er) 此の國の (dieses Landes) 王を (den König) 大變 (sehr) よく (gut) 知つてゐる (kennt) 8. 彼は (er) 殆んど (fast) 毎日 (jeden Tag) 飲む (trinkt) 9. すべての庭園は (jeder Garten) 皇妃に (der Frau des Kaisers) 屬する (gehört) 10. 毎朝 (jeden Morgen) 彼女は (sie) 皇帝の (des Kaisers) 家へ (in das Haus) 來る (kommt)

11. Der Freund dieses Mannes kennt dieses Land nicht. 12.
デル フろイント ディーゼス まンネス ケント ディーゼス ラント ニヒト
Der Arzt ist heute nicht zu Hause. 13. Die Mutter geht erst
デル あールツト イスト ほイテ ニヒト ツー はウゼ ディー むッテル ゲート エールスト
heute zu jenem Freunde. 14. Der Feind zerstört fast jede Stadt.
ほイテ ツー イえーネム フろインデ デル ファイント ツエルシユテールト ファスト イえーデ シユタット
15. Ihr seid noch in der Stadt des Feindes. 16. Wie heißt der
イール ザイト ノホ イン デル シユタット デス フぁインデス ヴィー ハイスト デル
Arzt der Königin? 17. Heißt dieses Kind Georg oder Fritz? 18.
あールツト デル ケーニギン ハイスト ディーゼス キント ゲオルク おーデル フリッツ
Der Feind kommt in jedes Haus. 19. Die Mutter kennt dieses
デル ファイント コムト イン イえーデス ハウス ディー むッテル ケント ディーゼス

Kind fast nicht mehr. 20. Dieser Mann lacht, aber jener Mann
キント ファスト ニヒト メール ディーゼル マン ラハト あーベル イえーネル マン
weint.
ヴァイント

【譯】 11. 此の人の (dieses Mannes) 友人は (der Freund) 此の國を (dieses Land) 知ら (kennt) ない (nicht) 12. 醫者は (der Arzt) 今日 (heute) 不在 (nicht zu Hause) です (ist) 13. 母は (die Mutter) 今日やつと (erst heute) 彼の友人の所へ (zu jenem Freunde) 行く (geht) 14. 敵は (der Feind) 殆んど (fast) すべての市を (jede Stadt) 破壞する (zerstört) 15. 汝等は (ihr) まだ (noch) 敵の (des Feindes) 市に (in der Stadt) ゐる (seid) 16. 王妃の (der Königin) 醫者は (der Arzt) 何と (wie) 名乘るか (heißt) 17. 此の子供は (dieses Kind) ゲオルク (Georg) 或は (oder) フリツツ (Fritz) (いづれに)名乘るか (heißt) 18. 敵は (der Feind) すべての家へ (in jedes Haus) 來る (kommt) 19. 母は (die Mutter) 此の子供を (dieses Kind) 殆んど (fast) 〔最早〕 (nicht mehr) 知ら (kennt) 〔ない〕 20. 此の人は (dieser Mann) 笑ふ (lacht) 併しながら (aber) 彼の人は (jener Mann) 泣く (weint)

21. Die Frau kommt jetzt in die Stadt des Feindes. 22. Welche
ディー フラウ コムト イエツト イン ディー シユタット デス フぁインデス ヴェルヒエ
Stadt sucht dieser Mann hier? 23. Trinkt dieses Kind Tee,
シユタット ズーフト ディーゼル マン ヒール トリンクト ディーゼス キント テー
Kaffee, Bier, oder Wein? 24. Jedes Kind liebt den Vater und
かッフエー ビール おーデル ヴァイン イえーデス キント リーブト デン フぁーテル ウント
die Mutter. 25. Kommt jenes Kind schon heute oder erst morgen?
ディー むッテル コムト イえーネス キント ショーン ほイテ おーデル エールスト もルゲン
26. Ich bin das Kind jenes Mannes. 27. Jeder Feind achtet
イヒ ビン ダス キント イえーネス まンネス イえーデル ファイント あハテット
und fürchtet den Kaiser. 28. Welches Haus lobt die Freundin
ウント フゆルヒテット デン かイゼル ヴェルヒエス ハウス ローブト ディー フろインディン
dieses Mannes? 29. Jeder geht heute zum König. 30. Im
ディーゼス まンネス イえーデル ゲート ほイテ ツーム ケーニヒ イム
Hause jenes Freundes spielt das Kind dieser Frau.
はウゼ イえーネス フろインデス シユピールト ダス キント ディーゼル フラウ

【譯】 21. 女は (die Frau) 今や (jetzt) 敵の (des Feindes) 市へ (in die Stadt) 來る (kommt) 22. 此所にゐる (hier) 此の人は (dieser Mann) どの市を (welche Stadt) 探してゐるか (sucht) 23. 此の子供は (dieses Kind) お茶

(Tee) コーヒー (Kaffee) ビール (Bier) 或は (oder) 葡萄酒 (Wein) 〔いづれを〕飲むか (trinkt) 24. すべての子供は (jedes Kind) 父 (den Vater) と (und) 母とを (die Mutter) 愛する (liebt) 25. 彼の子供は (jenes Kind) 今日既に (schon heute) 或は (oder) 明日やつと (erst morgen) 來ますか (kommt) 26. 私は (ich) あの人の (jenes Mannes) 子供で (das Kind) あります (bin) 27. すべての敵が (jeder Feind) 皇帝を (den Kaiser) 尊敬し (achtet) そして (und) 恐れる (fürchtet) 28. どの家を (welches Haus) この人の (dieses Mannes) 女友達が (die Freundin) 褒めますか (lobt) 29. 凡ての人が (jeder) 今日 (heute) 王様の所へ (zum König) 行く (geht) 30. あの友人の (jenes Freundes) 家に (im Hause) 此の女の (dieser Frau) 子供が (das Kind) 遊んでゐる (spielt)

31. Das Kind fürchtet die Mutter gar nicht. 32. Der Garten
ダス キント フゅルヒテット ディー むッテル ガール ニヒト デル がルテン
dieser Frau liegt in dieser Stadt. 33. Gehen Sie in diese Stadt
ディーゼル フラウ リークト イン ディーゼル シュタット ゲーエン ジー イン ディーゼ シュタット
oder in jene Stadt? 34. Verteidigt er oder verteidigt er nicht
オーデル イン イえーネ シュタット フェルたいディヒト エル オーデル フェルたいディヒト エル ニヒト
den Kaiser? 35. Welcher König verteidigt dieses Land? 36.
デン かイゼル えルヒェル けーニヒ フェルたいディヒト ディーゼス ラント
Wir gehen morgen in die Stadt und trinken Kaffee. 37. Ihr
ヴール ゲーエン もルゲン イン ディー シュタット ウント トりンケン かッフェー イール
seid heute oder morgen in der Stadt. 38. Ich begegne dem
ザイト ほイテ オーデル もルゲン イン デル シュタット イヒ ベゲークネ デム
Freunde dieser Frau nicht mehr. 39. Wir sind noch nicht im
フろいンデ ディーゼル フラウ ニヒト メール ヴール ジント ノホ ニヒト イム
Hause des Onkels. 40. Welche Frau ist die Königin dieses Landes?
ほうゼ デス おンケルス えルヒェ フラウ イストディー けーニギン ディーゼス らンデス

【譯】 31. 子供は (das Kind) 母を (die Mutter) 〔全然〕 (gar nicht) 恐れ (fürchtet) 〔ない〕 32. 此の女の庭園は (der Garten dieser Frau) 此の市に (in dieser Stadt) ある (liegt) 33. あなたは (Sie) 此の市へ (in diese Stadt) 又は (oder) 彼の市へ (in jene Stadt) 〔いづれへ〕 行きますか (gehen) 34. 彼は (er) 皇帝を (den Kaiser) 守るか (verteidigt) 或は (oder) 守ら (verteidigt) ないか (nicht) 35. どの王が (welcher König) 此の國を (dieses Land) 守るか (verteidigt) 36. 我々は (wir) 明日 (morgen) 市へ (in die Stadt) 行き (gehen) そして (und) コーヒーを (Kaffee) 飲む (trinken) 37. 汝等は (ihr) 今日 (heute) 或は

(oder) 明日 (morgen) 市に (in der Stadt) ある (seid) 〔町に着く〕 38. 私は (ich) 此の女の友人に (dem Freunde dieser Frau) 〔最早〕 (nicht mehr) 逢は (begegne) 〔ない〕 39. 我々は (Wir) 未だ (noch nicht) 叔父の (des Onkels) 家に (im Hause) ゐ (sind) 〔ない〕 40. どの婦人が (welche Frau) 此の國の女王で (die Königin dieses Landes) あるか (ist)

41. Dieser Garten gehört jetzt der Königin dieser Stadt. 42.
ディーゼル がルテン ゲヘールト イエツト デル けーニギン ディーゼル シュタット
Der Arzt geht heute in das Haus des Kaisers. 43. Jeder Feind
デル あールツト ゲート ほイテ イン ダス ハウス デス かイゼルス イえーデル ファイント
fürchtet den König jenes Landes. 44. Die Frau dieses Mannes
フゅルヒテット デン けーニヒ イえーネス らンデス ディー フラウ ディーゼス まンネス
geht zum Tore des Gartens. 45. Jener Garten gehört dem
ゲート ツーム とーレ デス がルテンス イえーネル がルテン ゲヘールト デム
Könige dieses Landes. 46. Heute begegnet jeder Mann dem Kaiser
けーニゲ ディーゼス らンデス ほイテ ベゲークネット イえーデル マン デム かイゼル
des Landes. 47. Jedermann liebt und lobt den Garten des
デス らンデス イえーデルマン リーブト ウント ローブト デン がルテン デス
Freundes. 48. Wie heißt der Freund dieser Frau? 49. Wie
フろインデス ヴー ハイスト デル フロイント ディーゼル フラウ ヴー
heißt die Freundin jenes Mannes? 50. Wo liegt die Stadt des
ハイスト ディー フろインディン イえーネス まンネス ヴー リークト ディー シュタット デス
Feindes? 51. Ich gehe heute Morgen zur Station.
フぁインデス イヒ ゲーエ ほイテ もルゲン ツール シュタツィおーン

【譯】 41. 此の庭園は (dieser Garten) 今は (jetzt) 此の市の女王に (der Königin dieser Stadt) 屬する (gehört) 42. 醫者は (der Arzt) 今日 (heute) 皇帝の (des Kaisers) 家へ (in das Haus) 行く (geht) 43. すべての敵が (jeder Feind) 彼の國の王を (den König jenes Landes) 恐れる (fürchtet) 44. 此の男の妻が (die Frau dieses Mannes) 庭園の (des Gartens) 門へ (zum Tore) 行く (geht) 45. あの庭園は (jener Garten) 此の國の王に (dem Könige dieses Landes) 屬する (gehört) 46. 今日 (heute) すべての人が (jeder Mann) 國の皇帝に (dem Kaiser des Landes) 逢ふ (begegnet) 47. すべての人が (jedermann)註1 友人の庭園を (den Garten des Freundes) 愛し (liebt) そして (und) 褒める (lobt) 48. 此の女の友人は (der Freund dieser Frau) 何と (wie) 名乘るか (heißt) 49. あの男の女友達は (die Freundin jenes Mannes) 何と (wie) 名乘るか (heißt) 50. 何所に (wo) 敵の市は (die Stadt des Feindes) あるか (liegt)

51. 私は (ich) 今朝 (heute Morgen)註2 ステーションへ (zur Station)註3 行く (gehe)

【註】〔1〕名詞的に用ゐたるものにして、jeder＝mann と同じ。

〔2〕時の副詞には、名詞の二格及び四格を用ゐる事がよくある。例へば、eines Tages, des Morgens; diesen Abend, den ganzen Tag. 等

〔3〕im＝in dem, zur＝zu der.

第　三　課

A

(不定冠詞, haben の人稱變化, kein)

Besuch, Besucher, *m.*	訪問. 訪問客	Lebewohl, *n.*	御機嫌よう
Hut. *m.*	帽子	wandern	徒歩旅行する
Hand, *f.*	手	reisen	旅行する
Welt, *f.*	世界	sagen	云ふ
Zimmer, *n.*	部屋	durch と四格＝[through]	
Stock, *m.*	ステツキ	vielleicht	恐らくは
Diener, *m.*	下僕	mit と三格＝[with]	
Tür, *f.*	扉	nun	[now]
Wanderer, *m.*	徒歩旅行者	nur	[only]

1. Morgen habe ich einen Besuch zu Hause. 2. Du hast eine Frau und ein Kind. 3. Ein Tag hat nur einen Morgen und einen Abend. 4. Wir haben heute keinen König mehr im Lande. 5. Ihr habt morgen vielleicht einen Arzt zum Besuch. 6. Sie

haben hier einen Stock. 7. Dieser Hut gehört noch keinem Manne. 8. Diese Stadt hat jetzt nur ein Tor. 9. Der Diener geht nun in das Zimmer des Kindes. 10. Dieser Arzt hat nur einen Freund in der Stadt.

【譯】1. 明日 (morgen) 私は (ich) 宅に (zu Hause) 訪問客を (einen Besuch) 持つ (habe) 2. 汝は (Du) 一人の妻 (eine Frau) と (und) 一人の子供とを (ein Kind) 持つ (hast) 3. 一日は (ein Tag) ただ (nur) 一つの朝 (einen Morgen) と (und) 一つの晩とを (einen Abend) 持つ (hat) 4. 我々は (wir) 今日 (heute) 國の中に (im Lande) 最早一人の王をも (keinen König mehr) 持た (haben)〔ない〕 5. 汝等は (ihr) 明日 (morgen) 恐らく (vielleicht) 醫者を (einen Arzt) 訪問客に (zum Besuch) もつであらう (habt) 6. あなたは (Sie) 此所に (hier) 一本のステツキを (einen Stock) 持つ (haben) 7. 此の帽子は (dieser Hut) まだ (noch) 何人にも (keinem Manne) 屬さ (gehört)〔ない〕 8. 此の市は (diese Stadt) 今は (jetzt) ただ (nur) 一つの門を (ein Tor) 持つ (hat) 9. 下僕は (der Diener) 今や (nun) 子供の (des Kindes) 部屋へ (in das Zimmer) 行く (geht) 10. 此の醫者は (dieser Arzt) 市に (in der Stadt) たゞ (nur) 一人の友人を (einen Freund) 持つ (hat)

11. Hast Du heute keinen Besuch? 12. Der Freund dieser Frau hat heute Besuch. 13. Jenes Kind gehorcht einem Diener nicht. 14. Der Besuch geht durch ein Tor in das Haus. 15. Ich habe einen Vater, eine Mutter und ein Kind. 16. Der Kaiser steht nun in der Tür des Zimmers. 17. Jener König hat nur einen Freund im Lande. 18. Warum hat der Kaiser keine Kaiserin? 19. Ein Diener hat den Hut eines Besuchers in der Hand. 20. Die Frau des Arztes hat einen Diener.

【譯】 11. 汝は (Du) 今日 (heute) 一人の訪問客をも (keinen Besuch) 持た (hast) 〔ない〕か〔汝の所に、今日、來客はないか〕 12. 此の女の友人は (der Freund dieser Frau) 今日 (heute) 訪問客を (Besuch) 持つ (hat) 13. あの子供は (jenes Kind) 一人の下僕には (einem Diener) 服從し (gehorcht) ない (nicht) 14. 訪問客が (der Besuch) 門を通つて (durch ein Tor) 家へ (in das Haus) 行く (geht) 15. 私は (ich) 一人の父 (einen Vater) 一人の母 (eine Mutter) と (und) 一人の子供を (ein Kind) 持つ (habe) 16. 皇帝は (der Kaiser) 今や (nun) 部屋の (des Zimmers) 扉の中に (in der Tür) 立つてゐる (steht) 17. あの王は (jener König) 國の中に (im Lande) ただ (nur) 一人の友人を (einen Freund) 持つ (hat) 18. 何故に (warum) 皇帝は (der Kaiser) 一人の皇妃をも (keine Kaiserin) 持た (hat) 〔ないか〕 19. 下僕が (ein Diener) 訪問客の (eines Besuchers) 帽子を (den Hut) 手に (in der Hand) 持つ (hat) 20. 醫者の妻は (die Frau des Arztes) 一人の下僕を (einen Diener) 持つ (hat)

21. Der Wanderer wandert mit einem Stock durch die Welt.
デル ヴァンデレル ヴァンデルト ミット アイネム シュトック ドゥルヒ ディー ヴェルト
22. Wie heißt die Frau eines Königs? 23. Der Vater sucht
ヴィー ハイスト ディー フラウ アイネス ケーニヒス デル ファーテル ズーフト
das Kind mit einem Diener. 24. Das Kind spielt in keinem
ダス キント ミット アイネム ディーナール ダス キント シュピールト イン カイネム
Zimmer des Hauses. 25. Ich habe jetzt nur einen Freund in der
ツィンメル デス ハウゼス イヒ ハーベ イェツト ヌール アイネン フロイント イン デル
Welt. 26. Der Kaiser begegnet keinem Feinde. 27. Geht heute
ヴェルト デル カイゼル ベゲークネット カイネム ファインデ ゲート ホイテ
der Kaiser durch die Stadt? 28. Gehst Du morgen vielleicht in
デル カイゼル ドゥルヒ ディー シュタット ゲースト ドゥー モルゲン フィールライヒト イン
die Welt? 29. Jener Garten hat nur ein Tor. 30. Der Onkel
ディー ヴェルト イェーナール ガルテン ハット ヌール アイン トール デル オンケル
dieses Mannes hat keine Frau mehr.
ディーゼス マンネス ハット カイネ フラウ メール

【譯】 21. 徒步旅行者は (der Wanderer) 一本の杖を以つて (mit einem Stock) 世界中を (durch die Welt) 徒步旅行する (wandert) 22. 王の妻は (die Frau eines Königs) 何と (wie) 呼ばれるか (heißt) 23. 父は (der Vater) 下僕と共に (mit einem Diener) 子供を (das Kind) 探す (sucht) 24. 子供は (das Kind) 家の (des Hauses) どの部屋でも (in keinem Zimmer) 遊ば (spielt) 〔ない〕 25. 私は (ich) 今は (jetzt) 世界の中で (in der Welt) ただ (nur) 一人の友人を (einen Freund) 持つ (habe) 26. 皇帝は (der Kaiser) 一人の敵にも (keinem Feinde) 逢は (begegnet) 〔ない〕 27. 今日 (heute) 皇帝は (der Kaiser) 市を通つて (durch die Stadt) 行くか (geht) 28. 君は (Du) 明日は (morgen) 恐らく (vielleicht) 世間へ (in die Welt) 出るか (gehst)註1 29. あの庭園は (jener Garten) ただ (nur) 一つの門を (ein Tor) 持つ (hat) 30. 此の人の叔父は (der Onkel dieses Mannes) 最早妻を (keine Frau mehr) 持た (hat) 〔ない〕

31. Nun gehe ich in das Land des Feindes. 32. Die Frau
ヌーン ゲーエ イヒ イン ダス ラント デス ファインデス ディー フラウ
eines Königs ist eine Königin. 33. Die Mutter reist vielleicht
アイネス ケーニヒス イスト アイネ ケーニギン ディー ムッテル ライスト フィールライヒト
mit dem Vater. 34. Er ist der Freund einer Königin. 35. Wo
ミット デム ファーテル エル イスト デル フロイント アイネル ケーニギン ヴォー
ist der Hut jenes Besuchers? 36. Der König dieses Landes
イスト デル フート イェーネス ベゾーヘルス デル ケーニヒ ディーゼス ランデス
fürchtet keinen Feind. 37. Der Onkel jenes Kindes reist durch
フュルヒテット カイネン ファインド デル オンケル イェーネス キンデス ライスト ドゥルヒ
das Land. 38. Der Wanderer begegnet einer Frau. 39. Der
ダス ラント デル ヴァンデレル ベゲークネット アイネル フラウ デル
Besucher geht, den Hut in der Hand, durch das Zimmer. 40.
ベゾーヘル ゲート デン フート イン デル ハント ドゥルヒ ダス ツィンメル
Dieser Mann sagt jetzt der Welt Lebewohl.
ディーゼル マン ザークト イェツト デル ヴェルト レーベヴォール

【譯】 31. 今や (nun) 私は (ich) 敵の (des Feindes) 國へ (in das Land) 行く (gehe) 32. 王の (eines Königs) 妻は (die Frau) 王妃で (eine Königin) ある (ist) 33. 母は (die Mutter) 恐らくは (vielleicht) 父と共に (mit dem Vater) 旅行する (reist) 34. 彼は (er) 王妃の (einer Königin) 友人で (der Freund) ある (ist) 35. 何所に (wo) あの訪問客の (jenes Besuchers) 帽子が (der Hut) あるか (ist) 36. 此の國の王は (der König dieses Landes) 如何なる敵をも (keinen Feind) 恐れ (fürchtet) 〔ない〕 37. あの子供の (jenes Kindes) 叔父は (der Onkel) 國中を (durch das Land) 旅行する (reist) 38. 徒步旅行者が (der Wanderer) 一人の女に (einer Frau) 逢ふ (begegnet) 39. 訪問客が (der Besucher) 帽子を (den Hut) 手にして (in der Hand) 部屋を通つて (durch

das Zimmer) 行く (geht) 40. 此の人は (dieser Mann) 今や (jetzt) 世の中に (der Welt) 御機嫌ようを [別れの挨拶] (Lebewohl) 云ふ (sagt)

41. Der Garten hat jetzt kein Tor mehr. 42. Warum hat
デル ガルテン ハット イエツト カイン トール メール ヴるーム ハット
jenes Land keinen Kaiser? 43. Mein Onkel reist mit einem
イえーネス ラント カイネン カイゼル マイン おンケル ライスト ミット あイネム
Diener. 44. Der Onkel sagt dem Vater Lebewohl und geht. 45.
でぃーネル デル おンクル ザークト デム ふぁーテル れーベヴール ウント ゲート
Der Besuch kommt nun in das Zimmer des Vaters. 46. Warum
デル ベずーフ コムト ヌーン イン ダス ツいムメル デス ふぁーテルス ヴるーム
hat der Diener keinen Hut in der Hand? 47. Die Frau des
ハット デル でぃーネル カイネン フート イン デル ハント デぃー フラウ デス
Onkels achtet keinen Mann in der Welt. 48. Hat dieses Zimmer
おンケルス あへテット カイネン マン イン デル ヴェルト ハット でぃーゼス ツいムメル
eine Tür? 49. Der Wanderer wandert mit einem Freunde. 50.
あイネ テユール デル ヴぁンデレル ヴぁンデルト ミット あイネム フろインデ
Der Besuch und der Diener gehen durch eine Tür. 51. Mein
デル ベずーフ ウント デル でぃーネル ゲーエン ドゥルヒ あイネ テユール マイン
Vater und mein Onkel sagen dem Diener nichts. 52. Ein Mann
ふぁーテル ウント マイン おンクル ざーゲン デム でぃーネル ニヒツ アイン マン
steht in der Tür eines Zimmers. 53. Haben Sie einen Hut und
シュテート イン デル テユール あイネス ツいムメルス はーベン ジー あイネン フート ウント
einen Stock?
あイネン シュトック

【譯】 41. 庭園は (der Garten) 今は (jetzt) 最早一つの門をも (kein Tor mehr) 持た (hat) 〔ない〕 42. 何故に (warum) あの國は (jenes Land) 皇帝を (keinen Kaiser) 持た (hat) 〔ないか〕 43. 私の叔父は (mein Onkel) 一人の下僕と共に (mit einem Diener) 旅行する (reist) 44. 叔父は (der Onkel) 父に (dem Vater) 御機嫌ようを (Lebewohl) 云ひ (sagt) そして (und) 去る (geht) 45. 訪問客は (der Besuch) 今や (nun) 父の (des Vaters) 部屋へ (in das Zimmer) 來る (kommt) 46. 何故に (warum) 下僕は (der Diener) 帽子を (keinen Hut) 手〔の中〕に (in der Hand) 持た (hat) 〔ないか〕 47. 叔父の (des Onkels) 妻君は (die Frau) 世の中に於ける (in der Welt) 如何なる男をも (keinen Mann) 尊敬し (achtet) 〔ない〕 28. 此の部屋は (dieses Zimmer) 扉を (eine Tür) 持つか (hat) 49. 徒步旅行者は (der Wanderer) 一人の友人と共に (mit einem Freunde) 徒步旅行する (wandert) 50. 訪問客 (der Besuch) と

(und) 下僕とが (der Diener) 扉を通つて (durch eine Tür) 行く (gehen) 51. 私の父 (mein Vater) と (und) 私の叔父とは (mein Onkel) 下僕に (dem Diener) 何事も (nichts) 云は (sagen) 〔ない〕 52. 一人の男が (ein Mann) 部屋の (eines Zimmers) 扉の中に (in der Tür) 立つてゐる (steht) 53. あなたは (Sie) 一つの帽子 (einen Hut) と (und) 一本の杖とを (einen Stock) 持つてゐますか (haben)

【註】〔1〕 獨逸語では、現在形を以つて未來の代りに用ひることがよくあります。殊に未來の時の副詞が用ゐられる場合はさうです。日本語でも「明日行く」と云ひます。

B

(物主代名詞及び was für ein)
ヴス フユール アイン

Buch, *n.* ブーフ	書物	wohnen ヴォーネン	住む
Schwester, *f.* シュヴェステル	[sister]	schützen シュツツエン	守る
Bruder, *m.* ブるーデル	[brother]	ruhen るーエン	休む
Himmel, *m.* ひムメル	天	fliegen フリーゲン	飛ぶ
General, *m.* ゲネらール	將軍	ehren えーレン	尊敬する
Erde, *f.* えールデ	土地	man マン	世人は [不定代名詞]
Vogel, *m.* フォーゲル	鳥	zwischen ツヴィシェン	と三格又は四格 =[between]
Luft, *f.* ルフト	空氣		
Dach, *n.* ダハ	屋根	auf アウフ	と三格又は四格 =[on]

1. Was für ein Mann kommt in das Zimmer meines Vaters?
ヴス フユール アイン マン コムト イン ダス ツいムメル マイネス ふぁーテルス
2. Dein Onkel und meine Mutter wohnen in diesem Hause. 3.
ダイン おンクル ウント マイネ むッテル ヴォーネン イン でぃーゼム はウゼ
Meine Schwester und ihr Mann leben noch in Japan. 4. Sein
マイネ シュヴェステル ウント イール マン れーベン ノホ イン ヤーパン ザイン
Bruder geht mit meinem Diener durch den Garten. 5. Unser
ブるーデル ゲート ミット マイネム でぃーネル ドゥルヒ デン ガルテン ウンゼル

Vater im Himmel schützt den König. 6. Euer Kaiser wohnt jetzt
フあーテル イム ひムメル シュツツト デン ケーニヒ オイエル かイゼル ヴーント イエツト
im Hause unseres Königs. 7. Sein Vater und seine Mutter
イム ハウゼ うンゼレス ケーニヒス ザイン フあーテル ウント ザイネ むッテル
lieben ihr Kind. 8. Euer Buch liegt auf dem Hut meines Dieners.
りーベン イール キント オイエル ブーフ リークト アウフ デム フート メイネス でぃーナルス
9. Was für einen General hat der Kaiser jenes Landes? 10.
ヴス フュール あイネン ゲネらール ハット デル かイゼル イえーネス らンデス
Der Vogel wohnt zwischen Himmel und Erde.
デル フォーゲル ヴーント ツヴィッシェン ひムメル ウント えーるデ

【譯】 1. どんな人が (was für ein Mann) 私の父の (meines Vaters) 部屋へ (in das Zimmer) 來るか (komm) 2. 汝の叔父 (dein Onkel) と (und) 私の母とは (meine Mutter) 此の家に (in diesem Hause) 住んでゐる (wohnen) 3. 私の姉妹 (meine Schwester) と (und) 彼女の夫とは (ihr Mann) まだ (noch) 日本に (in Japan) 住んでゐる (leben) 4. 彼の兄弟は (sein Bruder) 私の下僕と共に (mit meinem Diener) 庭園を通つて (durch den Garten) 行く (geht) 5. 天にます (im Himmel) 我等の父は (unser Vater) 王を (den König) 守る (schützt) 6. 汝等の皇帝は (euer Kaiser) 今 (jetzt) 我々の王の (unseres Königs) 家に (im Hause) 住んでゐる (wohnt) 7. 彼の父 (sein Vater) と (und) 彼の母とは (seine Mutter) 彼等の子供を (ihr Kind) 愛する (lieben) 8. 汝等の本が (euer Buch) 私の下僕の (meines Dieners) 帽子の上に (auf dem Hut) ある (liegt) 9. あの國の (jenes Landes) 皇帝は (der Kaiser) どんな將軍を (was für einen General) 持つか (hat) 10. 鳥は (der Vogel) 天 (Himmel) と (und) 地との (Erde)註1 間に (zwischen) 住む (wohnt)

11. Hat das Zimmer Deiner Königin auch eine Tür? 12.
ハット ダス ツィムメル ダイネル けーニギン アウホ あイネ テュール
Heute kommt sie mit ihrer Mutter zu ihrer Schwester. 13. Wo
ほイテ コムト ジー ミット いーレル むッテル ツー いーレル シュウぇステル ヴー
seid ihr nun, mein Vaterland und meine Vaterstadt? 14. Das
ザイト イール ヌーン マイン フあーテルラント ウント メイネ フあーテルシュタット ダス
Kind geht mit seinem Buch in das Haus meines Freundes. 15.
キント ゲート ミット ザイネム ブーフ イン ダス ハウス メイネス フろインデス
Eure Mutter ruht nun im Himmel, meine Freunde! 16. Kein
オイレ むッテル ルート ヌーン イム ひムメル メイネ フろインデ カイン
Wandrer geht durch das Tor ihrer Stadt. 17. Was für ein Vogel
ヴァンドレル ゲート ドゥルヒ ダス トール いーレル シュタット ヴス フュール アイン フォーゲル

ruht auf dem Dache eures Hauses? 18. Was sagt man jetzt in
ルート アウフ デム だッへ オイレス はウゼス ヴス ザークト マン イエツト イン
der Stadt unseres Kaisers? 19. Unser General schützt und
デル シュタット うンゼレス かイゼルス うンゼル ゲネらール シュツツト ウント
verteidigt unser Vaterland. 20. Kaiser, Deine Mutter ruht jetzt
フェルたイディヒト うンゼル フあーテルラント かイゼル ダイネ むッテル ルート イエツト
in der Erde!
イン デル えーるデ

【譯】 11. 汝の王妃の部屋 (das Zimmer Deiner Königin) も亦 (auch) 扉を (eine Tür) 持つか (hat) 12. 今日 (heute) 彼女は (sie) 彼女の母と共に (mit ihrer Mutter) 彼女の姉妹の所へ (zu ihrer Schwester) 來る (kommt) 13. 我が祖國 (mein Vaterland)註2 及び (und) 我が生都よ (meine Vaterstadt)註2 汝等 (ihr) 今 (jetzt) 何所に (wo) ありや (seid) 14. 子供が (das Kind) 彼の本を持つて (mit seinem Buch) 私の友人の (meines Freundes) 家へ (in das Haus) 行く (geht) 15. 我が友人等よ (meine Freunde) 汝等の母は (eure Mutter)註3 今や (nun) 天に (im Himmel) 休みたまふ (ruht) 16. 如何なる徒步旅行者も (kein Wandrer) 彼等の市の (ihrer Stadt) 門を通つて (durch das Tor) 行かゐ (geht) 〔ない〕 17. どんな鳥が (was für ein Vogel) 汝等の家の (eures Hauses)註3 屋根の上に (auf dem Dache) 休んでゐるか (ruht) 18. 我々の皇帝の (unseres Kaisers) 市に於て (in der Stadt) 今 (jetzt) 世人は (man) 何を (was) 話してゐるか (sagt) 19. 我々の將軍は (unser General) 我々の祖國を (unser Vaterland) 保護し (schützt) そして (und) 守る (verteidigt) 20. 皇帝よ (Kaiser) 汝の母は (Deine Mutter) 今や (jetzt) 地中に (in der Erde) 休みたまふぞ (ruht)

21. Wandert der Vogel durch die Luft oder auf der Erde? 22.
ヴァンデルト デル フォーゲル ドゥルヒ ディー ルフト おーデル アウフ デル えーるデ
Man liebt und ehrt nur sein Vaterland. 23. Japan ist mein
マン りーブト ウント エールト ヌール ザイン フあーテルラント やーパン イスト マイン
Vaterland, und Deutschland ist Ihr Vaterland. 24. Euer Kind
フあーテルラント ウント ドイチュラント イスト イール フあーテルラント オイエル キント
kommt mit eurem Hute in unser Haus. 25. Was für ein Buch
コムト ミット オイレム ふーテ イン うンゼル ハウス ヴス フュール アイン ブーフ
liebst Du, Schwester? 26. Der Wanderer wandert mit seinem
りーブスト ドゥー シュウぇステル デル ヴァンデレル ヴァンデルト ミット ザイネム
Stock durch das Land. 27. Man liegt in der Erde, aber man
しュトック ドゥルヒ ダス らント マン りークト イン デル えーるデ あーベル マン

ruht im Himmel. 28. Der General dieses Königs ehrt seinen
ルート イム ひムメル デル ゲネらール ディーゼス けーニヒス エールト ザイネン
Feind. 29. Wie heißt ihr Bruder und ihr Freund? 30. Unser
ふァイント ヴィー ハイスト イール ぶるーデル ウント イール ふろイント ウンゼル
König liebt und lobt den General eures Landes.
けーニヒ リーブト ウント ローブト デン ゲネらール おイレス らンデス

【譯】 21. 鳥は (der Vogel) 空中を (durch die Luft) 或は (oder) 地上を (auf der Erde) 移行するか (wandert) 22. 世人は (man) たゞ (nur) 彼の祖國を (sein Vaterland) 愛し (liebt) そして (und) 尊敬する (ehrt) 23. 日本は (Japan) 私の祖國で (mein Vaterland) あり (ist) そして (und) 獨逸は (Deutschland) 貴君の祖國で (Ihr Vaterland) ある (ist) 24. 汝等の子供は (euer Kind) 汝等の帽子を持つて (mit eurem Hute) 我々の家へ (in unser Haus) 來る (kommt) 25. 如何なる種類の本を (was für ein Buch) お前は (Du) 愛するか (liebst) 姉妹よ (Schwester) 26. 徒歩旅行者は (der Wanderer) 彼の杖を持つて (mit seinem Stock) 國中を (durch das Land) 旅行する (wandert). 27. 人は (man) 地中に (in der Erde) 横はる (liegt) が併し (aber) 人は (man) 天國に (im Himmel) 休む (ruht) 〔死して形骸は地中に殘るが、靈魂は天上に昇り休らふの意〕 28. 此の王の (dieses Königs) 將軍は (der General) 彼の敵を (seinen Feind) 尊敬する (ehrt) 29. 彼等の兄弟 (ihr Bruder) 及び (und) 彼等の友人は (ihr Freund)註4 何と (wie) 名乘るか (heißt) 30. 我々の王は (unser König) 汝等の國の (eures Landes) 將軍を (den General) 愛し (liebt) そして (und) 褒める (lobt)

31. Mein Bruder wohnt jetzt mit seinem Onkel in dieser Stadt.
マイン ぶるーデル ヴーント イエツト ミット ザイネム おンクル イン ディーゼル シュタット
32. Was für einen Vogel haben sie in ihrem Zimmer? 33.
ヴァス フュール あイネン フォーゲル はーベン ジー イン いーレム ツィンメル
Kein Vogel fliegt heute durch die Luft. 34. Warum lobst und
カイン フォーゲル フリークト ほイテ ドゥルヒ ディー ルフト ヴるーム ローブスト ウント
ehrst Du gar nichts? 35. Durch welche Stadt wandert jetzt der
エールスト ドゥー ガール ニヒツ ドゥルヒ ヴェルヒエ シュタット ヴァンデルト イエツト デル
Wanderer? 36. Man fliegt heute zwischen Himmel und Erde.
ヴァンデレル マン フリークト ほイテ ツヴィシェン ひムメル ウント えールデ
37. Der Himmel schützt euren Kaiser und eure Kaiserin. 38.
デル ひムメル シュツツト おイレン かイゼル ウント おイレ かイゼリン
Liegt dein Buch auf der Erde oder im Zimmer? 39. Seine
りークト ダイン ブーフ アウフ デル えールデ おーデル イム ツィンメル ザイネ

Schwester lebt jetzt nicht mehr, sie ist im Himmel. 40. Der
シュステル レーブト イエツト ニヒト メール ジー イスト イム ひムメル デル
General deines Königs schützt unser Land.
ゲネらール ダイネス けーニヒス シュツツト うンゼル ラント

【譯】 31. 私の兄弟は (mein Bruder) 今 (jetzt) 彼の叔父と共に (mit seinem Onkel)此の市〔の中〕に (in dieser Stadt) 住む (wohnt) 32. 彼等は (sie) 彼等の部屋の中に (in ihrem Zimmer) 如何なる種類の鳥を (was für einen Vogel) 持つか (haben) 33. 今日 (heute) 空中を通つて (durch die Luft) 一羽の鳥も飛ばない (kein Vogel fliegt) 34. 何故に (warum) 汝は (Du) 全く (gar) 何も (nichts) 褒め (lobst) そして (und) 尊敬し (ehrst) 〔ない〕か 35. 今 (jetzt) 徒歩旅行者は (der Wanderer) どの市を〔通つて〕 (durch welche Stadt) 旅行するか (wandert) 36. 人は (man) 今日は (heute) 天 (Himmel) と (und) 地との (Erde) 間を (zwischen) 飛ぶ (fliegt) 37. 天は (der Himmel) 汝等の皇帝を (euren Kaiser) そして (und) 汝等の皇妃を (eure Kaiserin) 守る (schützt) 38. 汝の本は (dein Buch) 地上に〔あるか〕 (auf der Erde) 又は (oder) 部屋の中に (im Zimmer) あるか (liegt) 39. 彼の姉妹は (seine Schwester) 今は (jetzt) もう (nicht mehr) 生きてゐ (lebt) 〔ない〕 彼女は (sie) 天國に (im Himmel) ゐる (ist) 40. 汝の王の (deines Königs) 將軍は (der General) 我々の國を (unser Land) 守る (schützt)

41. Wie fliegt ein Vogel durch die Luft, mein Kind? 42.
ヴィー フリークト アイン フォーゲル ドゥルヒ ディー ルフト マイン キント
Sein Kind begegnet heute keinem Vogel in dem Garten. 43. Ihr
ザイン キント ベゲークネット ほイテ かイネム フォーゲル イン デム ガルテン イール
ehrt die Frau eures Bruders und Königs. 44. Kein Arzt wohnt
エールト ディー フラウ おイレス ぶるーデルス ウント けーニヒス カイン あールツト ヴーント
in der Stadt unseres Kaisers. 45. Mit was für einem Manne
イン デル シュタット うンゼレス かイゼルス ミット ヴァス フュール あイネム まンネ
geht Ihr Bruder zum Arzt? 46. Das Kind meiner Schwester
ゲート イール ぶるーデル ツーム あールツト ダス キント まイネル シュステル
hat einen Vogel in der Hand. 47. Sein Vater steht zwischen
ハット あイネン フォーゲル イン デル ハント 47. ザイン ふあーテル シュテート ツヴィシェン
seiner Frau und seinem Kinde. 48. In unserer Stadt lobt man
ザイネル フラウ ウント ザイネム キンデ イン うンゼレル シュタット ローブト マン
den Kaiser gar nicht. 49. Der General unseres Feindes zerstört
デン かイゼル ガール ニヒト デル ゲネらール うンゼレス ふあインデス ツェルシュテールト

unſere Stadt. 50. Der Baum ſteht zwiſchen dem Haus und dem Garten.

【譯】 41. 鳥は (ein Vogel) 如何に (wie) 空中を〔通つて〕(durch die Luft) 飛ぶか (fliegt) 吾が兒よ (mein Kind) 42. 彼の子供は (ſein Kind) 今日 (heute) 庭園に於て (in dem Garten) 一羽の鳥にも逢はない (keinem Vogel begegnet) 43. 汝等は (ihr) 汝等の兄弟たり王たる人の (eures Bruders und Königs)[5] 妻を (die Frau) 尊敬する (ehrt) 44. 我々の皇帝の (unſeres Kaiſers) 市の中には (in der Stadt) 一人の醫者も住まぬ (kein Arzt wohnt) 45. どんな人と共に (mit was für einem Manne) 貴君の兄弟は (Ihr Bruder) 醫者の所へ (zum Arzt) 行きますか (geht) 46. 私の姉妹の (meiner Schweſter) 子供は (das Kind) 手の中に (in der Hand) 一羽の鳥を (einen Vogel) 持つてゐる (hat) 47. 彼の父は (ſein Vater) 彼の妻 (ſeiner Frau) と (und) 彼の子供との (ſeinem Kinde) 間に (zwiſchen) 立つてゐる (ſteht) 48. 我々の市に於ては (in unſerer Stadt) 人は (man) 皇帝を (den Kaiſer) 全然 (gar) 褒め (lobt) ない (nicht) 49. 我々の敵の (unſeres Feindes) 將軍は (der General) 我々の市を (unſere Stadt) 破壞する (zerſtört) 50. 樹は (der Baum) 家 (dem Haus) と (und) 庭園との (dem Garten) 間に (zwiſchen) 立つてゐる (ſteht)

51. Was für ein Vogel fliegt im Garten eurer Mutter? 52. Der Kaiſer und die Kaiſerin loben ihren General. 53. Der Vogel iſt auf der Hand meiner Schweſter.

【譯】 51. どんな鳥が (was für ein Vogel) 汝等の母の (eurer Mutter) 庭園の中を (im Garten) 飛ぶか (fliegt) 52. 皇帝 (der Kaiſer) と (und) 皇妃とは (die Kaiſerin) 彼等の將軍を (ihren General) 褒める (loben) 53. 鳥は (der Vogel) 私の姉妹の (meiner Schweſter) 手の上に (auf der Hand) ゐる (iſt)

【註】〔1〕 zwiſchen は、此の場合三格支配。(天地の) 間に住む、と云ふ具合に「間に」又は「間で」といふ際の zwiſchen は必ず三格の名詞と結合する。「間へ向つて」といふ時には四格支配、(文法第九講、助動詞 laſſen, mögen 用例一の註、參照)。Himmel

und Erde は「天地」と譯すべきで、二つの言葉が一緒になつて一つの概念を現はす、所謂二語一想と云ふ奴である。〔例、Weib und Kind 妻子、Leib und Leben 生命〕此の場合名詞に冠詞を附けない。從つて zwiſchen Himmel und Erde は「天地の間に」である。

〔2〕 Vaterland は祖國で、Mutterland (むツテルラント) は母國である。母國觀光團なんていふ言葉がある如く、海外植民地に於ける者が、その故國を指す場合に母國と云ふ。Vaterſtadt と Mutterſtadt (むツテル・シュタツト) も同じ關係である。

〔3〕 eure Mutter=euere Mutter; Wandrer=Wanderer 之は發音の關係から省略されたもの (文法第六講 unſer と euer 參照)。

〔4〕 ihr Bruder, ihr Freund の ihr は「彼女の」とも譯せる、(文法第六講、紛らはしき場合、參照)。

〔5〕 eures Bruders und Königs. 同一の人を表す二個以上の名詞には、最初の名詞の前にのみ物主代名詞を附ければよい。然らざる場合には、一々物主代名詞を繰返さなければならぬ。

第 四 課

A

男性弱變化名詞 及び「成る」といふ意味の werden

Menſch, *m.* (弱)	人間	überall	到る處で
Knabe, *m.* (弱)	[boy]	immer	何時も
Soldat, *m.* (弱)	兵士	krank (形)	[sick]
Student, *m.* (弱)	學生	geſund (形)	[sound]
Mut, *m.*	勇氣	bei と三格 = ……の許に	
Fleiß, *m.*	勤勉	aus と三格 = ……から	
Weib, *n.*	女. 妻	grüßen	挨拶する
Bote, *m.* (弱)	使者	ſitzen	腰かけてゐる

1. Ich werde ein Soldat oder ein General. 2. Du wirst
イヒ ヴェールデ アイン ゾルダート オーデル アイン ゲネラール ドゥー ヴィルスト
morgen die Frau meines Feindes. 3. Er ist auch das Kind eines
モルゲン ディー フラウ メイネス ファインデス エル イスト アウホ ダス キント アイネス
Menschen. 4. Sie wird die Frau eines Soldaten. 5. Was wird
メンシエン ジー ヴィルト ディー フラウ アイネス ゾルダーテン ヴァス ヴィルト
morgen aus diesem Menschen? 6. Der Engel ist der Bote des
モルゲン アウス ディーゼム メンシエン デル エンゲル イスト デル ボーテ デス
Himmels. 7. Dieser Mensch und sein Weib werden krank. 8.
ヒメルス ディーゼル メンシュ ウント ザイン ヴァイプ ヴェールデン クランク
Der Bote des Soldaten kommt jetzt aus dem Hause. 9. Ich
デル ボーテ デス ゾルダーテン コムト イエツト アウス デム ハウゼ イヒ
begegne heute keinem Menschen in diesem Garten. 10. Sie ist
ベゲーグネ ホイテ カイネム メンシエン イン ディーゼム ガルテン ジー イスト
die Schwester eines Studenten und ehrt den Studenten auch.
ディー シュヴェステル アイネス シュトゥデンテン ウント エールト デン シュトゥデンテン アウホ

【譯】 1. 私は (ich) 一兵士に (ein Soldat) 或は (oder) 將軍に (ein General) 成る (werde)註1 2. 汝は (Du) 明日は (morgen) 我が敵の (meines Feindes) 妻に (die Frau) 成る (wirst) 3. 彼 (er) も亦 (auch) 人間の (eines Menschen) 子供で (das Kind) ある (ist)註1 4. 彼女は (sie) 一兵士の (eines Soldaten) 妻に (die Frau) 成る (wird) 5. 明日 (morgen) 此の人間から (aus diesem Menschen) 何が (was) 生ずるか (wird) 6. 天使は (der Engel) 天の (des Himmels) 使者で (der Bote) ある (ist) 7. 此の人間 (dieser Mensch) と (und) 彼の妻とは (sein Weib) 病氣に (krank) 成る (werden) 8. 兵士の使者は (der Bote des Soldaten) 今 (jetzt) 家から (aus dem Hause) 〔出て〕來る (kommt) 9. 私は (ich) 今日 (heute) 此の庭園で (in diesem Garten) 一人の人間にも (keinem Menschen) 逢は (begegne) 〔ない〕 10. 彼女は (sie) 學生の (eines Studenten) 姉妹で (die Schwester) ある (ist) そして (und) また (auch) 學生を (den Studenten) 尊敬する (ehrt)

11. Jedes Kind liebt diesen Menschen. 12. Unser Onkel grüßt
イェーデス キント リープト ディーゼン メンシエン ウンゼル オンケル グリュースト
den Boten der Königin. 13. Der Bote des Studenten grüßt den
デン ボーテン デル ケーニギン デル ボーテ デス シュトゥデンテン グリュースト デン
Vater des Knaben. 41. Ein Soldat trinkt nur mit einem Soldaten.
ファーター デス クナーベン アイン ゾルダート トリンクト ヌール ミット アイネム ゾルダーテン
15. Der Vogel des Knaben sitzt auf jenem Dache. 16. Dieser
デル フォーゲル デス クナーベン ジツト アウフ イェーネム ダッヘ ディーゼル

Hund gehorcht nur einem Studenten. 17. Welches Buch gehört
フント ゲホルヒト ヌール アイネム シュトゥデンテン ヴェルヒエス ブーフ ゲヘールト
dem Soldaten dieses Generals? 18. Mit dem Hute in der Hand,
デム ゾルダーテン ディーゼス ゲネラールス ミット デム ホーテ イン デル ハント
geht er ins Zimmer des Kaisers. 19. Der Bote ihres Bruders
ゲート エル インス ツィンメル デス カイゼルス デル ボーテ イーレス ブルーデルス
sagt etwas zu deinem Diener. 20. Du bist vielleicht sehr krank,
ザークト エトヴァス ツー ダイネム ディーネル ドゥー ビスト フィールライヒト ゼール クランク
mein Mann!
マイン マン

【譯】 11. すべての子供が (jedes Kind) 此の人間を (diesen Menschen) 愛する (liebt) 12. 我々の叔父が (unser Onkel) 王妃の (der Königin) 使者に (den Boten)註2 挨拶する (grüßt) 13. 學生の (des Studenten) 使者が (der Bote) 少年の (des Knaben) 父に (den Vater)註2 挨拶する (grüßt) 14. 兵士は (ein Soldat) 兵士と (mit einem Soldaten) のみ (nur) 飲む (trinkt) 15. 少年の (des Knaben) 鳥は (der Vogel) あの屋根の上に (auf jenem Dache) とまつてゐる (sitzt) 16. 此の犬は (dieser Hund) 學生に (einem Studenten) のみ (nur) 服從する (gehorcht) 17. どの本が (welches Buch) 此の將軍の (dieses Generals) 兵士に (dem Soldaten) 屬するか (gehört) 18. 手に (in der Hand) 帽子を持つて (mit dem Hute) 彼は (er) 皇帝の (des Kaisers) 部屋へ (ins Zimmer)註3 行く (geht) 19. 彼女の兄弟の (ihres Bruders) 使者が (der Bote) 汝の下僕に向つて (zu deinem Diener) 何かを (etwas) 云ふ (sagt) 20. あなたは (Du) 恐らく (vielleicht) 大層 (sehr) 病氣ですよ (bist krank) 良人よ! (mein Mann)註4

21. Das Weib des Soldaten geht zum König. 22. Jeder
ダス ヴァイプ デス ゾルダーテン ゲート ツーム ケーニヒ イェーデル
Soldat grüßt seinen General. 23. Die Mutter jenes Knaben sitzt
ゾルダート グリュースト ザイネン ゲネラール ディー ムッテル イェーネス クナーベン ジツト
immer in ihrem Zimmer. 24. Ich grüße, achte und ehre immer
イムメル イン イーレム ツィンメル イヒ グリューセ アハテ ウント エーレ イムメル
meinen Feind. 25. In diesem Hause wird kein Mensch krank.
メイネン ファイント イン ディーゼム ハウゼ ヴィルト カイン メンシュ クランク
26. Knabe, deine Schwester ist noch auf der Welt. 27. Dieser
クナーベ ダイネ シュヴェステル イスト ノホ アウフ デル ヴェルト ディーゼル
König ehrt und achtet den Soldaten. 28. Was für einen Studenten
ケーニヒ エールト ウント アハテト デン ゾルダーテン ヴァス フュール アイネン シュトゥデンテン
liebt deine Schwester? 29. Ihr werdet Bruder und Schwester
リープト ダイネ シュヴェステル イール ヴェールデト ブルーデル ウント シュヴェステル

eines Kaisers. 30. Sie wird krank, ihr Arzt sitzt in ihrem Zimmer.

【譯】 21. 兵士の (des Soldaten) 妻が (das Weib) 王の所へ (zum König) 行く (geht) 22. すべての兵士が (jeder Soldat) 彼の將軍に (seinen General) 挨拶する (grüßt) 23. あの少年の (jenes Knaben) 母は (die Mutter) 常に (immer) 彼女の部屋の中に (in ihrem Zimmer) 腰かけてゐる (sitzt) 24. 私は (ich) 常に (immer) 私の敵に〔敵を〕(meinen Feind) 挨拶し (grüße) 敬ひ (achte) 且 (und) 尊ぶ (ehre) 25. 此の家に於ては (in diesem Hause) 一人の人間も (kein Mensch) 病氣に (krank) 成ら (wird)〔ない〕 26. 少年よ (Knabe) 君の姉妹は (deine Schwester) 未だ (noch) 生きてゐる (ist auf der Welt) 27. 此の王は (dieser König) 兵士を (den Soldaten) 敬ひ (ehrt) そして (und) 尊ぶ (achtet) 28. 汝の姉妹は (deine Schwester) どんな學生を (was für einen Studenten) 愛するか (liebt) 29. 汝等は (ihr) 皇帝の (eines Kaisers) 兄弟姉妹に (Bruder und Schwester) なる (werdet) 30. 彼女は (sie) 病氣に (krank) なる (wird) 彼女の醫者が (ihr Arzt) 彼女の部屋に (in ihrem Zimmer) 腰かけてゐる (sitzt)

31. Der Knabe sitzt zwischen dem Soldaten und seiner Mutter. 32. Das Weib dieses Menschen gehorcht dem Kaiser nicht. 33. Unser Kind wird jetzt ein Knabe, mein Weib! 34. Eure Mutter sagt meinem Boten nichts. 35. Unser Knabe spielt immer bei seinem Onkel. 36. Der Mensch lacht und weint, immer und überall in der Welt. 37. Man lobt überall den Mut jenes Menschen. 38. Der Onkel meiner Frau trinkt mit einem Studenten. 39. Der Soldat und der Student lieben jenen Knaben. 40. Wird das Kind krank oder gesund?

【譯】 31. 少年は (der Knabe) 兵士 (dem Soldaten) と (und) 彼の〔少年の〕母 (seiner Mutter) の間に (zwischen) 腰かけてゐる (sitzt) 32. 此の人の (dieses Menschen) 妻は (das Weib) 皇帝に (dem Kaiser) 服從し (gehorcht) ない (nicht) 33. 我々の子供は (unser Kind) 今や (jetzt) 少年に (ein Knabe) 成る (wird), 我が妻よ! (mein Weib) 34. 汝等の母は (eure Mutter) 私の使者に (meinem Boten) 何も云はない (sagt nichts) 35. 我々の少年は (unser Knabe) 常に (immer) 彼の叔父の所で (bei seinem Onkel) 遊ぶ (spielt) 36. 人間は (der Mensch) 笑ひ (lacht) そして (und) 泣く (weint), 常に (immer) そして (und) 世界の (in der Welt) 到る所で (überall) 37. 世人は (man) 到る所で (überall) あの人間の (jenes Menschen) 勇氣を (den Mut) 褒める (lobt) 38. 私の妻の (meiner Frau) 叔父は (der Onkel) 學生と (mit einem Studenten) 飲む (trinkt) 39. 兵士 (der Soldat) と (und) 學生とが (der Student) あの少年を (jenen Knaben) 愛する (lieben) 40. 子供は (das Kind) 病氣に〔なるか〕(krank) 又は (oder) 丈夫に (gesund) なるか (wird)

41. Mein Bruder und König, wo ist jetzt dein Mut? 42. Jedes Kind wohnt bei seiner Mutter. 43. Knabe, dein Bruder kommt heute auf die Welt. 44. Der Soldat und der General grüßen ihren Kaiser. 45. Kein Mensch lobt den Fleiß dieses Studenten. 46. Der Diener des Generals wohnt jetzt beim Soldaten. 47. Der General wird der Feind seines Kaisers. 48. Jeder Mensch liebt seinen König und sein Vaterland. 49. Dieses Weib gehört keinem Menschen in der Welt. 50. Man ehrt überall den Mut und den Fleiß dieses Knaben. 51. Das ist der Hut dieses Boten, mein Weib! 52. Was wird jetzt aus deinem Fleiß, Student?

【譯】 41. 我が兄弟なる王よ (mein Bruder und König) 汝の勇氣は (dein Mut) 今 (jetzt) 何所に (wo) ありや (ist) 42. 各々の子供は (jedes Kind) 自分の母の所に (bei seiner Mutter) 住む (wohnt) 43. 少年よ (Knabe) 汝の兄弟は (dein Bruder) 今日 (heute) 生れた (kommt auf die Welt)注5 44. 兵士 (der Soldat) と (und) 將軍とは (der General) 彼等の皇帝に (ihren Kaiser) 挨拶をする (grüßen) 45. いかなる人間も (kein Mensch) 此の學生の (dieses Studenten) 勤勉を (den Fleiß) 褒め (lobt) 〔ない〕 46. 將軍の (des Generals) 下僕は (der Diener) 今 (jetzt) 兵士の所に (beim Soldaten)注6 住んでゐる (wohnt) 47. 將軍は (der General) 自分の皇帝の (seines Kaisers) 敵に (der Feind) 成る (wird) 48. すべての人間は (jeder Mensch) 自分の王 (seinen König) と (und) 自分の祖國とを (sein Vaterland) 愛する (liebt) 49. 此の女は (dieses Weib) 世界の中の (in der Welt) いかなる人間にも屬さない (gehört keinem Menschen) 50. 世人は (man) 到る所に於て (überall) 此の少年の (dieses Knaben) 勇氣 (den Mut) と (und) 勤勉とを (den Fleiß) 尊敬する (ehrt) 51. それは (das) 此の使者の (dieses Boten) 帽子で (der Hut) ある (ist), 我が妻よ！ (mein Weib) 52. 今や (jetzt) お前の勤勉から (aus deinem Fleiß) 何がなるか (was wird) 學生よ (Student) 〔どんな成果が生ずるか？ 即ち今はもはや報ひられる望みが絶えたの意〕。

【注】〔1〕「彼も亦、人間の子供である」「彼女は、兵士の妻になる」の「……である」「……になる」は、いづれも sein と werden とが獨立動詞として用ゐられた場合であるが、「……である」「……になる」と譯すと（殊に後者の際）「で」「に」の前に來るべき名詞は、三格でなければいけないやうに思はれるが、常に一格なる事に注意。

〔2〕「使者に挨拶する」と日本語では云ふが、den Boten（使者を）は（單數）四格、つまり grüßen は四格の補足語を採るのです。

〔3〕 ins = in das.

〔4〕 Mann は、此の場合「良人」の意味。

〔5〕 現在形は直前の過去を指すにも用ひられる。

〔6〕 beim = bei dem.

B

助動詞 wollen 及び 未來の助動詞 werden

Magd, *f.* マークト	女中	besuchen ベザーヘン	訪問する
Mädchen, *n.* めートヒエン	娘	schicken シッケン	遣はす．送る
Arbeit, *f.* あルバイト	仕事	schenken シェンケン	贈る
Arbeiter, *m.* あルバイテル	勞働者	arbeiten あルバイテン	働く
Kamerad, *m.* (弱) カメらート	同輩	uns ウンス	[us]
Jahr, *n.* ヤール	年	ruhig るーイヒ	しづかに
Pferd, *n.* プエールト	馬	sicher ジッヒエル	屹度
Brief, *m.* ブリーフ	手紙	bald バルト	程なく
Heimat, *f.* はイマート	故鄕	sofort ゾーフォルト	すぐに
besser ベッセル	[better]	für と四格 = [for] フユール	

1. Dein Bruder wird heute vielleicht einen Besuch haben. 2. Ich werde morgen für meine Mutter zum Arzte gehen. 3. Du wirst heute sicher deinem Feinde begegnen. 4. Er wird seinen König und sein Vaterland nicht verteidigen. 5. Wir werden heute Morgen mit diesem Kinde spielen. 6. Ihr werdet den Mut und den Fleiß dieser Frau loben. 7. Sie werden bald krank, sagt unser Freund und Arzt. 8. Sie werden ihren Boten bald zu meiner Schwester schicken. 9. Sie werden Ihren Bruder zu Ihrem Arzt schicken? 10. Ich will heute im Garten meines Onkels arbeiten.

【譯】 1. お前の兄弟は (dein Bruder) 今日 (heute) 恐らく (vielleicht) 來客がある (einen Besuch haben) だらう (wird) 2. 私は (ich) 明日 (morgen) 私の母の爲めに (für meine Mutter) 醫者の所へ (zum Arzte) 行く (gehen) であらう (werde) 3. 汝は (Du) 今日 (heute) 屹度 (sicher) 汝の敵に (deinem Feinde) 逢ふ (begegnen) であらう (wirst) 4. 彼は (er) 自分の王を (seinen König) そして (und) 自分の祖國を (sein Vaterland) 守らぬ (nicht verteidigen) であらう (wird) 5. 我々は (wir) 今朝 (heute Morgen) 此の子供と共に (mit diesem Kinde) 遊ぶ (spielen) であらう (werden) 6. 汝等は (ihr) 此の婦人の (dieser Frau) 勇氣を (den Mut) そして (und) 勤勉を (den Fleiß) 褒める (loben) だらう (werdet) 7. 彼等は (sie) 間もなく (bald) 病氣に (krank) なるであらう (werden)註1 と我々の友人なる醫者が (unser Freund und Arzt) 云ふ (sagt) 8. 彼等は (sie) 彼等の使者を (ihren Boten) 間もなく (bald) 私の姉妹の所へ (zu meiner Schwester) 遣はす (schicken) であらう (werden) 9. 貴君は (Sie) 貴君の兄弟を (Ihren Bruder) 貴君の醫者の所へ (zu Ihrem Arzt) 遣はす (schicken) であらう (werden) 10. 私は (ich) 今日 (heute) 私の叔父の (meines Onkels) 庭園で (im Garten) 働かんと欲する (will arbeiten)

11. Der Arbeiter wird heute seinen Kameraden besuchen. 12. Unser Onkel wird den Fleiß eurer Magd loben. 13. Er will dieses Jahr nur in dieser Stadt wohnen und nicht reisen. 14. Ein Knabe will die Arbeit lernen, kommt in unser Haus und sagt es uns. 15. Der Knabe will nicht mehr arbeiten; die Mutter wird sicher weinen. 16. Warum wollen diese Arbeiter heute nicht arbeiten? 17. Unser Freund ist schon kein Kind mehr, er wird jetzt keinen Menschen fürchten. 18. Dort kommt ein Bote mit einem Brief in der Hand. 19. Unsere Magd will nicht arbeiten, sie will ruhig sitzen. 20. Das Mädchen ist krank, es

will gesund werden.

【譯】 11. 勞働者は (der Arbeiter) 今日 (heute) 彼の同輩を (seinen Kameraden) 訪問する (besuchen) でせう (wird) 12. 我々の叔父は (unser Onkel) 汝等の女中の (eurer Magd) 勤勉を (den Fleiß) 褒める (loben) でせう (wird) 13. 彼は (er) 今年は (dieses Jahr)註2 此の市に (in dieser Stadt) のみ (nur) 住んで (wohnen) そして (und) 旅行することを (reisen) 欲し (will) ない (nicht) 14. 一少年が (ein Knabe) 仕事を (die Arbeit) 學ばんと (lernen) 欲して (will) 我々の家へ (in unser Haus) 來り (kommt) そして (und) 其の事を (es)註3 我々に (uns) 云ふ (sagt) 15. 少年は (der Knabe) 最早 (nicht mehr) 勉强しようと (arbeiten) 欲し (will) 〔ない〕、母は (die Mutter) 屹度 (sicher) 泣く (weinen) でせう (wird) 16. 何故に (warum) 之等の勞働者達は (diese Arbeiter) 今日 (heute) 働くことを (arbeiten) 欲し (wollen) ないか (nicht) 17. 我々の友人は (unser Freund) 既に (schon) 最早子供ではない (ist kein Kind mehr) 彼は (er) 今は (jetzt) いかなる人間をも (keinen Menschen) 恐れ (fürchten) 〔ない〕であらう (wird) 18. 其所に (dort) 一人の使者が (ein Bote) 手に (in der Hand) 一本の手紙を持つて (mit einem Brief) 來る (kommt) 19. 我々の女中は (unsere Magd) 働くことを (arbeiten) 欲しない (will nicht) 彼女は (sie) しづかに (ruhig) 腰かけてゐることを (sitzen) 欲する (will) 20. 娘は (das Mädchen) 病氣で (krank) あります (ist) それは (es 娘の代名詞) 丈夫に (gesund) なることを (werden) 欲する (will)

21. Der Arbeiter und sein Freund wollen uns nicht besuchen. 22. Ihr wollt immer singen, lachen, spielen und trinken. 23. Wir werden für Dein Weib einen Brief zu unserm König schicken. 24. Der Arbeiter will nicht für seinen Kaiser arbeiten. 25. Sie schenkt ihrem Diener einen Hut und einen Stock. 26. Dieses Jahr wird uns unser Kamerad nichts mehr schenken. 27. Wollen wir nicht der Freundin dieses Mädchens ein Pferd schenken? 28.

Das Mädchen und der Knabe wollen heute nur spielen. 29. Der Knabe will nicht in das Zimmer des Vaters gehen. 30. Dieser Arbeiter will nur in seiner Heimat arbeiten.

【譯】 21. 勞働者 (der Arbeiter) と (und) 彼の友人とは (sein Freund) 我々を (uns) 訪問しようと (besuchen) 思は (wollen) ない (nicht) 22. 汝等は (ihr) 常に (immer) 歌ひ (singen) 笑ひ (lachen) 賭博をし (spielen) そして (und) 飲まんと (trinken) 欲する (wollt) 23. 我々は (wir) お前の妻の爲めに (für Dein Weib) 一本の手紙を (einen Brief) 我々の王の所へ (zu unserm König) 送る (schicken) でせう (werden) 24. 勞働者は (der Arbeiter) 彼の皇帝の爲めに (für seinen Kaiser) 働かうと (arbeiten) 欲し (will) ない (nicht) 25. 彼女は (sie) 彼女の下僕に (ihrem Diener) 一つの帽子を (einen Hut) そして (und) 一本の杖を (einen Stock) 贈る (schenkt) 26. 今年 (dieses Jahr) 我々の同輩は (unser Kamerad) 我々に (uns) 最早や何物も (nichts mehr) 贈ら (schenken)〔ない〕だらう (wird) 27. 我々は (wir) 此の娘の (dieses Mädchens) 女友達に (der Freundin) 一頭の馬を (ein Pferd) 贈らうではないか (wollen nicht schenken) 28. 娘 (das Mädchen) と (und) 少年とは (der Knabe) 今日は (heute) ただ (nur) 遊ばんと (spielen) 欲する (wollen) 29. 少年は (der Knabe) 父の (des Vaters) 部屋へ (in das Zimmer) 行く事を (gehen) 欲し (will) ない (nicht) 30. 此の勞働者は (dieser Arbeiter) 自分の故郷で (in seiner Heimat) のみ (nur) 働くことを (arbeiten) 欲する (will)

31. Wirst Du in diesem Jahre in Deiner Heimat leben? 32. Das Kind wird es nicht tun, so denkt die Mutter. 33. Will jener Arbeiter immer nur zu Hause sitzen? 34. Der Arbeiter will eine Arbeit haben und schickt uns einen Boten. 35. Ich will dieses Jahr nur mit diesem Kameraden spielen. 36. Wird dieses Mädchen das Weib jenes Arbeiters werden? 37. Heute wird

unser Kaiser zu Pferde durch die Stadt kommen. 38. Dieser Arbeiter liebt keine Arbeit, er will nur trinken. 39. Der Vogel wird auf den Baum fliegen und dort sitzen. 40. Bald wird uns dieser Mensch nicht mehr besuchen. 41. Wollt ihr eurer Mutter in der Heimat nicht einen Boten oder einen Brief schicken? 42. Dieser Arbeiter ruht jetzt und raucht, aber bald wird er mit seinem Kameraden arbeiten. 43. Du wirst besser tun, sofort zu Deinem Arzt zu gehen.

【譯】 31. 君は (Du) 今年 (in diesem Jahre) 君の故鄕で (in Deiner Heimat) 暮す (leben) でせうか (wirst) 32. 子供は (das Kind) それを (es) し (tun) ない (nicht) だらう (wird) と、さう (so) 母は (die Mutter) 思ふ (denkt) 33. あの勞働者は (jener Arbeiter) 常に (immer) 家にばかり籠つてゐる事を (nur zu Hause sitzen) 欲するか (will) 34. 勞働者は (der Arbeiter) 何か仕事に (eine Arbeit) ありつかうと (haben) 欲し (will) て (und) 我々に (uns) 一人の使者を (einen Boten) 寄越す (schickt) 35. 私は (ich) 今年 (dieses Jahr) 此の同輩とのみ (nur mit diesem Kameraden) 遊ばうと (spielen) 欲する (will) 36. 此娘は (dieses Mädchen) あの勞働者の (jenes Arbeiters) 妻に (das Weib) なる (werden)註4 だらうか (wird)註4 37. 今日 (heute) 我々の皇帝は (unser Kaiser) 馬で (zu Pferde)註5 市を通つて (durch die Stadt) 來る (kommen) でせう (wird) 38. 此の勞働者は (dieser Arbeiter) 仕事を (keine Arbeit) 好ま (liebt)〔ない〕彼は (er) ただ (nur) 飲(酒)まんと (trinken) 欲する (will) 39. 鳥は (der Vogel) 樹の上へ (auf den Baum) 飛び (fliegen) そして (und) 其所に (dort) とまる (sitzen) であらう (wird) 40. 程なく (bald) 此の人間は (dieser Mensch) 我々を (uns) 最早 (nicht mehr) 訪問し (besuchen)〔ない〕であらう (wird) 41. お前達は (ihr) 故鄕にゐる (in der Heimat) お前達の母に (eurer Mutter) 一人の使者 (einen Boten) 又は (oder) 一本の手紙を (einen Brief) 送らうとは (schicken) 思は (wollt) ないか (nicht) 42. 此の勞働者は (dieser Arbeiter) 今 (jetzt) 休ん (ruht) で (und) 喫煙してゐる (raucht) 併しながら (aber) 程なく

(bald) 彼は (er) 彼の同輩と (mit seinem Kameraden) 働く (arbeiten) でせう (wird) 43. 君は (Du) 直ぐに (sofort) 君の醫者の所へ (zu Deinem Arzt) 行くことを (zu gehen) より良く (besser) 爲す (tun) でせう (wirst) 〔行く方が、よいでせう〕

【註】 〔1〕 此の werden は未來の助動詞ではないが、勿論、此の文章は未來を意味する。〔第三課 A、註參照〕。

〔2〕 dieses Jahr は四格の副詞句。

〔3〕 es は、前の文章全體 (ein Knabe will die Arbeit lernen) を意味する。

〔4〕 werden「成る」の意味の獨立動詞で、wird は、未來の助動詞である。

〔5〕 zu Pferde「馬で」、熟字で Pferde の前に冠詞を附けない。zu Fuß「徒步で」、zu Wagen「馬車で」等と同樣。

第　五　課

複數に四種の語尾ある事

Lehrer, *m.* れーレル	先生	bekommen べこンメン	得る
lehren れーレン	教へる	schreiben シュらイベン	書く
Straße, *f.* シュトらーセ	街道	arm, (形) アルム	[poor]
Gast, *m.* ガスト	客	ihn (erの四格) イーン	[him]
Fürst, *m.* フユルスト	國君. 侯爵 [prince]	oft オフト	[often]
Leute, *pl.* ろイテ	人々 [people]	schön, (形) シエーン	[beautiful]
Eltern, *pl.* えルテルン	兩親	ganz ガンツ	[quite]
Fabrik, *f.* ファブリーク	工場	nach ナーハ と三格	{……の方へ / ……の後に (のち)
Geld, *n.* ゲルト	錢. 貨幣		
Wort, *n.* ゲルト	言葉 (Wörter, *pl.* = 單語. Worte, *pl.* = 文句. 詞) ゔぇルテル　をルテ		

1. Väter und Mütter loben den Fleiß ihrer Kinder. 2. Die Lehrer werden diese Leute nicht immer loben. 3. Keine Wanderer wandern auf dieser Straße. 4. Die Häuser dieser Stadt sind nicht sehr schön. 5. Unsere Kinder ehren uns Eltern. 6. In der Stadt hier sind Bäume, Gärten, Straßen und Fabriken. 7. Die Könige fürchten den Mut ihrer Feinde. 8. Diese Kinder wollen keine Bücher haben. 9. Ich werde diese Briefe bald zu Ihrem Lehrer schicken. 10. Die Straßen dieser Städte sind sehr schön.

【譯】 1. 父母達は (Väter und Mütter) 彼等の子供達の (ihrer Kinder) 勤勉を (den Fleiß) 褒める (loben) 2. 先生達は (die Lehrer, der Lehrer の複數) 此の人達を (diese Leute) 必ずしも (nicht immer) 褒め (loben) 〔ない〕であらう (werden) 3. いかなる徒步旅行者も (keine Wanderer) 此の街道を (auf dieser Straße) 旅し (wandern) 〔ない〕 4. 此の市の (dieser Stadt) 家々は (die Häuser) 大して (sehr) 美しくは (schön) ありません (sind nicht) 5. 我々の子供達は (unsere Kinder) 我々兩親を (uns Eltern)註1 尊敬する (ehren) 6. ここの (hier) 市の中には (in der Stadt) 幾多の樹 (Bäume)註2 幾つかの庭園 (Gärten) 幾本かの街道 (Straßen) そして (und) 幾つかの工場が (Fabriken) ある (sind) 7. 王達は (die Könige) 彼等の敵の (ihrer Feinde) 勇氣を (den Mut) 恐れる (fürchten) 8. 此の子供等は (diese Kinder) いかなる本をも (keine Bücher) 持つことを (haben) 欲し (wollen) 〔ない〕 9. 私は (ich) 之等の手紙を (diese Briefe) 程なく (bald) 貴君の先生の所へ (zu Ihrem Lehrer) 送る (schicken) でせう (werde) 10. 之等の市の (dieser Städte) 街道は (die Straßen) 大層 (sehr) 美しく (schön) ある (sind)

11. Die Leute besuchen die Fabriken dieser Männer. 12. Diese Mägde sind immer sehr gesund. 13. Eure Brüder werden uns

überall suchen, aber nicht finden. 14. Die Menschen loben immer
nur ihre Freunde. 15. Die Gäste bekommen nach dem Besuch ihre
Hüte und Stöcke. 16. Die Kaiserinnen sind die Frauen der Kaiser.
17. Diese Männer verteidigen unser Vaterland. 18. Die Mütter
lieben und loben ihre Kinder. 19. Diese Weiber haben keine
Kinder. 20. Die Soldaten loben die Pferde ihrer Generäle.

【譯】 11. 人々は (die Leute)註3 此の男達の (dieser Männer) 工場を (die Fabriken) 訪問する (besuchen) 12. 此の女中等は (diese Mägde) 常に (immer) 非常に (sehr) 丈夫で (gesund) ある (sind) 13. 汝等の兄弟等は (eure Brüder) 我々を (uns) 到る所に (überall) 探す (suchen) 併し (aber) 見出さ (finden) ない (nicht) だらう (werden) 14. 人間は (Die Menschen) 常に (immer) 自分の味方のみ (nur ihre Freunde) 褒める (loben) 15. 客達は (die Gäste) 訪問の後で (nach dem Besuch) 彼等の帽子 (ihre Hüte) と (und) 杖とを (Stöcke) 受取る (bekommen) 16. 皇妃は (die Kaiserinnen) 皇帝の (der Kaiser, 男性、複數、二格) 妻で (die Frauen) ある (sind) 17. 此の男等は (diese Männer) 我々の祖國を (unser Vaterland) 守る (verteidigen) 18. 母等は (die Mütter) 彼等の子供等を (ihre Kinder) 愛し (lieben) 且 (und) 褒める (loben) 19. 此の女達は (diese Weiber) 子供を一人も (keine Kinder) 持た (haben) 〔ない〕 20. 兵士達は (die Soldaten) 彼等の將軍等の (ihrer Generäle) 馬を (die Pferde) 褒める (loben)

21. Die Stöcke dieser Gäste liegen dort im Garten. 22. Die
Frauen der Könige heißen Königinnen. 23. Was er uns sagt,
ist sehr schön, aber er tut nichts für uns. 24. Er schreibt einen
Brief und schickt ihn zur Fabrik. 25. Die Arbeiter werden die
Arbeit ihrer Kameraden loben. 26. Die Gäste der Fürsten sind

Könige und Königinnen. 27. Unsere Lehrer lehren uns Deutsch
und Japanisch. 28. Meine Eltern sind ganz arm, und haben
oft kein Geld. 29. Die Ärzte werden heute Abend meine Schwestern
besuchen. 30. Was für Vögel sitzen auf dem Dache Ihres Hauses?

【譯】 21. 此の客達の (dieser Gäste) 杖は (die Stöcke) 彼所に (dort) 庭園に (im Garten) 横はつてゐる (liegen) 22. 王の (der Könige) 妻は (die Frauen) 王妃と (Königinnen) 呼ばれる (heißen) 23. 彼が (er) 我々に (uns) 云ふ (sagt) 事は (was) 大層 (sehr) 結構で (schön) ある (ist) 併し (aber) 彼は (er) 我々の爲めに (für uns) 何も爲さない (tut nichts) 24. 彼は (er) 手紙を (einen Brief) 書き (schreibt) そして (und) それを(手紙を) (ihn)註4 工場へ (zur Fabrik) 送る (schickt) 25. 勞働者等は (die Arbeiter) 彼等の同輩の (ihrer Kameraden) 仕事を (die Arbeit) 褒める (loben) だらう (werden) 26. 侯爵等の (der Fürsten) 客達は (die Gäste) 王 (Könige) 及び (und) 王妃達で (Königinnen) ある (sind) 27. 我々の先生達は (unsere Lehrer) 我々に (uns)註5 獨逸語 (Deutsch) 及び (und) 日本語を (Japanisch) 敎へる (lehren) 28. 私の兩親は (meine Eltern) 全く (ganz) 貧しく (arm) ある (sind) そして (und) 屢 (oft) 一文の金をも持たない (haben kein Geld) 29. 醫者達は (die Ärzte) 今晩 (heute Abend) 私の姉妹等を (meine Schwestern) 訪問する (besuchen) であらう (werden) 30. どんな種類の鳥が (was für Vögel) 貴君の家の (Ihres Hauses) 屋根の上に (auf dem Dache) とまつてゐるか (sitzen)

31. Die Soldaten gehen durch die Straßen dieser Stadt. 32.
Arbeiter und Arbeiterinnen reisen nach ihrer Heimat. 33. Die
Mädchen bekommen in diesem Jahre kein Geld. 34. Die Hände
dieser Hausmädchen ruhen immer. 35. Die Länder dieses Fürsten
gehören jetzt dem Kaiser. 36. Die Knaben schreiben Briefe zu
ihrem Lehrer. 37. Warum wollen Deine Brüder nicht nach ihrer

Heimat reisen? 38. Die Bäume dieser Gärten sind sehr schön.
ハイマート ライゼン ディー ボイメ ディーゼル ゲルテン ジント ゼール シエーン

39. Die Weiber dieser Arbeiter bekommen noch keine Kinder. 40.
ディー ヴァイベル ディーゼル アルバイテル ベコムメン ノホ カイネ キンデル

Was für Fabriken sind in diesem Lande?
ヴァス フユール ファブリーケン ジント イン ディーゼム ランデ

【譯】 31. 兵士等は (die Soldaten) 此の市の (dieser Stadt) 街道を通つて (durch die Straßen) 行く (gehen) 32. 勞働者 (Arbeiter) 及び (und) 女勞働者達が (Arbeiterinnen) 彼等の故郷の方へ (nach ihrer Heimat) 旅行する (reisen) 33. 娘達は (die Mädchen) 今年 (in diesem Jahre) 一文も得ない (bekommen kein Geld) 34. 此の家婢等の (dieser Hausmädchen) 手は (die Hände) 常に (immer) 休む (ruhen) 35. 此の侯爵の (dieses Fürsten) 國々は (die Länder) 今 (jetzt) 皇帝に (dem Kaiser) 屬する (gehören) 36. 少年等は (die Knaben) 彼等の先生に (zu ihrem Lehrer) 手紙を (Briefe) 書く (schreiben) 37. 何故に (warum) 君の兄弟等は (Deine Brüder) 彼等の故郷の方へ (nach ihrer Heimat) 旅行することを (reisen) 欲し (wollen) ないか (nicht) 38. 之等の庭園の (dieser Gärten) 樹は (die Bäume) 大層 (sehr) 美しく (schön) ある (sind) 39. 此の勞働者等の (dieser Arbeiter) 妻達は (die Weiber) 未だ (noch) 子供を (keine Kinder) 儲け (bekommen)〔ない〕 40. 如何なる種類の工場が (was für Fabriken) 此の國の中に (in diesem Lande) あるか (sind)

41. Die Arbeiter werden heute Morgen sicher ruhig arbeiten.
ディー アルバイテル ヴェールデン ホイテ モルゲン ジツヒエル ルーイヒ アルバイテン

42. Diese Königinnen haben keine Eltern mehr. 43. Seine
ディーゼ ケーニギンネン ハーベン カイネ エルテルン メール ザイネ

Freundinnen wollen uns verteidigen. 44. Die Arbeiterinnen
フロインディンネン ヴォルレン ウンス フェルテイディゲン ディー アルバイテリンネン

arbeiten in ihrer Fabrik. 45. Unsere Eltern werden uns Wörterbücher
アルバイテン イン イーレル ファブリーク ウンゼレ エルテルン ヴェールデン ウンス ヴェルテルビユーヘル

schenken. 46. Seine Worte sind sehr schön, aber was er tut, ist
シエンケン ザイネ ヴォルテ ジント ゼール シエーン あーベル ヴァス エル トゥート イスト

nicht schön. 47. Die Mädchen wollen den Fleiß jener Studenten
ニヒト シエーン ディー めートヒエン ヴォルレン デン フライス イエーネル シユトゥデンテン

gar nicht loben. 48. Diese Diener bekommen ihr Trinkgeld nicht
ガール ニヒト ろーベン ディーゼ ディーネル ベコムメン イール トゥンクゲルト ニヒト

sehr oft. 49. Ich werde diese Wörter in mein Buch schreiben.
ゼール オフト イヒ ヴェールデ ディーゼ ヴェルテル イン マイン ブーフ シユライベン

50. Die Zimmer dieses Hauses sind sehr schön.
ディー ツィンメル ディーゼス ハウゼス ジント ゼール シエーン

【譯】 41. 勞働者達は (die Arbeiter) 今朝 (heute Morgen) 屹度 (sicher) しづかに (ruhig) 働く (arbeiten) でせう (werden) 42. 此の王妃達は (diese Königinnen) 最早兩親を持たない (haben keine Eltern mehr) 43. 彼の女友達等は (seine Freundinnen) 我々を (uns) 守らんと (verteidigen) 欲する (wollen) 44. 女勞働者達は (die Arbeiterinnen) 彼等の工場に於て (in ihrer Fabrik) 働く (arbeiten) 45. 我々の兩親は (unsere Eltern) 我々に (uns) 字引を (Wörterbücher) 贈る (schenken) でせう (werden) 46. 彼の詞は (seine Worte) 大層 (sehr) 結構で (schön) ある (sind) 併し (aber) 彼が (er) 行ふ (tut) 所の事は (was) 宜しくない (ist nicht schön) 47. 娘等は (die Mädchen) あの學生達の (jener Studenten) 勤勉を (den Fleiß) 全然 (gar) 褒めようと (loben) 思は (wollen) ない (nicht) 48. 此の下僕等は (diese Diener) 彼等の心附を (ihr Trinkgeld) 大して屢は (sehr oft) もらはない (bekommen nicht) 49. 私は (ich) 之等の單語を (diese Wörter) 私の本の中へ (in mein Buch) 書く (schreiben) であらう (werde) 50. 此の家の (dieses Hauses) 部屋々々は (die Zimmer) 大層 (sehr) 美しく (schön) ある (sind)

【註】〔1〕 uns Eltern は、「我々兩親を」で、uns も Eltern も四格、之れを同格名詞と云ふ。

〔2〕 Bäume, Gärten 等、此の單數形は、ein Baum, ein Garten である。言ひ換へれば、不定冠詞の附いてゐる名詞は、複數に於て冠詞がなくなるのである。〔文法第六講 57 參照〕。

〔3〕 複數形のみが用ゐらるゝ名詞。

〔4〕 ihn は、er の四格なる事は、既に、單語表にて、判つてゐます。此の ihn 即ち、er は、Brief の代名詞です。それは Brief が男性名詞であるからです。この事に就いては、いづれ文法の方で詳しく說明があります。

〔5〕 uns は「我々に」と譯すが、實は四格。Deutsch, Japanisch も四格。既ち、lehren は、二つの四格の補足語をとる。

第　六　課

複數三格の語尾及び können と müssen

（副文章の語順は日本語と同樣）

Bett, *n.*	[bed]	obgleich	……にも拘らず
Krieg, *m.*	戰爭	ob ……?	[whether ……?]
kaufen	買ふ	reich (形)	[rich]
glauben	信ずる	euch (ihr の三格と四格)	汝等を、に
behaupten	主張する	dich (du の四格)	汝を
fragen	問ふ	mir (ich の三格)	私に
weil	[because]	überhaupt	抑も
da	[as]	gern	好んで

1. Er sagt, daß er jetzt kein Geld hat. 2. Ich werde meinen Freunden Briefe schreiben. 3. Dein Onkel kommt mit seinen Kindern. 4. Ich frage euch, ob ihr einen Brief schreiben könnt. 5. Man sagt, daß Du Dein Weib nicht liebst. 6. Die Leute sagen, daß ihr mit euren Brüdern reist. 7. Er fragt uns, ob wir überhaupt schreiben können. 8. Sie müssen zum Arzte gehen, weil Sie krank sind. 9. Ich fürchte, daß er vielleicht mein Feind wird. 10. Er will ein Pferd kaufen, obgleich er kein Geld hat.

【譯】 1. 彼は (er) 〔最初の er〕 彼が (er) 今 (jetzt) 一文の錢をも持たない (kein Geld hat) と(いふ事を) (daß) 云ふ (sagt) 2. 私は (ich) 私の友人等

に (meinen Freunden) 手紙を (Briefe) 書く (schreiben) でせう (werde) 3. 君の叔父は (Dein Onkel) 彼の子供達と共に (mit seinen Kindern) 來る (kommt) 4. 私は (ich) 汝等が (ihr) 手紙を (einen Brief) 書くことが (schreiben) 出來る (könnt) かどうかを (ob) 汝等に (euch)註1 問ふ (frage) 5. 世人は (man) 君が (Du) 君の妻君を (Dein Weib) 愛さ (liebst) ない (nicht) と (daß) 云ふ (sagt) 6. 人々は (die Leute) 汝等が (ihr) 汝等の兄弟達と共に (mit euren Brüdern) 旅行する (reist) と (daß) 云ふ (sagen) 7. 彼は (er) 我々が (wir) 抑も (überhaupt) (字を) 書くことが (schreiben) 出來る (können) かどうかを (ob) 我々に (uns)註1 問ふ (fragen) 8. 貴君は (二つ目の Sie) 病氣で (krank) ある (sind) から (weil) 貴君は (最初の Sie) 醫者の所へ (zum Arzte) 行か (gehen) なければならぬ (müssen) 9. 私は (ich) 彼が (er) 恐らく (vielleicht) 私の敵に (mein Feind) なる (wird) といふ事を (daß) 恐れる (fürchte) 10. 彼は (er) 自分が (二つ目の er) 一文の錢をも持たない (kein Geld hat) にも拘らず (obgleich) 一頭の馬を (ein Pferd) 買はうと (kaufen) 欲する (will)

11. Er schreibt mir, daß er noch immer gesund ist. 12. Ich will euch lieben, weil ihr meine Freunde seid. 13. Ich kann nicht glauben, daß sie so reich sind. 14. Wir können diesen Leuten nicht glauben. 15. Sie fragt ihn, welches Haus er kaufen will. 16. Eure Freunde wollen euch Bücher schicken. 17. Arbeitest Du überhaupt gern, Kamerad? 18. Man sagt, daß sie jetzt im Garten arbeitet. 19. Ich kann nicht glauben, daß Du so krank bist. 20. Sie behauptet, daß sie ganz schön schreiben kann.

【譯】 11. 彼は (er) 彼が (二つ目の er) 相變らず (noch immer) 丈夫で (gesund) ある (ist) と (daß) 私に (mir) 書いて寄越す (schreibt) 12. 私は (ich) 汝等が (ihr) 私の友人で (meine Freunde) ある (seid) から (weil) 汝等を (euch) 愛さう

と (lieben) 思ふ (will) 13. 私は (ich) 彼等が (sie) そんなに (so) 富んで (reich) ゐる (sind) とは (daß) 信ずることが (glauben) 出來 (kann) ない (nicht) 14. 我々は (wir) 之等の人々の言葉に (diesen Leuten)註2 信ずることは (glauben) 出來 (können) ない (nicht) 15. 彼女は (sie) 彼が (er) どの家を (welches Haus)註3 買はんと (kaufen) 欲する (will)〔かを〕彼に (ihn) 問ふ (fragt) 16. 汝等の友人達は (eure Freunde) 汝等に (euch) 本を (Bücher) 送らんと (schicken) 欲する (wollen) 17. 君は (Du) 抑も (überhaupt) 好んで (gern) 働くか (arbeitest)? 同輩よ (Kamerad) 18. 彼女は (sie) 今 (jetzt) 庭園 (の中) で (im Garten) 働いてゐる (arbeitet) と (daß) 人は (man) 云ふ (sagt) 19. 私は (ich) 君が (Du) そんなに (so) 病氣で (krank) ある (bist) とは (daß) 信ずることが (glauben) 出來 (kann) ない (nicht) 20. 彼女は (sie) 彼女が (二つ目の sie) 全く (ganz) 美しく (schön) 書くことが (schreiben) 出來る (kann) と云ふことを (daß) 主張する (behauptet)

21. In den Gärten stehen Bäume und Gartenhäuser. 22. Er
イン デン ゲルテン シュテーエン ボイメ ウント ガルテンホイゼル エル
muß ganz reich sein, da er Pferde kaufen kann. 23. Ihre Frau
ムス ガンツ ライヒ ザイン ダー エル フェールデ カウフェン カン イーレ フラウ
arbeitet immer mit ihren Mägden. 24. Auch Könige müssen
アルバイテット イムメル ミット イーレン メークデン アオホ ケーニゲ ミュッセン
ihre Kinder lieben. 25. Ich will nicht behaupten, daß ich reich
イーレ キンデル リーベン イヒ ヴィル ニヒト ベハウプテン ダス イヒ ライヒ
bin. 26. Ob er überhaupt kommt, ist nicht ganz sicher. 27.
ビン オップ エル ユーベルハウプト コムト イスト ニヒト ガンツ ズィヒエル
Sie schreibt uns, daß ihr Kind sehr schön ist. 28. Dieser Arbeiter
ジー シュライプト ウンス ダス イール キント ゼール シェーン イスト ディーゼル アルバイテル
muß in die Fabrik gehen, obgleich sein Weib mit ihren Kindern
ムス イン ディー ファブリーク ゲーエン オップグライヒ ザイン ヴァイプ ミット イーレン キンデルン
krank im Bette liegt. 29. Man lacht, weil ein General den
クランク イム ベッテ リークト マン ラハト ヴァイル アイン ゲネラール デン
Krieg fürchtet. 30. Die Lehrer behaupten, daß diese Knaben gar
クリーク フュルヒテット ディー レーレル ベハウプテン ダス ディーゼ クナーベン ガール
nicht arbeiten wollen.
ニヒト アルバイテン ヴォレン

【譯】 21. 庭園の中に (in den Gärten) 樹 (Bäume) 及び (und) 園亭が (Gartenhäuser) 立つてゐる (stehen) 22. 彼は (二つ目の er) 數頭の馬を (Pferde) 買ふことが (kaufen) 出來る (kann) から (da) 彼は (er) 全く (ganz) 富んで

(reich) ゐる (sein) に相違ない (muß) 23. 貴君の妻君は (Ihre Frau) いつも (immer) 彼女の女中等と共に (mit ihren Mägden) 働く (arbeitet) 24. 王達 (Könige) も亦 (auch) 彼等の子供等を (ihre Kinder) 愛さ (lieben) なければならぬ (müssen) 25. 私は (最初の ich) 私が (二つ目の ich) 富んで (reich) ゐる (bin) と云ふ事を (daß) 主張する事を (behaupten) 欲し (will) ない (nicht) 26. 彼が (er) 抑も (überhaupt) 來る (kommt) かどうかは (ob) 全くは (ganz)註4 確か (sicher) でない (ist nicht)註4 27. 彼女は (sie) 彼女の子供が (ihr Kind) 大層 (sehr) 美しく (schön) ある (ist) と (daß) 我々に (uns) 書いてよこす (schreibt) (手紙でその事を云つて寄越した意) 28. 此の勞働者は (dieser Arbeiter) 彼の妻が (sein Weib) 彼女の子供等と共に (mit ihren Kindern) 病氣で (krank) 床の中に (im Bette) 臥てゐる (liegt) に拘らず (obgleich) 工場へ (in die Fabrik) 行か (gehen) なければならぬ (muß) 29. 將軍が (ein General) 戰爭を (den Krieg) 恐れる (fürchtet) から (weil) 世人が (man) 笑ふのだ (lacht) 30. 先生達は (die Lehrer) 之等の少年が (diese Knaben) 全然 (gar) 勉强することを (arbeiten) 欲し (wollen) ない (nicht) と (daß) 主張する (behaupten)

31. Wir wollen gern glauben, daß auch Du Deine Feinde
ヴィール ヴォレン ゲルン グラウベン ダス アオホ ドゥー ダイネ ファインデ
lieben kannst. 32. Sind in diesen Ländern noch Städte und
リーベン カンスト ジント イン ディーゼン レンデルン ノホ シュテッテ ウント
Häuser? 33. Man sagt, daß die Straßen dieser Stadt sehr
ホイゼル マン ザークト ダス ディー シュトラーセン ディーゼル シュタット ゼール
schön sind. 34. Du glaubst, daß diese Leute Arbeiter sind. 35.
シェーン ジント ドゥー グラウブスト ダス ディーゼ ロイテ アルバイテル ジント
Das Weib jenes Arbeiters schreibt mir, daß ihr Mann dieses Jahr
ダス ヴァイプ イェーネス アルバイテルス シュライプト ミール ダス イール マン ディーゼス ヤール
noch keine Arbeit bekommt. 36. Der Arbeiter fragt seine Kame-
ノホ カイネ アルバイト ベコムト デル アルバイテル フラークト ザイネ カメ
raden, ob sie Geld haben. 37. Er will in den Krieg, obgleich
ラーデン オップ ジー ゲルト ハーベン エル ヴィル イン デン クリーク オップグライヒ
er kein Soldat ist. 38. Wir wollen heute mit unsern Kindern
エル カイン ゾルダート イスト ヴィール ヴォレン ホイテ ミット ウンゼルン キンデルン
spielen. 39. Du mußt im Bette liegen, weil Du etwas krank
シュピーレン ドゥー ムスト イム ベッテ リーゲン ヴァイル ドゥー エトヴァス クランク
bist. 40. Man sagt, daß dieser Soldat keinen Mut hat. 41.
ビスト マン ザークト ダス ディーゼル ゾルダート カイネン ムート ハット
Die Knaben kommen mit ihren Büchern nach Hause. 42. Die
ディー クナーベン コムメン ミット イーレン ビューヒエルン ナーハ ハウゼ ディー

Erde gehört den Menschen und die Luft den Vögeln.
エールデ ゲヘールト デン メンシェン ウント ディー ルフト デン フェーゲルン

【譯】 31. 我々は (wir) 君 (Du) も亦 (auch) 君の敵を (Deine Feinde) 愛することが (lieben) 出來る (kannst) といふ事を (daß) 好んで (gern) 信ぜんと (glauben) 欲する (wollen) 32. 之等の國々の中には (in diesen Ländern) まだ (noch) 市 (Städte) 及び (und) 家が (Häuser) あるか (sind)? 33. 此の市の (dieser Stadt) 街道は (die Straßen) 大層 (sehr) 美しく (schön) ある (sind) と (daß) 世人は (man) 云ふ (sagt) 34. 君は (Du) 之等の人々が (diese Leute) 勞働者で (Arbeiter) ある (sind) と (daß) 信ずる (glaubst) 35. あの勞働者の (jenes Arbeiters) 妻は (das Weib) 彼女の良人が (ihr Mann) 今年 (dieses Jahr) まだ (noch) 一つの仕事をも得ない (keine Arbeit bekommt) と云ふ事を (daß) 私に (mir) 書く (schreibt) 36. 勞働者は (der Arberter) 彼の同僚に (seine Kameraden) 彼等が (sie) 錢を (Geld) 持つてゐる (haben) かどうかを (ob) 問ふ (fragt) 37. 彼は (二つ目の er) 兵士でない (kein Soldat ist) にも拘らず (obgleich) 彼は (最初の er) 戰爭に出でむと (in den Krieg)註5 欲する (will) 38. 我々は (wir) 今日 (heute) 我々の子供等と共に (mit unsern Kindern) 遊ばうと (spielen) 欲する (wollen) 39. 君は (二つ目の Du) 少し (etwas) 病氣で (krank) ある (bist) から (weil) 君は (Du) 床の中に (im Bette) 臥てゐ (liegen) なければならぬ (mußt) 40. 此の兵士は (dieser Soldat) 勇氣を (keinen Mut) 持た (hat) 〔ない〕と (daß) 世人は (man) 云ふ (sagt) 41. 少年等は (die Knaben) 彼等の本を持つて (mit ihren Büchern) 家へ (nach Hause) 來る〔歸る〕(kommen) 42. 大地は (die Erde) 人間に (den Menschen) 屬し (gehört) そして (und) 空中は (die Luft) 鳥に (den Vögeln) 〔屬する〕註6

【註】〔1〕 euch は「汝等に問ふ」と、日本語に譯すが、euch は、四格である。即ち fragen が四格の補足語をとる動詞である。 uns も同樣四格である。

〔2〕 diesen Leuten glauben の diesen Leuten は、復數三格、つまり glauben は（人を表す）三格の補足語をとるのです。

〔3〕 welches Haus..... 此の副文章は、間接疑問文章です。

〔4〕 nicht ganz の nicht は ganz を打消してゐるので、「全然確かでない」と云ふ意味でなく「全くは確かでない」即ち「少し不確かである」と云ふ意味である。之れはよく出逢ふ文句で、しかも譯しにくいものであるから御注意。

〔5〕 in den Krieg は in den Krieg gehen の略である。云はなくても分りきつてゐる時には gehen 等といふ字をよく略す。

〔6〕 gehört が省略されてゐる。即ち die Luft gehört den Vögeln が、完全なる文章である。

第　七　課

A

形容詞が强語尾を取る場合及び lassen, dürfen
ラッセン デュルフェン

lieb, *a.* リーブ	親愛なる	bleiben ブライベン	とどまる
kalt, *a.* カルト	冷たい	Schönheit, *f.* シェーンハイト	美
gut, *a.* グート	善き	Ernst, *m.* エルンスト	眞面目
groß, *a.* グロース	大なる	Eile, *f.* アイレ	急ぎ
größt, *a.* グレースト	最大の	besitzen ベジツツエン	所有する
höchst, *a.* ヘーヒスト	非常な、非常に	von フォン	と三格＝[of, from]
all, *a.* アル	凡ゆる	wie ヴィー	如き．如く
kennen, ケンネン	識る	wenn ヴェン	[if]
Wert, *m.* ヴェールト	價値	dich ディヒ	汝を
Zeit, *f.* ツァイト	[time]	mich ミヒ	私を
Bedeutung, *f.* ベダイトゥング	意味．意義	denn デン	何故ならば

1. Lieber Freund, mein Vater läßt Dich grüßen. 2. Liebe Schwester, unsere Eltern lassen uns nicht reisen. 3. Liebes Kind, Du darfst nicht rauchen und trinken. 4. Liebe Eltern, man sagt, daß ihr sehr krank seid. 5. Wo darf ich wohnen in dieser Stadt,
リーベル フロイント マイン ファーター レスト ディヒ グリューセン リーベ シュヴェスター ウンゼレ エルテルン ラッセン ウンス ニヒト ライゼン リーベス キント ドゥー ダルフスト ニヒト ラオヘン ウント トリンケン リーベ エルテルン マン ザークト ダス イール ゼール クランク ザイト ヴォー ダルフ イヒ ヴォーネン イン ディーゼル シュタット

schöne Königin? 6. Diese Leute lassen mich heute nicht ruhig
シェーネ ケーニギン デーゼ ロイテ ラッセン ミヒ ホイテ ニヒト ルーイヒ
arbeiten. 7. Ich trinke jetzt nur guten Wein und gutes Bier,
アルバイテン イヒ トリンケ イエツト ヌール グーテン ヴァイン ウント グーテス ビール
obgleich ich nicht so reich bin wie Du. 8. Eine Frau von großer
オプグライヒ イヒ ニヒト ゾー ライヒ ビン ヴィー ドゥー アイネ フラウ フォン グロースル
Schönheit sitzt im Garten des Königs und spielt mit ihren Kindern.
シェーンハイト ジツト イム ガルテン デス ケーニヒス ウント シュピールト ミット イーレン キンデルン
9. Sie behauptet in allem Ernst, daß ihre Eltern überall schöne
ジー ベハウプテト イン アルレム エルンスト ダス イーレ エルテルン ユーベルアル シェーネ
Fabriken besitzen. 10. Lieber Freund ich darf heute nicht in den
ファブリーケン ベジツツエン リーベル フロイント イヒ ダルフ ホイテ ニヒト イン デン
Garten gehen, weil es dort so kalt ist.
ガルテン ゲーエン ヴァイル エス ドルト ゾー カルト イスト

【譯】 1. 親愛なる友よ (lieber Freund) 私の父が (mein Vater) 君を (Dich) 挨拶せ (grüßen) しめる (läßt) 〔私の父から君に宜敷くとのことです〕 2. 親愛なる姉妹よ (liebe Schwester) 我々の兩親は (unsere Eltern) 我々をして (uns) 旅行せしめぬ (lassen nicht reisen) 3. 親愛なる子供よ (liebes Kind) お前は (Du) 喫烟し (rauchen) そして (und) 飲酒し (trinken) てはならない (darfst nicht) 4. 親愛なる兩親よ (liebe Eltern)註1 あなた方は (ihr) 大層 (sehr) 病氣で (krank) ある (seid) と〔云ふ事を〕(daß) 世人が (man) 云つてゐる (sagt) 5. 何所に (wo) 私は (ich) 此の市に於て (in dieser Stadt) 住ん (wohnen) でよろしいのですか (darf)? 美しき王妃よ (schöne Königin) 6. 此の人々は (diese Leute) 私をして (mich) 今日 (heute) 靜かに (ruhig) 働か (arbeiten) しめない (lassen nicht) 7. 私は (二つ目の ich) 君の (Du) 如く (wie) そんなに (so) 富んで (reich) ゐ (bin) ない (nicht) にも拘らず (obgleich) 私は〔最初の ich〕今 (jetzt) 良い葡萄酒 (guten Wein) と (und) 良いビール (gutes Bier) ばかり (nur) 飲む (trinke) 8. 大なる美の (von großer Schönheit) 一人の婦人が (eine Frau) 王の (des Königs) 庭園の中に (im Garten) 腰かけてゐて (sitzt) そして (und) 彼女の子供等と共に (mit ihren Kindern) 遊んでゐる (spielt) 9. 彼女の兩親は (ihre Eltern) 到る所に (überall) 美しい工場を (schöne Fabriken) 所有してゐる (besitzen) と (daß) 彼女は (sie) 凡ゆる眞面目さに (in allem Ernst)註2 主張する (behauptet) 10. 親愛なる友よ (lieber Freund) 其所は (dort, 即ち庭は、の意) そんなに (so) 冷たく (kalt) ある (es ist)註3

から (weil) 僕は (ich) 今日は (heute) 庭へ (in den Garten) 行つてはならない (darf nicht gehen)

11. Dein guter Vater ist uns sehr lieb, nur läßt er uns von
ダイン グーテル ファーテル イスト ウンス ゼール リーブ ヌール レスト エル ウンス フォン
Zeit zu Zeit im Winter kalten Kaffee trinken; das ist nicht gut.
ツァイト ツー ツァイト イム ヴィンテル カルテン カッフェー トリンケン ダス イスト ニヒト グート
12. Mein kranker König, Deine Königin will Dich nicht mehr
マイン クランケル ケーニヒ ドイネ ケーニギン ヴィル ディヒ ニヒト メール
im Garten sitzen lassen, weil es hier so kalt wird. 13. Euer
イム ガルテン ジツツエン ラッセン ヴァイル エス ヒール ゾー カルト ヴィルト オイエル
Bote will in aller Eile nach eurem Hause wandern. 14. Da hat
ボーテ ヴィル イン アルレル アイレ ナーハ オイレム ハウゼ ヴァンデルン ダー ハット
euer Soldat ein Pferd von großem Wert! 15. Liebe Mutter,
オイエル ゾルダート アイン プフェールト フォン グロースム ヴェールト リーベ ムッター
unser Vater darf hier nicht liegen bleiben, weil es in diesem Zimmer
ウンゼル ファーテル ダルフ ヒール ニヒト リーゲン ブライベン ヴァイル エス イン ディーゼム ツィンメル
sehr kalt ist. 16. Der Brief da ist für mich von größtem Wert,
ゼール カルト イスト デル ブリーフ ダー イスト フユール ミヒ フォン グレースタム ヴェールト
da er von meiner Mutter kommt. 17. Ich lasse ihn so etwas ruhig
ダー エル フォン マイネル ムッター コムト イヒ ラッセ イーン ゾー エットヴァス ルーイヒ
behaupten, weil ich ihn überhaupt nicht achten kann. 18. Er will
ベハウプテン ヴァイル イヒ イーン ユーベルハウプト ニヒト アハテン カン エル ヴィル
in allem Ernst ein Fürst oder ein Kaiser werden. 19. Lieber
イン アルレム エルンスト アイン フユルスト オーデル アイン カイゼル ヴェールデン リーベル
Kaiser, Du darfst nicht mehr in dieser Stadt bleiben, da Dein
カイゼル ドゥー ダルフスト ニヒト メール イン ディーゼル シュタット ブライベン ダー ダイン
General sie den Feinden schenken will. 20. Die Straße da ist
ゲネラール ジー デン フアインデン シェンケン ヴィル ディー シュトラーセ ダー イスト
für unsern General von höchster Bedeutung, wenn die Feinde zu
フユール ウンゼルン ゲネラール フォン ヘーヒスタル ベデイトウング ヴェン ディー フアインデ ツー
uns kommen.
ウンス コムメン

【譯】 11. 君の善良なる父は (Dein guter Vater) 我々に (uns) 大層 (sehr) 好ましく (lieb) ある (ist) たゞ (nur) 彼は (er) 我々をして (uns) 時々 (von Zeit zu Zeit)註4 冬に (im Winter) 冷たいコーヒーを (kalten Kaffee) 飲ま (trinken) せる (läßt) それが (das) よく (gut) ありません (ist nicht) 12. 我が病氣の王よ (mein kranker König) 此所は (hier) 非常に (so) 寒く (kalt) なりました (es wird)註5 から (weil) 汝の王妃は (Deine Königin) 汝をして (Dich)

〔最早〕(nicht mehr) 庭園の中に (im Garten) 腰かけてゐさせることを (sitzen lassen) 欲し (will)〔ない〕 13. 汝等の使者は (euer Bote) 凡ゆる急ぎに於て (in aller Eile)註2 汝等の家の方へ (nach eurem Hause) 旅せんと (wandern) 欲する (will) 14. そこに (da) 汝等の兵士は (euer Soldat) 大なる價値の (von großem Wert) 一頭の馬を (ein Pferd) 持つ (hat)! 15. 親愛なる母よ (liebe Mutter) 此の部屋の中は (in diesem Zimmer) 大層 (sehr) 寒く (kalt) ある (es ist)註3 から (weil) 我々の父は (unser Vater) こゝに (hier) 横はり (liegen) とどまつては (bleiben) ならない (darf nicht) 16. そこにある (da) 手紙は (der Brief) それが (er)註5 私の母から (von meiner Mutter) 來た (kommt) から (da)註6 私に取つて (für mich) 最大の價値をもつ (ist von größtem Wert)註7 17. 私は (二つ目の ich) 彼を (二つ目の ihn) 抑も (überhaupt) 尊敬することが (achten) 出來 (kann) ない (nicht) から (weil) 私は (最初の ich) 彼をして (最初の ihn) そんな事を (so etwas) 平氣で (ruhig) 主張せ (behaupten) しめる (lasse) 18. 彼は (er) 凡ゆる眞面目さで (in allem Ernst) 國君 (ein Fürst) 又は (oder) 皇帝に (ein Kaiser) 成らむと (werden) 欲する (will) 19. 親愛なる皇帝よ (lieber Kaiser) 汝の將軍は (Dein General) 彼女を (sie)註8 敵に (den Feinden) 贈らむと (schenken) 欲する (will) から (da) 汝は (Du) 最早 (nicht mehr) 此の市の中に (in dieser Stadt) とゞまつてゐ (bleiben) てはなら (darfst)〔ない〕 20. そこの (da) 街道は (die Straße) 敵が (die Feinde) 我々に向つて (zu uns) 來る (kommen) 際に (wenn) 我々の 將軍の爲めに (für unsern General) 非常な意義をもつ (ist von höchster Bedeutung)註7

21. Mein Freund in der Heimat wird bald höchst reich werden,
マイン フロイント イン デル ハイマート ヴィルト バルト ヘーヒスト ライヒ ヴェールデン
wenn gute Zeiten in die Welt kommen werden, wie er in allem
ヴェン グーテ ツァイテン イン ディー ヴェルト コムメン ヴェールデン ヴィー エル イン アルレム
Ernst glaubt. 22. Liebes Mädchen, Du mußt sofort nach Hause
エルンスト グラウブト リーベス メートヒェン ドゥー ムスト ゾーフォルト ナーハ ハウゼ
gehen, da es bald Abend wird. 23. Das Weib dieses Arbeiters
ゲーエン ダー エス バルト アーベント ヴィルト ダス ヴァイプ ディーゼス アルバイターズ
läßt ihn kein gutes Bier trinken. 24. Du darfst so etwas nicht
レスト イーン カイン グーテス ビール トリンケン ドゥー ダルフスト ゾー エトヴァス ニヒト
behaupten wollen, wenn Du mich so gut kennst, wie man mich
ベハウプテン ヴォレン ヴェン ドゥー ミヒ ゾー グート ケンスト ヴィー マン ミヒ
überall kennt. 25. Wie kannst Du nur so etwas sagen, da Du
ユーベルアル ケント ヴィー カンスト ドゥー ヌール ゾー エトヴァス ザーゲン ダー ドゥー

mich ehrst, wie kein Mensch in der Welt? 26. Dieses Mädchen
ミヒ エールスト ヴィー カイン メンシュ イン デル ヴェルト ディーゼス メートヒェン
kann nicht das Weib jenes Mannes werden, weil er sie nicht so
カン ニヒト ダス ヴァイプ イェーネス マンネス ヴェールデン ヴァイル エル ジー ニヒト ゾー
liebt, wie sie ihn liebt. 27. Liebe Leute, ihr dürft hier nicht
リープト ヴィー ジー イーン リープト リーベ ロイテ イール デュルフト ヒール ニヒト
stehen bleiben, weil die Luft dieses Zimmers so kalt ist. 28. Was
シュテーエン ブライベン ヴァイル ディー ルフト ディーゼス ツィンメルス ゾー カルト イスト ヴァス
von seinem Vater kommt, ist immer von großer Bedeutung für
フォン ザイネム ファーター コムト イスト イムメル フォン グローセル ベダイトゥング フュール
ihn. 29. Mein Vater läßt mich einen Brief schreiben. 30. Der
イーン マイン ファーター レスト ミヒ アイネン ブリーフ シュライベン デル
Onkel dieses Knaben besitzt in einer Straße von Berlin eine Fabrik
オンケル ディーゼス クナーベン ベジツト イン アイネル シュトラーセ フォン ベルリーン アイネ ファブリーク
von höchstem Wert.
フォン ヘーヒステム ヴェールト

【譯】 21. 故郷に於ける (in der Heimat) 私の友人は (mein Freund) 彼が (er) あらゆる眞面目さに於て (in allem Ernst) 信じてゐる (glaubt) 如く (wie) よい時代が (gute Zeiten) 世の中へ (in die Welt) 來る (kommen) であらう (werden) なら (wenn) 間もなく (bald) 非常に (höchst) 富裕に (reich) 成る (werden) でせう (wird) 22. 親愛なる娘よ (liebes Mädchen) 間もなく (bald) 晩に (Abend) なる (es wird) から (da) お前は (Du) 直ぐに (sofort) 家へ (nach Hause)註9 行か (gehen) なければならない (mußt) 23. 此の勞働者の (dieses Arbeiters) 妻は (das Weib) 彼をして (ihn) ちつとも良いビールを (kein gutes Bier) 飲ま (trinken) しめ (läßt)〔ない〕 24. 世人が (man) 私を (mich) 到る所に於て (überall) 識つてゐる (kennt) 如く (wie) そんなに (二つ目の so) よく (gut) 君が (二つ目の Du) 私を (mich) 識つてゐる (kennst) ならば (wenn) 君は (最初の Du) そんな (最初の so) ことを (etwas) 主張せんと (behaupten) 欲し (wollen) てはよろしく (darfst) ない (nicht) 25. 世の中に於ける (in der Welt) いかなる人間も (kein Mensch) [尊敬し]〔ない〕註10 如く (wie) 君は (二つ目の Du) 僕を (mich) 尊敬してゐる (ehrst) のに (da) 君は (最初の Du) どうして (wie) 一體 (nur) そんなことを (so etwas) 云ふことが (sagen) 出來るか (kannst)? 26. 彼女が (二つ目の sie 卽ち此の娘) 彼を (ihn, あの男) 愛する (二つ目の liebt) 如く (wie) そんなに (so) 彼は (er) 彼女を (最初の sie)註11 愛さ (最初の liebt) ない (nicht) から (weil) 此の娘は (dieses Mädchen) あの男の

(jenes Mannes) 妻に (das Weib) なることは (werden) 出來 (kann) ない (nicht) 27. 親愛なる人々よ (liebe Leute) 此の部屋の (dieses Zimmers) 空氣は (die Luft) 非常に (so) 冷たく (kalt) ある (ist) から (weil) 君達は (ihr) 此所に (hier) 立ち (stehen)註12 とどまつてゐてはよろしくない (dürft nicht bleiben) 28. 彼の父から (von seinem Vater) 由來する (kommt) 所のものは (was) 常に (immer) 彼の爲めに (für ihn) 大なる意義をもつ (ist von großer Bedeutung) 29. 私の父は (mein Vater) 私をして (mich) 手紙を (einen Brief) 書かゝ (schreiben) しめる (läßt) 30. 此の少年の (dieses Knaben) 叔父は (der Onkel) 伯林 (Berlin) の (von) ある街道に (in einer Straße) 非常な價値の (von höchstem Wert) 一つの工場を (eine Fabrik) 所有する (besitzt)

31. Dein Karl wird Dich ganz sicher besuchen, wenn er nicht
ダイン カルル ヴィルト ディヒ ガンツ ジッヒエル ベスーヘン ヴェン エル ニヒト
zu arbeiten hat. 32. Die Leute kennen den Wert dieser Bäume
ツー アルバイテン ハット ディー ロイテ ケンネン デン ヴェールト ディーゼル ボイメ
nicht. 33. Wenn die Gäste ins Haus kommen, so müssen die
ニヒト ヴェン ディー ゲステ インス ハウス コンメン ゾー ミュッセン ディー
Kinder sofort auf die Straße gehen, denn unser Haus hat kein
キンデル ゾーフォルト アウフ ディー シュトラーセ ゲーエン デン ウンゼル ハウス ハット カイン
Gastzimmer. 34. Die Kinder dürfen heute Morgen nicht im
ガストツィムメル ディー キンデル デュルフェン ホイテ モルゲン ニヒト イム
Zimmer bleiben, weil der Hausvater einen Besuch hat.
ツィムメル ブライベン ヴァイル デル ハウスファーター アイネン ベズーフ ハット

【譯】 31. 彼は (er = Dein Karl) 仕事を (zu arbeiten)註13 持た (hat) ない (nicht) なら (wenn) 汝のカールは (Dein Karl) 汝を (Dich) 全く (ganz) 確かに (sicher) 訪問する (besuchen) でせう (wird) 32. 人々は (die Leute) 之等の樹の (dieser Bäume) 價値を (den Wert) 識ら (kennen) ない (nicht) 33. 客達が (die Gäste) 家の中へ (ins Haus) 來る (kommen) 時は (wenn) その時は (so) 子供達は (die Kinder) 直ぐに (sofort) 往來へ (auf die Straße) 出 (gehen) なければならぬ (müssen) 何故ならば (denn) 我々の家は (unser Haus) 一つの客間も持たない (hat kein Gastzimmer) 〔から〕 34. 親爺が (der Hausvater) 一人の訪問客を (einen Besuch) 持つ (hat) から (weil) 子供達は (die Kinder) 今朝は (heute Morgen) 部屋の中に (im Zimmer) とどまつては (bleiben) よろしく (dürfen) ない (nicht)

【註】〔1〕 liebe Eltern の如き呼び掛 (Anrede) は常に一格で、冠詞を附けません。

〔2〕 in allem Ernst, in aller Eile は「大眞面目に、大急ぎで」即ち抽象名詞の前に附けられたる alle は、その名詞の意味を强めるだけである。

〔3〕 es ist kalt, es wird kalt については、いづれ文法の方で詳しく說明がある筈であるが、此所に頻繁に出て來るので一言しておく。英語の it is cold, it rains, it snows 等と同樣獨逸語に於ても、天候自然界の現象を現す場合に常に es を主語とする。此の際の動詞を非人稱動詞といふ。此の es は譯さない。然し、最近、飜譯の影響で「それは寒い」なんて文章を時々見受けるが、まさか「それは雨が降る」とは云はれないやうである。

〔4〕 英語の from time to time.

〔5〕 er は der Brief の代名詞。代名詞に就いても、後に文法で詳細な講義があるが、Brief は男性單數であるから er がその代名詞となる。

〔6〕 da「……から」と譯せば、其の譯を讀むものは何の疑念も起さず承知するが、いざ今度、自分が此の種の文章を字引を引いて譯す段になると、よく此の da を「そこで」と譯して涼しい顏をしてゐる者が屢々ある。こんな誤は初學者に多いが、然し相當むづかしい本を讀む樣にになつてゐる學生にもよく見受ける癖だ。〔文法 87〕の配語法の規則を覺えてゐるものには、決して、こんなへまな誤はない筈である。卽ち「……から」といふ場合の da は從屬的接續詞（從屬文章の場合の接續詞）であるから定形が副文章の最後にある。「そこで」の場合は、副詞であるから da の次に定形が來なければならない。定形の位置によつて直ぐ判る譯である。

〔7〕 von größtem Wert, von höchster Bedeutung は sein（此所では ist）と結合して（卽ち von＋抽象名詞＋sein）形容詞的の意味となる、もつと簡單な例をとつて說明すれば、von Bedeutung sein = bedeutend sein（有意義である）、von Nutzen〔利益〕sein = nützlich sein（有益である）等である。

〔8〕 sie は Stadt〔女性〕の代名詞。

〔9〕 nach Hause gehen「家へ行く」卽ち「歸宅する」といふ熟字である。

〔10〕 wie kein Mensch in der Welt ehrt. 此の ehrt が省略されてゐる。

〔11〕 sie（最初の）之は四格、二つ目の sie は一格。いづれも dieses Mädchen の代名詞、此の事に就いては、いづれ文法で說明あるが、元來 Mädchen は中性であるが、天然の性により、代名詞は sie で女性でゆく、然し、勿論文法の性で、卽ち中性 es でうける場合もある。

〔12〕 stehen bleiben は「立ちとゞまる」の成句である。

〔13〕 zu arbeiten haben は「働くべく持つ」「働かなければならない」の直譯で、zu tun haben も同樣である。

B

形容詞が弱語尾を取る場合及び mögen めーゲン

warm, *a.* ヴァルム	[warm]	Sohn, *m.* ゾーン	子息
klein, *a.* クライン	小さな	Werk, *n.* ヴェルク	[work]
alt, *a.* アルト	[old]	Dichter, *m.* ディヒテル	詩人
schwer, *a.* シュヴェール	難しい．重い	doch ドホ	矢張り
leicht, *a.* ライヒト	易い．輕い	denn デン	何故と云ふに
eigen, *a.* アイゲン	[own]	dann ダン	[then]
viel, *a.* フィール	多くの	vor と三格又は四格 フォール	…の前に、へ
berühmt, *a.* ベリゅーム ト	名高い	an と三格又は四格 アン	…に、へ接して
noch so…… ノホ ゾー	たとへ如何に…	auf dem Lande アウフ デム ランデ	田舍にて

1. Wenn der kalte Winter kommt, so bleiben die Kinder im
ヴェン デル カルテ ヴィンテル コムト ゾー ブライベン ディー キンデル イム
Hause und spielen in ihrem warmen Zimmer. 2. Das kleine
ハウゼ ウント シュピーレン イン イーレム ヴァルメン ツィムメル ダス クライネ
Haus seiner Eltern steht an einem großen Garten. 3. Die alte
ハウス ザイネル エルテルン シュテート アン アイネム グろーセン ガルテン ディー アルテ
Magd unseres Lehrers mag im kalten Winter nicht mehr auf die
マークト ウンゼレス レーレルス マーク イム カルテン ヴィンテル ニヒト メール アウフ ディー
Straße gehen. 4. Die alten Leute kennen noch die alte Zeit und
シュトらーセ ゲーエン ディー アルテン ろイテ ケンネン ノホ ディー アルテ ツァイト ウント
loben sie immer. 5. Der kleine Vogel dieses Knaben sitzt auf
ろーベン ジー イムメル デル クライネ フォーゲル ディーゼス クナーベン ズィツト アウフ
dem Dach unseres alten Hauses.
デム ダハ ウンゼレス アルテン ハウゼス

【譯】 1. 寒い冬が (der kalte Winter) 來る (kommt) 時は (wenn) その時は (so) 子供等は (die Kinder) 家の中に (im Hause) 止まり (bleiben) そして (und) 彼等の暖かい部屋の中で (in ihrem warmen Zimmer) 遊ぶ (spielen) 2. 彼の兩親の (seiner Eltern) 小さな家は (das kleine Haus) 一つの大きな庭園に接して (an einem großen Garten) 立つてゐる (steht) 3. 我々の教師の (unseres Lehrers) 老年の女中は (die alte Magd) 寒い冬に於ては (im kalten Winter) 最早や (nicht mehr) 往來へ (auf die Straße) 出ることを (gehen) 好ま (mag)〔ない〕 4. 老年の人々は (die alten Leute) まだ (noch) 古い時代を (die alte Zeit) 識つてゐて (kennen) そして (und) それを (sie=die alte Zeit) 常に (immer) 褒める (loben) 5. 此の少年の (dieses Knaben) 小さな鳥は (der kleine Vogel) 我々の古い家の (unseres alten Hauses) 屋根の上に (auf dem Dach) とまつてゐる (sitzt)

6. Dieses kleine Mädchen kennt schon alle Straßen und Häuser
ディーゼス クライネ めートヒェン ケント ショーン アルレ シュトらーセン ウント ホイゼル
dieser kleinen Stadt. 7. Dieser kleine Knabe kennt die alten
ディーゼル クライネン シュタット ディーゼル クライネ クナーベ ケント ディー アルテン
Bäume im schönen Garten meines Onkels sehr gut. 8. Der
ボイメ イム シェーネン ガルテン メイネス オンケルス ゼール グート デル
Winter mag noch so kalt sein wie er will, er hat auch seine eigene
ヴィンテル マーク ノホ ゾー カルト ザイン ヴィー エル ヴィル エル ハット アウホ ザイネ アイゲネ
Schönheit. 9. Steht jener schöne alte Baum noch immer im
シェーンハイト シュテート イェーネル シェーネ アルテ バウム ノホ イムメル イム
Garten eures reichen Onkels? 10. Ich frage Dich, ob Du noch
ガルテン ヨイレス らイヘン オンケルス イヒ フらーゲ ディヒ オプ ドゥー ノホ
immer jenes schöne Mädchen liebst?
イムメル イェーネス シェーネ めートヒェン リーブスト

【譯】 此の小さな娘は (dieses kleine Mädchen) 既に (schon) 此の小さな市の (dieser kleinen Stadt) 凡ゆる街道及び家を (alle Straßen und Häuser) 識る (kennt) 7. 此の小さな少年は (dieser kleine Knabe) 私の叔父の (meines Onkels) 美しい庭園に於ける (im schönen Garten) 古い樹を (die alten Bäume) 大變 (sehr) よく (gut) 識つてゐる (kennt) 8. 冬は (der Winter) たとへ (noch) 如何に (so wie er will)註1 寒く (kalt) あらうとも (mag sein)註1 彼 (二つ目の er=Winter) もまた (auch) 彼獨特の美を (seine eigene Schönheit) 持つ (hat) 9. あの美しい、古い樹は (jener schöne alte Baum) 依然として (noch immer) 汝等の富める叔父の (eures reichen Onkels) 庭園の中に (im Garten) 立つてゐるか (steht)? 10. 君は (Du) 依然として (noch immer) あの美しい娘を (jenes schöne Mädchen) 愛する (liebst) かどうかを (ob) 僕は (ich) 君に (Dich) 問ふのだ (frage)

11. Das Haus meines Bruders hat einen großen Wert, obgleich es jetzt ganz alt ist. 12. Mein Vater arbeitet den ganzen Tag in der Fabrik, und, wenn er nach Hause kommt, so muß er dann auch noch eine schwere Arbeit tun. 13. Im großen Zimmer des alten Mannes steht ein großes, altes, schweres Bett. 14. An einem großen schönen Hause liegt ein ganz kleiner Garten und in diesem steht ein alter Baum. 15. Er ist kein guter Arbeiter, denn er arbeitet immer in aller Eile.

【譯】 11. 私の兄弟の家は (das Haus meines Bruders) それが (es) 今は (jetzt) 全く (ganz) 古く (alt) ある (ist) にも拘らず (obgleich) 一つの大なる價値を (einen großen Wert) 持つ (hat) 12. 私の父は (mein Vater) 終日 (den ganzen Tag) 工場に於て (in der Fabrik) 働く (arbeitet) そして (und) 彼が (一つ日の er) 家へ (nach Hause) 來る (kommt) 時に (wenn) その時に (so) 彼は (二つ目の er) 然る後 (dann)註2 もまた (auch) なほ (noch) 一つの難しい仕事を (eine schwere Arbeit) 爲さ (tun) なければならぬ (muß) 13. 年とれる人の (des alten Mannes) 大な部屋の中に (im großen Zimmer) 一つの大きな、古い、重い、ベツトが (ein großes, altes, schweres Bett) 立つてゐる (steht) 14. 一つの大きな、美しい家に接して (an einem großen schönen Hause) 一つの全く小さい庭が (ein ganz kleiner Garten)註3 横はつてゐる (liegt) そして (und) 此のものゝ中に (in diesem)註4 一本の古い樹が (ein alter Baum) 立つてゐる (steht) 15. 彼は (er) 決して好い勞働者で (kein guter Arbeiter) あり (ist) 〔ませぬ〕、何故と云ふに (denn) 彼は (二つ目の er) 常に (immer) 大急ぎで (in aller Eile) 働く (arbeitet) 〔から〕

16. Die vielen Söhne dieses armen Arbeiters müssen nun bald in den Krieg gehen, wenn der Kaiser es will. 17. Er mag noch

so sehr arbeiten wie er will, seine Werke sind doch von keiner großen Bedeutung. 18. Das Werk dieses alten kranken Dichters ist von großem Wert. 19. Der alte Dichter und der gute General leben nun ruhig in ihrer schönen, warmen Heimat. 20. Dieser kleine Knabe arbeitet immer mit Fleiß; sein armer Vater behauptet, daß er und sein Sohn bald in ihrem eigenen Hause wohnen werden.

【譯】 16. 此の貧乏な勞働者の (dieses armen Arbeiters) 多くの息子達は (die vielen Söhne) 皇帝が (der Kaiser) それを (es)註5 欲する (will) 時は (wenn) 今や (nun) 程なく (bald) 戰爭に (in den Krieg) 行か (gehen) なければならぬ (müssen) 17. 彼は (一つ目の er) たとへ (noch) 如何程 (so sehr...wie er will)註1 勵まう (arbeiten) とも (mag) 彼の著書は (seine Werke) 矢張り (doch) 大なる意義を持たない (sind von keiner großen Bedeutung) 18. 此の年老いたる、病氣の詩人の (dieses alten kranken Dichters) 作品は (das Werk) 大なる價値を持つ (ist von großem Wert) 19. 老いたる詩人 (der Dichter) と (und) 善良なる將軍とは (der gute General) 今や (nun) しづかに (ruhig) 彼等の美しい、暖かき故鄕に (in ihrer schönen, warmen Heimat) 住む (leben) 20. 此の小さな少年は (dieser kleine Knabe) 常に (immer) 勤勉に (mit Fleiß)註6 働く (arbeitet); 彼の貧乏な父は (sein armer Vater) 彼 (er) 及び (und) 彼の息子が (sein Sohn) 程なく (bald) 彼等自身の家に (in ihrem eigenen Hause) 住む (wohnen) であらう (werden) と (daß) 主張してゐる (behauptet)

21. Welches ist das größte Werk dieses berühmten Dichters? 22. Im kleinen Zimmer unseres armen Dieners steht ein ganz kleines, leichtes Bett. 23. Unsere Hausmagd ist noch ganz klein, sie hat nur ganz leichte Arbeit zu tun. 24. Vor unserer kleinen

Stadt liegen viele berühmte Gärten und Landhäuser. 25. Ihre
シュタット リーゲン フィーレ ベリュームテ ゲルテン ウント ラントホイゼル イーレ
kranken, alten Eltern wohnen jetzt nur auf dem Lande.
クランケン アルテン エルテルン ヴォーネン イエツト ヌール アウフ デム ランデ

【譯】 21. 此の名高い詩人の (dieses berühmten Dichters) 最も偉大なる作品は (das größte Werk) どれで (welches)註7 あるか (ist)? 22. 吾々の貧しき下僕の (unseres armen Dieners) 小さな部屋の中に (im kleinen Zimmer) 一つの全く小さな、輕いベットが (ein ganz kleines, leichtes Bett) 立つてゐる (steht) 23. 我々の家婢は (unsere Hausmagd) まだ (noch) 全く (ganz) 小さく (klein) ある (ist) 彼女は (sie) 爲すべく (zu tun) ただ (nur) 全く易い仕事を (ganz leichte Arbeit) 持つ (hat) 24. 我々の小さな市の前に (vor unserer kleinen Stadt) 多くの名高い庭園別莊が (viele berühmte Gärten und Landhäuser) 横たはる (liegen) 25. 貴君の病氣の、老いたる兩親は (Ihre kranken, alten Eltern) 今は (jetzt) 田舍に (auf dem Lande)註8 ばかり (nur) 住む (wohnen)

26. Dieses Jahr wird der Sohn unseres Lehrers nicht auf das
ディーゼス ヤール ヴィルト デル ゾーン ウンゼレス レーレルス ニヒト アウフ ダス
Land gehen, weil sein Vater ihn viel arbeiten läßt. 27. Man
ラント ゲーエン ヴァイル ザイン ファーテル イーン フィール アルバイテン レスト マン
muß den Tag nicht vor dem Abend loben, sagen die alten Leute.
ムス デン ターク ニヒト フォール デム アーベント ローベン ザーゲン ディー アルテン ロイテ
28. Ich will meinen alten Vater fragen, ob ich heute aus dem
イヒ ヴィル マイネン アルテン ファーテル フラーゲン オプ イヒ ホイテ アウス デム
Hause gehen darf. 29. Du darfst noch nicht rauchen, weil Du
ハウゼ ゲーエン ダルフ ドゥー ダルフスト ノホ ニヒト ラウヘン ヴァイル ドゥー
noch ein kleines Kind bist. 30. Wenn wir mit Ernst und Fleiß
ノホ アイン クライネス キント ビスト ヴェン ヴィール ミット エルンスト ウント フライス
arbeiten wollen, so werden uns unsere Eltern die schönen Werke
アルバイテン ヴォレン ゾー ヴェールデン ウンス ウンゼレ エルテルン ディー シェーネン ヴェルケ
jenes berühmten Dichters schenken.
イェーネス ベリュームテン ディヒテルス シェンケン

【譯】 26. 今年 (dieses Jahr) 我々の先生の (unseres Lehrers) 息子は (der Sohn) 彼の父が (sein Vater) 彼をして (ihn) 多く (viel) 働かゝ (arbeiten) しめる (läßt) から (weil) 田舍へ (auf das Land)註8 行かゝ (gehen) ない (nicht) でせう (wird) 27. 人は (man) 日を (den Tag) 晩より前に (vor dem Abend) 褒めてはならぬ (muß nicht loben) と、老人達は (die alten Leute) 云ふ (sagen)註9

28. 私は (二つ目の ich) 今日 (heute) 家から〔外へ〕 (aus dem Hause) 行つて (gehen) もよい (darf) かと (ob) 私は (ich) 私の老父に (meinen alten Vater) 問はうと (fragen) 思ふ (will) 29. 君は (二つ目の Du) まだ (noch) 小さな子供で (ein kleines Kind) ある (bist) から (weil) 君は (Du) まだ (noch) 喫烟し (rauchen) てはならない (darfst nicht) 30. 我々が (wir) 眞面目 (Ernst) と (und) 勤勉とを (Fleiß) 以て (mit) 働かうと (arbeiten) 欲する (wollen) 時は (wenn) その時には (so) 我々の兩親は (unsere Eltern) 我々に (uns) 彼の名高い詩人の (jenes berühmten Dichters) 立派な作品を (die schönen Werke) 贈る (schenken) であらう (werden)

31. In einer großen Stadt dürfen die Leute nicht auf den
イン アイネル グロッセン シュタット デュルフェン ディー ロイテ ニヒト アウフ デン
Straßen stehen bleiben. 32. Wenn schwere Zeiten kommen, so
シュトラーセン シュテーエン ブライベン ヴェン シュヴェーレ ツァイテン コムメン ゾー
werden die armen Arbeiter keine Arbeit bekommen können. 33.
ヴェールデン ディー アルメン アルバイター カイネ アルバイト ベコムメン ケンネン
Kennst Du jenes berühmte Wort des größten Dichters in Deutsch-
ケンスト ドゥー イェーネス ベリュームテ ヴォルト デス グレーステン ディヒテルス イン ドイチュ
land, liebes Kind?
ラント リーベス キント

【譯】 31. 大なる市に於ては (in einer großen Stadt) 人々は (die Leute) 街道で (auf den Straßen) 立ちとどまつて (stehen bleiben) はならない (dürfen nicht) 32. 難しい時代が (schwere Zeiten) 來る (kommen) 時には (wenn) その時には (so) 貧しき勞働者は (die armen Arbeiter) 一つの仕事をも (keine Arbeit) 得ることは (bekommen) 出來 (können) 〔ない〕 であらう (werden) 33. 君は (Du) 獨逸に於ける (in Deutschland) 最大の詩人の (des größten Dichters) かの名高き言葉を (jenes berühmte Wort) 識つてゐますか (kennst)? 親愛なる子供よ (liebes Kind)

【註】 〔1〕 so.....wie er will は「彼が〔=冬が〕欲する丈、いくらでも」の意。mag kalt sein は「寒くあつてもかまはない」の意。so sehr.....wie er will も、上の場合と同樣で「彼が欲する丈如何程でも」(so sehr.....wie)」の意。

〔2〕 dann auch「然る後と雖もなほ」は「家へ歸つてからもまだ」の意。

〔3〕 ein ganz kleiner Garten は「一つの全く小さな園」で「一つの全部の小さな園」

ではない。後者の場合であるとするなら ganzer と語尾が附かなければならない。ganz が無語尾なる事は、之れが形容詞でなくて、形容詞 klein の意味を修飾する副詞であることの證です。即ち附加語的形容詞は、いくつ名詞の前に羅列されても、同等の資格を以つて變化語尾を附ける事になつてゐます。

〔4〕 in diesem の diesem は in に支配されてゐて、三格になつてゐますが、扨て、一格は？〔此の疑問は diesem を三格にするものが二つあるから起るのです〕男性の dieser か、中性 dieses か、の問題に逢着することとなります。こんな簡單な文章では、それが何の代名詞なるかは、直ぐに判りますが、少し複雜な文章になりますと、ちよつと見當のつかない場合がよくあります。意味の上から、その正體を探す必要も勿論ありますが、こゝでは文法的に搜索方法を述べませう。〔一般的には男性を以て說明します〕。先づ dieser の存在する箇所から、元へ逆行して、最初に出會ふ之れ (dieser) と性と數とを同じくするものを代表することになります。〔14〕の際は直ぐ鼻先にあります。從つて diesem の一格は dieser 即ち der Garten の代名詞と云ふ事になります。此の dieser は指示代名詞なる事は、既にお判りの事と思ひます。

〔5〕 es は、in den Krieg gehen といふ意を受ける。

〔6〕 mit Fleiß は「勤勉を以て」と譯しても少しも差支ありません。

〔7〕 welches は das Werk と倆し、性が一致してゐますが、別に Werk によつての變化ではなく、斯ういふ場合の welches は、何時も —es の變化です。

〔例〕 Welches ist dein Name〔男性〕? 「君の名は何と云ふか」。
Welches sind Ihre Kinder〔中性、複數〕? 「どれが貴君の子供達か」。

〔8〕 auf dem Land, auf das Land の如く、Land が「田舍」の意味を持つ時は auf の前置詞を用ゐる。

〔9〕 Man muß den Tag nicht vor dem Abend loben. は諺で、「凡そ何事と雖も、愈々終つてしまつた後でなければうつかり樂觀はできないものだ」の意。

文法講座目次

第一卷

第一講 文字に就て

頁

1. 書體 … … … … … … … … … … … … … … … 1
2. ſ [f] と ſ [s] … … … … … … … … … … … … … 4
3. ſ と ß … … … … … … … … … … … … … … 4
4. ℑ と ℑ … … … … … … … … … … … … … … 5
5. u … … … … … … … … … … … … … … … 5
6. ß に就て … … … … … … … … … … … … … … 5
7. 書例 … … … … … … … … … … … … … … … 5

第二講 發音に就て

8. 獨逸語の發音は大體ローマ字の通り … … … … … … … … 6
9. ei [アイ] と ie [イー] … … … … … … … … … … … 8
10. eu [オイ] … … … … … … … … … … … … … … 9
11. ä [エー] … … … … … … … … … … … … … … 9
12. ö [エー] … … … … … … … … … … … … … … 10
13. ü [ユー] … … … … … … … … … … … … … … 10
14. äu [オイ] … … … … … … … … … … … … … … 11
15. au [アウ] ai [アイ] ui [ウイ] … … … … … … … … … 12
16. ach [アハ] och [オホ] uch [ウフ] … … … … … … … … 12
17. a, o, u 以外の次に來る ch … … … … … … … … … … 13
18. -ig [イヒ] … … … … … … … … … … … … … 15
19. j＝英語の y … … … … … … … … … … … … … 15
20. w＝英語の v … … … … … … … … … … … … … 16
21. z＝英語の ts … … … … … … … … … … … … … 16
22. ß＝獨逸語の ss … … … … … … … … … … … … … 17
23. tsch＝英語の ch … … … … … … … … … … … … 18
24. sch＝英語の sh … … … … … … … … … … … … 18
25. ß＝濁らない s … … … … … … … … … … … … 19

頁
26. v=f … … … … … … … … … … … … … … 19
27. pf=[ブ] と [フ] の中間音… … … … … … … … … 20
28. qu=kw … … … … … … … … … … … … … 21
29. 最後に來る濁音は清音となる。 (d=t; g=k, b=p) … … … 22
30. s は母音の前では濁、後では清 … … … … … … … … 23
31. 頭音の st=scht, sp=schp … … … … … … … … … 24
32. 尾音の h は發音せず … … … … … … … … … … 25
33. 語末の g は ch に讀むも可なり… … … … … … … … 25
34. -chs=x … … … … … … … … … … … … … 26
35. -tia=zia, -tio=zio, -tie=zie… … … … … … … … … 27
36. 拉丁系の ca, ci, cu, ce, co 等はすべて ka, zi, ku, ze, ko と書換へる … … … … … … … … … … … … … 27
37. 其他の規則 … … … … … … … … … … … … 28

發 音 練 習

第三講 動詞の不定法と人稱變化

38. 不定法とは何ぞや? … … … … … … … … … … 33
39. 不定法の語尾 … … … … … … … … … … … … 33
40. 人稱變化 … … … … … … … … … … … … … 36
41. 敬稱 … … … … … … … … … … … … … … 36
42. 人稱變化した形の事を定形 (verbum finitum) と呼ぶ … … … 37
43. 名詞は文章の中途でも頭文字 … … … … … … … 38

第四講 名詞の性、數、格

44. 性とは何ぞや? … … … … … … … … … … … 39
45. 男性語尾の主なるものは? … … … … … … … … 40
46. 女性語尾の主なるものは? … … … … … … … … 41
47. 中性語尾の主なるものは? … … … … … … … … 43
48. 複合名詞の性は最後の名詞で定める … … … … … … 45
49. 數に就て … … … … … … … … … … … … … 55
50. 格に就て … … … … … … … … … … … … … 46
51. 格變化の一例 … … … … … … … … … … … … 48
52. 格變化を知る上の要件 … … … … … … … … … … 48

第五講 定冠詞その他

頁
53. 定冠詞一覽 … … … … … … … … … … … … … 50
54. 指示詞と疑問詞 … … … … … … … … … … … 51
55. 之れを稱して强語尾と謂ふ … … … … … … … … … 51
56. 一例、dieser の格變化 … … … … … … … … … … 52
57. sein [英 to be] の人稱變化… … … … … … … … … 53

第六講 不定冠詞その他

58. 定冠詞と不定冠詞との意味の區別 … … … … … … … 55
59. 不定冠詞の變化 … … … … … … … … … … … 55
60. 之れを稱して不完全强語尾と謂ふ … … … … … … … 56
61. 物主代名詞其他 … … … … … … … … … … … 56
62. 一例、sein [英 his] の格變化 … … … … … … … … 57
63. unser (我等の) と euer (汝等の)… … … … … … … … 59
64. 紛らはしき場合 … … … … … … … … … … … 59
65. haben [英 have] の人稱變化 … … … … … … … … 59

第七講 單數の格變化

66. 單數格變化の圖式 … … … … … … … … … … … 61
67. 格變化の例 … … … … … … … … … … … … 62
68. 奇問百出 … … … … … … … … … … … … … 64
69. 男性弱變化名詞に就て … … … … … … … … … … 65

第八講 簡單な文章の構成法

70. 語順 … … … … … … … … … … … … … … 68
71. 二格の附け方 … … … … … … … … … … … … 68
72. 倒置法 (1) Hast du ein Buch?… … … … … … … … 68
73. 倒置法 (2) Hast du Mut, so komm! … … … … … … 69
74. 倒置法 (3) Heute kommt er. … … … … … … … … 69
75. 助動詞の用法 … … … … … … … … … … … … 66
76. werden と wollen … … … … … … … … … … … 70
77. werden の三つの用法 … … … … … … … … … … 70
78. 助動詞ある際の語順 … … … … … … … … … … 71
79. 配語法の練習 … … … … … … … … … … … … 71